
AX3640S ソフトウェアマニュアル
メッセージ・ログレファレンス
Ver. 11.14 対応 Rev.1

AX36S-S008-K0

■ 対象製品

このマニュアルは AX3640S を対象に記載しています。また、ソフトウェア Ver. 11.14 の機能について記載しています。ソフトウェア機能は、ソフトウェア OS-L3A, OS-L3L, およびオプションライセンスによってサポートする機能について記載します。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標一覧

Cisco は、米国 Cisco Systems, Inc. の米国および他の国々における登録商標です。

Ethernet は、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

IPX は、Novell, Inc. の商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Octpower は、日本電気（株）の登録商標です。

OpenSSL は、米国およびその他の国における米国 OpenSSL Software Foundation の登録商標です。

RSA および RC4 は、米国およびその他の国における米国 EMC Corporation の登録商標です。

sFlow は、米国およびその他の国における米国 InMon Corp. の登録商標です。

ssh は、SSH Communications Security, Inc. の登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

VitalQIP, VitalQIP Registration Manager は、アルカテル・ルーセントの商標です。

VLANaccessClient は、NEC ソリューションイノベーション株式会社の登録商標です。

VLANaccessController, VLANaccessAgent は、NEC の商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

そのほかの記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

■ ご注意

このマニュアルの内容については、改良のため、予告なく変更する場合があります。

■ 発行

2020年 9月（第21版） AX36S-S008-K0

■ 著作権

All Rights Reserved, Copyright(C), 2005, 2020, ALAXALA Networks, Corp.

変更内容

【Ver. 11.12 対応版】

AX3630S の記述を削除しました。

表 変更内容

項目	追加・変更内容
イベント発生部位 = VLAN (GSRP)	仮想 MAC アドレス学習用フレームの収容条件超過に関するログを追加しました。

【Ver. 11.7 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
ログの確認	トラッキングオブジェクトログの記述を追加しました。
イベント発生部位 = SOFTWARE	- ポリシーベースルーティングのログを追加しました。 - ポリシーベースルーティングのトラッキング機能のログを追加しました。
トラッキングオブジェクトログ	本章を追加しました。

【Ver. 11.6 対応版】

AX3650S の記述は AX3800S・AX3650S ソフトウェアマニュアルに収録しました。

【Ver. 11.5 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
RIP	VRF の記述を追加しました。
OSPF	VRF の記述を追加しました。
BGP4	VRF の記述を追加しました。
IPv4 ユニキャストルーティングプロトコル 共通	VRF 関連のログを追加しました。
OSPFv3	VRF の記述を追加しました。
BGP4+	VRF の記述を追加しました。
IPv6 ユニキャストルーティングプロトコル 共通	VRF 関連のログを追加しました。
IPv4 マルチキャストルーティング情報 (MRP)	VRF 関連のログを追加しました。
IPv6 マルチキャストルーティング情報 (MR6)	VRF 関連のログを追加しました。
イベント発生部位 = ACCESS	VRF の記述を追加しました。
イベント発生部位 = IP	VRF 関連のログを追加しました。
イベント発生部位 = SOFTWARE	- VRF の記述を追加しました。 - IPv4 マルチキャスト関連のログを追加しました。

項目	追加・変更内容
	- IPv6 マルチキャスト関連のログを追加しました。 - 装置の管理関連のログを追加しました。
イベント発生部位 = EQUIPMENT	装置の管理関連のログを追加しました。
イベント発生部位 = FAN	AX3650S 関連の記述を追加しました。

【Ver. 11.4 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
イベント発生部位 = VLAN (Ring Protocol)	多重障害監視機能に関するログを追加しました。
イベント発生部位 = SOFTWARE	- IPv6 DHCP リレーに関するログを追加しました。 - 省電力に関するログを追加しました。 - DHCP snooping に関するログを追加しました。
イベント発生部位 = ULR	自動切り戻しに関するログを追加しました。

【Ver. 11.2 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
イベント発生部位 = VLAN (Ring Protocol)	経路切り戻し抑止機能に関するログを追加しました。
イベント発生部位 = SOFTWARE	VRRP のトラッキング機能に関するログを追加しました。
イベント発生部位 = ULR	本項を追加しました。

【Ver. 11.1 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
RIP	認証に関するログを追加・変更しました。
イベント発生部位 = VLAN (CFM)	本項を追加しました。

【Ver. 11.0 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
イベント発生部位 = VLAN	汎用 Flush Request フレーム受信による MAC アドレステーブルクリア時のログを追加しました。
イベント発生部位 = SOFTWARE	最大マルチパス数の設定に関するログを追加しました。

【Ver. 10.8 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
イベント発生部位 = VLAN	メッセージ識別子 25100031 のログを削除しました。
イベント発生部位 = VLAN (GSRP)	自動マスタ遷移待ち時間が経過したときのログを追加しました。
イベント発生部位 = SOFTWARE	- IEEE802.1X に関するログの説明文を修正しました。 - Web 認証に関するログの説明文を修正しました。 - MAC 認証に関するログの説明文を修正しました。 - CPU 宛てのパケットキューイングに関するログを追加しました。
イベント発生部位 = SOFTWARE (認証 VLAN)	認証 VLAN に関するログの説明文を修正しました。

【Ver. 10.7 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
BGP4	BGP4 に関するログを追加しました。
BGP4+	BGP4+に関するログを追加しました。
PIM-SM	Register パケットに関するログを変更しました。
イベント発生部位 = VLAN	Ring Protocol とマルチプルスパニングツリーの併用動作に関連する記述を変更しました。
イベント発生部位 = VLAN (GSRP)	Ring Protocol と GSRP の併用動作に関連する記述を変更しました。
イベント発生部位 = VLAN (L2 ループ検知)	本項を追加しました。
イベント発生部位 = SOFTWARE	L2 ループ検知に関するログを追加しました。

【Ver. 10.6 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
イベント発生部位 = SOFTWARE	MAC 認証関連のログを追加しました。

【Ver. 10.4 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
イベント発生部位 = VLAN (Ring Protocol)	本項を追加しました。
イベント発生部位 = SOFTWARE	- sFlow 統計関連のログを追加しました。 - Ring Protocol 関連のログを追加しました。

【Ver. 10.3 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
イベント発生部位=ACCESS	- ローカルコマンド承認関連のログを追加しました。 - 一部の RADIUS/TACACS+の付加情報上位 4 桁を変更しました。
イベント発生部位=VLAN	ルートガード機能使用時, BPDU を受信したときのログを追加しました。
イベント発生部位=SOFTWARE	- IEEE802.3ah/UDLD 関連のログを追加しました。 - マルチキャスト関連のログを追加しました。 - Web 認証関連のログを追加しました。
イベント発生部位=SOFTWARE (認証 VLAN)	認証 VLAN 関連のログを追加しました。
イベント発生部位=PORT	- IEEE802.3ah/UDLD 関連のログを追加しました。 - 片方向リンク障害の検出関連のログを追加しました。

【Ver. 10.2 対応版】

表 変更内容

項目	追加・変更内容
ログのコード情報	イベント発生部位の識別子を LINE から PORT に変更しました。
OSPF	新規ログメッセージ (項番 12) を追加しました。
BGP4	新規ログメッセージ (項番 89~95, 100~102) を追加しました。
OSPFv3	新規ログメッセージ (項番 12) を追加しました。
BGP4+	新規ログメッセージ (項番 86~92, 97~99) を追加しました。
イベント発生部位 = CONFIG	- 項番 1~3 のメッセージ識別子を変更しました。 - 新規ログメッセージ (項番 4) を追加しました。
イベント発生部位 = VLAN	- メッセージ識別子 20110030 のログメッセージを削除しました。 - 新規ログメッセージ (項番 37, 38, 45, 46) を追加しました。 - メッセージ中の NIF を NIF No.に, Line を Port No.に変更しました。
イベント発生部位 = MAC	メッセージ中の NIF を NIF No.に, Line を Port No.に変更しました。
イベント発生部位 = SOFTWARE	- メッセージ識別子 00005007, 00005017 のログメッセージを削除しました。 - 新規ログメッセージ (項番 13, 14, 15, 42, 43, 44, 69, 93, 94, 116, 117) を追加しました。 - 項番 85, 113 のメッセージ識別子を変更しました。
イベント発生部位 = PORT	- イベント発生部位の識別子を LINE から PORT に変更しました。 - 新規ログメッセージ (項番 2, 4, 22~30) を追加しました。 - 項番 1, 3, 6~17, 19~21, 31~33 のログメッセージを変更しました。
イベント発生部位 = PS	新規ログメッセージ (項番 1, 3, 6) を追加しました。
イベント発生部位=EQUIPMENT	新規ログメッセージ (項番 1) を追加しました。
イベント発生部位=FAN	本項を追加しました。

はじめに

■ 対象製品およびソフトウェアバージョン

このマニュアルは AX3640S を対象に記載しています。また、ソフトウェア Ver. 11.14 の機能について記載しています。ソフトウェア機能は、ソフトウェア OS-L3A, OS-L3L, およびオプションライセンスによってサポートする機能について記載します。

操作を行う前にこのマニュアルをよく読み、書かれている指示や注意を十分に理解してください。また、このマニュアルは必要なときにすぐ参照できるよう使いやすい場所に保管してください。

なお、このマニュアルでは特に断らないかぎり、各ソフトウェアで共通の機能について記載します。OS-L3A および OS-L3L で共通でない機能については以下のマークで示します。

【OS-L3A】：

OS-L3A についての記述です。

また、オプションライセンスでサポートする機能については以下のマークで示します。

【OP-DH6R】：

オプションライセンス OP-DH6R についての記述です。

【OP-OTP】：

オプションライセンス OP-OTP についての記述です。

【OP-VAA】：

オプションライセンス OP-VAA についての記述です。

■ このマニュアルの訂正について

このマニュアルに記載の内容は、ソフトウェアと共に提供する「リリースノート」および「マニュアル訂正資料」で訂正する場合があります。

■ 対象読者

本装置を利用したネットワークシステムを構築し、運用するシステム管理者の方を対象としています。

また、次に示す知識を理解していることを前提としています。

- ネットワークシステム管理の基礎的な知識

■ このマニュアルの URL

このマニュアルの内容は下記 URL に掲載しております。

<https://www.alaxala.com/>

■ マニュアルの読書手順

本装置の導入、セットアップ、日常運用までの作業フローに従って、それぞれの場合に参照するマニュアルを次に示します。

●装置の開梱から、初期導入時の基本的な設定を知りたい

クイックスタートガイド

(AX36S-Q001)

●ハードウェアの設備条件、取扱方法を調べる

ハードウェア取扱説明書

(AX36S-H001)

●ソフトウェアの機能、
コンフィグレーションの設定、
運用コマンドについての確認を知りたい

コンフィグレーションガイド
Vol. 1

(AX36S-S001)

Vol. 2

(AX36S-S002)

Vol. 3

(AX36S-S003)

●コンフィグレーションコマンドの
入力シンタックス、パラメータ詳細
について知りたい

コンフィグレーション
コマンドレファレンス
Vol. 1

(AX36S-S004)

Vol. 2

(AX36S-S005)

●運用コマンドの入力シンタックス、
パラメータ詳細について知りたい

運用コマンドレファレンス
Vol. 1

(AX36S-S006)

Vol. 2

(AX36S-S007)

●メッセージとログについて調べる

メッセージ・ログレファレンス

(AX36S-S008)

●MIBについて調べる

MIBレファレンス

(AX36S-S009)

●トラブル発生時の対処方法について
知りたい

トラブルシューティングガイド

(AX36S-T001)

■ このマニュアルでの表記

AC	Alternating Current
ACK	ACKnowledge
ADSL	Asymmetric Digital Subscriber Line
ALG	Application Level Gateway
ANSI	American National Standards Institute
ARP	Address Resolution Protocol
AS	Autonomous System
AUX	Auxiliary
BGP	Border Gateway Protocol
BGP4	Border Gateway Protocol - version 4
BGP4+	Multiprotocol Extensions for Border Gateway Protocol - version 4

bit/s	bits per second	*bpsと表記する場合があります。
BPDU	Bridge Protocol Data Unit	
BRI	Basic Rate Interface	
CA	Certificate Authority	
CBC	Cipher Block Chaining	
CC	Continuity Check	
CDP	Cisco Discovery Protocol	
CFM	Connectivity Fault Management	
CIDR	Classless Inter-Domain Routing	
CIR	Committed Information Rate	
CIST	Common and Internal Spanning Tree	
CLNP	ConnectionLess Network Protocol	
CLNS	ConnectionLess Network System	
CONS	Connection Oriented Network System	
CRC	Cyclic Redundancy Check	
CSMA/CD	Carrier Sense Multiple Access with Collision Detection	
CSNP	Complete Sequence Numbers PDU	
CST	Common Spanning Tree	
DA	Destination Address	
DC	Direct Current	
DCE	Data Circuit terminating Equipment	
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol	
DIS	Draft International Standard/Designated Intermediate System	
DNS	Domain Name System	
DR	Designated Router	
DSA	Digital Signature Algorithm	
DSAP	Destination Service Access Point	
DSCP	Differentiated Services Code Point	
DTE	Data Terminal Equipment	
DVMRP	Distance Vector Multicast Routing Protocol	
E-Mail	Electronic Mail	
EAP	Extensible Authentication Protocol	
EAPOL	EAP Over LAN	
EFM	Ethernet in the First Mile	
ES	End System	
FAN	Fan Unit	
FCS	Frame Check Sequence	
FDB	Filtering DataBase	
FQDN	Fully Qualified Domain Name	
FTTH	Fiber To The Home	
GBIC	GigaBit Interface Converter	
GCM	Galois/Counter Mode	
GSRP	Gigabit Switch Redundancy Protocol	
HMAC	Keyed-Hashing for Message Authentication	
HTTP	Hypertext Transfer Protocol	
HTTPS	Hypertext Transfer Protocol Secure	
IANA	Internet Assigned Numbers Authority	
ICMP	Internet Control Message Protocol	
ICMPv6	Internet Control Message Protocol version 6	
ID	Identifier	
IEC	International Electrotechnical Commission	
IEEE	Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.	
IETF	the Internet Engineering Task Force	
IGMP	Internet Group Management Protocol	
IP	Internet Protocol	
IPCP	IP Control Protocol	
IPv4	Internet Protocol version 4	
IPv6	Internet Protocol version 6	
IPv6CP	IP Version 6 Control Protocol	
IPX	Internetwork Packet Exchange	
ISO	International Organization for Standardization	
ISP	Internet Service Provider	
IST	Internal Spanning Tree	
L2LD	Layer 2 Loop Detection	
LAN	Local Area Network	
LCP	Link Control Protocol	
LED	Light Emitting Diode	
LLC	Logical Link Control	
LLDP	Link Layer Discovery Protocol	
LLQ+3WFQ	Low Latency Queueing + 3 Weighted Fair Queueing	
LSP	Label Switched Path	
LSP	Link State PDU	
LSR	Label Switched Router	
MA	Maintenance Association	

MAC	Media Access Control
MC	Memory Card
MD5	Message Digest 5
MDI	Medium Dependent Interface
MDI-X	Medium Dependent Interface crossover
MEP	Maintenance association End Point
MIB	Management Information Base
MIP	Maintenance domain Intermediate Point
MLD	Multicast Listener Discovery
MRU	Maximum Receive Unit
MSTI	Multiple Spanning Tree Instance
MSTP	Multiple Spanning Tree Protocol
MTU	Maximum Transfer Unit
NAK	Not Acknowledge
NAS	Network Access Server
NAT	Network Address Translation
NCP	Network Control Protocol
NDP	Neighbor Discovery Protocol
NET	Network Entity Title
NLA ID	Next-Level Aggregation Identifier
NPDU	Network Protocol Data Unit
NSAP	Network Service Access Point
NSSA	Not So Stubby Area
NTP	Network Time Protocol
OADP	Octpower Auto Discovery Protocol
OAM	Operations, Administration, and Maintenance
OSPF	Open Shortest Path First
OUI	Organizationally Unique Identifier
packet/s	packets per second *ppsと表記する場合があります。
PAD	PADding
PAE	Port Access Entity
PC	Personal Computer
PCI	Protocol Control Information
PDU	Protocol Data Unit
PGP	Pretty Good Privacy
PICS	Protocol Implementation Conformance Statement
PID	Protocol Identifier
PIM	Protocol Independent Multicast
PIM-DM	Protocol Independent Multicast-Dense Mode
PIM-SM	Protocol Independent Multicast-Sparse Mode
PIM-SSM	Protocol Independent Multicast-Source Specific Multicast
PRI	Primary Rate Interface
PS	Power Supply
PSNP	Partial Sequence Numbers PDU
QoS	Quality of Service
QSFP+	Quad Small Form factor Pluggable Plus
RA	Router Advertisement
RADIUS	Remote Authentication Dial In User Service
RDI	Remote Defect Indication
REJ	REject
RFC	Request For Comments
RIP	Routing Information Protocol
RIPng	Routing Information Protocol next generation
RMON	Remote Network Monitoring MIB
RPF	Reverse Path Forwarding
RQ	ReQuest
RSTP	Rapid Spanning Tree Protocol
SA	Source Address
SD	Secure Digital
SDH	Synchronous Digital Hierarchy
SDU	Service Data Unit
SEL	NSAP SElector
SFD	Start Frame Delimiter
SFP	Small Form factor Pluggable
SFP+	Enhanced Small Form factor Pluggable
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SNAP	Sub-Network Access Protocol
SNMP	Simple Network Management Protocol
SNP	Sequence Numbers PDU
SNPA	Subnetwork Point of Attachment
SPF	Shortest Path First
SSAP	Source Service Access Point
SSH	Secure Shell
SSL	Secure Socket Layer

STP	Spanning Tree Protocol
TA	Terminal Adapter
TACACS+	Terminal Access Controller Access Control System Plus
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
TLA ID	Top-Level Aggregation Identifier
TLV	Type, Length, and Value
TOS	Type Of Service
TPID	Tag Protocol Identifier
TTL	Time To Live
UDLD	Uni-Directional Link Detection
UDP	User Datagram Protocol
UPC	Usage Parameter Control
UPC-RED	Usage Parameter Control - Random Early Detection
VAA	VLAN Access Agent
VLAN	Virtual LAN
VPN	Virtual Private Network
VRRP	Virtual Router Redundancy Protocol
WAN	Wide Area Network
WDM	Wavelength Division Multiplexing
WFQ	Weighted Fair Queueing
WRED	Weighted Random Early Detection
WS	Work Station
WWW	World-Wide Web
XFP	10 gigabit small Form factor Pluggable

■ KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1024 バイト、 1024^2 バイト、 1024^3 バイト、 1024^4 バイトです。

目次

1	運用メッセージ	1
1.1	運用メッセージ	2
1.1.1	メッセージの種類	2
1.1.2	メッセージ種別	2
1.1.3	メッセージの出力	3
1.1.4	運用ログと種別ログ	3
1.1.5	リモートサーバへの出力	5
1.1.6	システムメッセージトラップ	6
1.2	イベント発生部位形式	7
1.2.1	画面出力時のフォーマット	7
1.2.2	運用ログのフォーマット	7
1.2.3	種別ログのフォーマット	7
1.2.4	イベントレベル	8
1.2.5	イベント発生部位	9
1.2.6	イベント発生インタフェース識別子	9
1.3	メッセージテキスト形式	11
1.3.1	画面出力時のフォーマット	11
1.3.2	運用ログのフォーマット	11

2	イベント発生部位形式	13
2.1	EQUIPMENT	14
2.2	PS	18
2.3	FAN	20
2.4	SOFTWARE	21
2.4.1	0000XXXX	21
2.4.2	01XXXXXX	23
2.4.3	02XXXXXX	25
2.4.4	03XXXXXX-09XXXXXX	28
2.4.5	0dXXXXXX-0fXXXXXX	30
2.4.6	11XXXXXX-1fXXXXXX	38
2.4.7	20XXXXXX-2aXXXXXX	41
2.4.8	30XXXXXX-32XXXXXX	49
2.5	SOFTWARE (認証 VLAN) 【OP-VAA】	52
2.6	CONFIG	54
2.7	ACCESS	56
2.8	PORT	62

2.9	MAC	68
2.10	VLAN	73
2.10.1	2011XXXX	73
2.10.2	2013XXXX (GSRP)	82
2.10.3	2017XXXX (Ring Protocol)	86
2.10.4	2080XXXX (L2 ループ検知)	88
2.10.5	2090XXXX (CFM)	90
2.10.6	2110XXXX-2120XXXX	92
2.10.7	2510XXXX	94
2.11	ULR	97
2.12	IP	103

3

	メッセージテキスト形式	109
3.1	トラッキングオブジェクトログ(TRO) 【OS-L3A】	110
3.2	IPv4 ルーティングプロトコル情報(RTM)	111
3.2.1	RIP	111
3.2.2	OSPF 【OS-L3A】	115
3.2.3	BGP4 【OS-L3A】	119
3.2.4	IPv4 ユニキャストルーティングプロトコル共通	143
3.3	IPv6 ルーティングプロトコル情報(RTM)	145
3.3.1	RIPng	145
3.3.2	OSPFv3 【OS-L3A】	147
3.3.3	BGP4+ 【OS-L3A】	152
3.3.4	IPv6 ユニキャストルーティングプロトコル共通	174
3.4	IPv6 ルーティング情報(RTM)	175
3.4.1	RA	175
3.5	IPv4 マルチキャストルーティング情報(MRP)	178
3.5.1	PIM-SM	178
3.6	IPv6 マルチキャストルーティング情報(MR6)	185
3.6.1	IPv6 PIM-SM	185

索引

1 運用メッセージ

1.1 運用メッセージ

本装置が出力する、動作状態の変化や障害情報など、管理者に通知することを目的とした情報を運用メッセージと呼びます。運用メッセージは、ログとして装置内に保存するほか、運用端末や syslog サーバへ出力できます。この情報で装置の運用状態を管理できます。

1.1.1 メッセージの種類

本装置が出力するメッセージの種類と参照先を、次の表に示します。メッセージの種類のうち、本装置が出力する装置や機能の情報を運用メッセージと呼びます。

表 1-1 メッセージの種類と参照先

メッセージの種類		参照先
コンフィグレーションエラーメッセージ		「コンフィグレーションコマンドレファレンス」の「コンフィグレーション編集時のエラーメッセージ」
コマンド応答メッセージ		「運用コマンドレファレンス」の各コマンドの「応答メッセージ」
運用メッセージ	イベント発生部位形式	「2 イベント発生部位形式」
	動作ログメッセージ形式	「運用コマンドレファレンス」の次に示すコマンドの動作ログメッセージ • show dot1x logging • show web-authentication logging • show mac-authentication logging • show ip dhcp snooping logging
	メッセージテキスト形式	「3 メッセージテキスト形式」

1.1.2 メッセージ種別

メッセージ種別は、運用メッセージのほか、ユーザのコマンド操作、コンフィグレーションのエラーメッセージやコマンド応答メッセージなどのメッセージを、内容によって分類する情報です。また、運用メッセージは出力する情報の形式によって分類できます。メッセージ種別一覧を次の表に示します。

表 1-2 メッセージ種別一覧

メッセージ種別	内容	運用メッセージの形式による分類
KEY	運用端末から入力したコマンド操作	—
RSP	コマンド入力に対して装置が出力するメッセージ	—
ERR	装置の各イベント発生部位の障害情報	イベント発生部位形式
EVT	装置の各イベント発生部位のイベント情報	
AUT	レイヤ 2 認証機能の各プログラムで採取する情報。対応する運用コマンドで表示。 • show dot1x logging	動作ログメッセージ形式

メッセージ種別	内容	運用メッセージの形式による分類
	- show web-authentication logging - show mac-authentication logging	
DSN	DHCP snooping で採取する情報。対応する運用コマンドで表示。 show ip dhcp snooping logging	
TRO	トラッキングオブジェクトログ 【OS-L3A】	メッセージテキスト形式
RTM	IPv4 ルーティング情報または IPv6 ルーティング情報	
MRP	IPv4 マルチキャストルーティング情報	
MR6	IPv6 マルチキャストルーティング情報	

(凡例) ○：該当しない

1.1.3 メッセージの出力

運用メッセージおよびそのほかのメッセージは、メッセージ種別によってサポートする出力方法が異なります。メッセージ種別ごとの出力方法を次の表に示します。

表 1-3 メッセージ種別ごとの出力方法

メッセージ種別	運用端末への出力	運用ログ	種別ログ	リモートサーバへの出力 (syslog,E-Mail)	システムメッセージ トラップ
KEY, RSP	○	○	×	○	×
ERR, EVT	○	○	○	○	○
AUT, DSN	×	×	×	○	×
TRO	×	○	×	○	×
RTM	○	○	×	○	×
MRP, MR6	×	○	×	○	×

(凡例)

- ：サポートする
- ×

1.1.4 運用ログと種別ログ

運用ログは、次に示す情報を発生順に保存し、show logging コマンドで表示できます。

- 入力したコマンド（メッセージ種別 KEY）
- コマンド入力に対して装置が出力するメッセージ（メッセージ種別 RSP）
- 運用メッセージ（ただし、メッセージ種別 AUT, DSN を除く）

なお、メッセージ種別 KEY および RSP の運用ログのフォーマットについては、「1.3.2 運用ログのフォーマット」を参照してください。

種別ログは、メッセージ種別 ERR および EVT の運用メッセージを対象に、メッセージ識別子ごとに分類した上で、同事象が最初に発生した日時および最後に発生した日時と累積回数を記録します。show logging コマンドで reference パラメータを指定して表示できます。

(1) ログの仕様

運用ログと種別ログの仕様を次の表に示します。

表 1-4 運用ログと種別ログの仕様

項目	運用ログ	種別ログ
ログの内容	発生したイベントを時系列に取得します。	同一のイベントにつき、最も古い発生時刻と最新の発生時刻、累積回数の統計情報を記録します。
対象とするメッセージ種別	- KEY, RSP - ERR, EVT - TRO, RTM, MRP, MR6	- ERR - EVT※
ログの取得数	- ログの取得数は 1500 エントリです。この内、先頭から 1000 エントリはすべてのログを時系列に保存します。 - 残り 500 エントリは上記 1000 エントリから溢れた古いログのうち、メッセージ種別が KEY, RSP, ERR, EVT のログだけ時系列に保存します。 1 エントリは 80 文字となります。取得したログが 100 文字の場合は 2 エントリ分となります。	ログ取得数は 500 エントリです。
ログの取得数オーバー処理	- ログ取得数が 1000 エントリを超えた場合は、溢れた古いログの種類により削除処理が異なります。 - 溢れた古いログのうち、メッセージ種別が KEY, RSP, ERR, EVT 以外のログは削除されます。 - 溢れた古いログのうち、メッセージ種別が KEY, RSP, ERR, EVT のログは、1001～1500 エントリに保存されます。1500 エントリを超えた場合は、古いログを削除します。	ログ取得数が 500 エントリを超えた場合は、新たに取得されたログよりもイベントレベルの低いログを削除して新しいログを取得します。ただし、新たに発生したイベントのレベルが E3 または E4 の場合は取得しません。

注※

イベントレベル R8～R5 の場合は取得しません。

(2) ログの自動保存

運用ログと種別ログは、次に示す契機で内蔵フラッシュメモリ上へ自動的に保存されます。またログの保存先を次の表に示します。なお、コンフィグレーションコマンド no logging syslog-dump を設定している場合は、次の 1.の契機にだけ自動的に保存されます。

ログを自動保存する契機

1. 本装置を起動させた場合

2. イベントレベル E9 から E5 の重度障害が発生した場合
3. 運用コマンドの reload コマンドにより装置の再起動を行った場合
4. ログインまたはログアウトを行った場合
5. ppupdate に伴う装置の再起動を行った場合
6. リセットスイッチを押して装置再起動を行った場合

表 1-5 ログの保存先

ログの種類	装置内メモリの保存先
運用ログ	/usr/var/log/system.log へ保存
種別ログ	/usr/var/log/error.log へ保存

(3) ログのファイル作成方法

運用ログおよび種別ログはファイルとして取り出せます。ファイルは show logging コマンド実行時にリダイレクト指定して作成します。show logging コマンド以外のコマンド出力結果をファイルとして取り出す場合も、同様にリダイレクト指定します。コマンドのリダイレクトによってファイルを作成する場合の格納ディレクトリを次の表に示します。

表 1-6 格納ディレクトリ

項目	格納ディレクトリ	備考
ユーザホームディレクトリ	/usr/home/<ユーザアカウント名>/	装置内メモリに格納
テンポラリディレクトリ	/tmp/	装置が電源断や reload コマンドによって停止した場合、格納ファイルは削除されます。

次に、show logging コマンドを実行し、ログ情報のバックアップを作成する例を示します。

運用ログを装置内メモリにバックアップ

```
> show logging > /usr/home/<ユーザアカウント名>/<ファイル名>
>
```

1.1.5 リモートサーバへの出力

本装置は、syslog 出力機能または E-Mail 送信機能によって、運用メッセージだけでなく、メッセージ種別で分類する各種メッセージをリモートサーバへ出力できます。詳細は、「コンフィグレーションガイド Vol.2」 「23 ログ出力機能」を参照してください。

- syslog 出力機能

syslog 出力機能を使用して、各種のメッセージをリモートサーバへ出力できます。ただし、syslog 出力機能ではフレームロスなどによって情報が紛失するおそれがあります。

- E-Mail 送信機能

E-Mail 送信機能を使用して、各種のメッセージをメールとして送信できます。この機能ではメールの受信には対応していません。この機能によって送付されたメールに対して返信すると、送信エラーになります。

1.1.6 システムメッセージトラップ

メッセージ種別 ERR または EVT の運用メッセージを、プライベートの SNMP 通知として送信できます。これを、システムメッセージトラップと呼びます。コンフィグレーションコマンド `snmp-server traps` で、SNMP 通知として送信する運用メッセージの重要度を指定できます。

1.2 イベント発生部位形式

1.2.1 画面出力時のフォーマット

画面出力時のフォーマットを次の図に示します。

図 1-1 画面出力時のフォーマット

mm/dd hh:mm:ss ee kkkkkkkk [iii. . . iii] xxxxxxx yyyy:yyyyyyyyyyyy ttt~ttt
1 2 3 4 5 6 7

1. 時刻：メッセージで示す事象の発生した時刻を月日時分秒で表示します。
2. イベントレベル
3. イベント発生部位
4. イベント発生インタフェース識別子（表示の有無はイベント部位に依存）
5. メッセージ識別子
6. 付加情報
7. メッセージテキスト

1.2.2 運用ログのフォーマット

運用ログを保存する際のフォーマットを次の図に示します。画面出力する情報にメッセージ種別を付加したフォーマットになります。

図 1-2 運用ログのフォーマット

kkk mm/dd hh:mm:ss ee kkkkkkkk [iii. . . iii] xxxxxxx yyyy:yyyyyyyyyyyy
1 2 3 4 5 6 7
ttt~ttt
8

1. メッセージ種別
2. 時刻・・・採取月，日，時，分，秒をテキスト表示します。
3. イベントレベル
4. イベント発生部位
5. イベント発生インタフェース識別子
イベント発生部位によって表示しない場合があります。
6. メッセージ識別子
メッセージに対応するコードです。
7. 付加情報
イベントの詳細情報をコードで示したものです。
8. メッセージテキスト

1.2.3 種別ログのフォーマット

種別ログのフォーマットを次の図に示します。

図 1-3 種別ログのフォーマット

```

ee      kkkkkkkk  [iii . . . iii]  xxxxxxxx  yyyy:yyyyyyyyyyyy
1       2         3               4         5

mm/dd hh:mm:ss  mm/dd hh:mm:ss  ccc
6              7              8

```

1. イベントレベル

2. イベント発生部位

3. イベント発生インタフェース識別子

イベント発生部位によって表示しない場合があります。

4. メッセージ識別子

メッセージに対応するコードです。

5. 付加情報

イベントの詳細情報をコードで示したものです。

6. 該当障害の最新の発生時刻

7. 該当障害の最旧の発生時刻

8. 該当障害の発生回数

ログの取得開始から現在までに発生したイベントの回数です。該当イベントが 255 回以上発生している場合、発生回数の表示は 255 となります。

1.2.4 イベントレベル

イベントは、重要度によって 7 段階でレベル分けされます。イベントレベルと内容を次の表に示します。

表 1-7 イベントレベルと内容

イベントレベル	表示内容	内容
9	E9	致命的障害発生を示します。 装置全体が停止する障害であり、装置再起動または装置の運用を停止します。
8	E8	重度障害発生を示します。 ファン、電源または装置の一部が停止する障害であり、障害がハードウェア部分障害の場合、該当ハードウェアを再起動します。
	R8	重度障害回復を示します。
7	E7	ソフトウェア部分障害発生を示します。
	R7	ソフトウェア部分障害回復を示します。
6	E6	未使用
	R6	未使用
5	E5	未使用
	R5	未使用
4	E4	ネットワーク障害の検出や回線に関する情報を示します。
3	E3	警告

メッセージ種別とイベントレベルの対応を次の表に示します。

表 1-8 メッセージ種別とイベントレベルの対応

メッセージ種別	イベントレベル
ERR	E9～E5
EVT	E4, E3, R8～R5

set logging console コマンドでイベントレベルを指定すると、指定したレベル以下のメッセージの画面出力を抑止できます。

1.2.5 イベント発生部位

発生したイベントの部位または機能を識別子で示します。イベント発生部位を次の表に示します。

表 1-9 イベント発生部位

識別子	発生したイベントの部位または機能
EQUIPMENT	装置制御機能
PS	電源制御機能
FAN	ファン制御機能
SOFTWARE	ソフトウェア制御機能
CONFIG	コンフィグレーション
ACCESS	装置アクセス権制御
PORT	ポート制御機能
MAC	MAC 制御機能
VLAN	VLAN 制御機能
ULR	アップリンク・リダンダント制御機能
IP	IP 制御機能

1.2.6 イベント発生インタフェース識別子

イベントが発生したインタフェース部位を識別子で示します。本装置のインタフェース部位の部位識別子の表示形式を次の表に示します。

表 1-10 インタフェース部位識別子の表示形式

識別子の表示形式	インタフェース部位
GigabitEthernet <nif no.>/<port no.>	最大回線速度が 1000Mbit/s のイーサネットインタフェース
TenGigabitEthernet <nif no.>/<port no.>	最大回線速度が 10Gbit/s のイーサネットインタフェース

(凡例)

<nif no.> : NIF 番号 (0 固定)

1 運用メッセージ

<port no.> : ポート番号

2 イベント発生部位形式

2.1 EQUIPMENT

ここでは、イベント発生部位 EQUIPMENT の運用メッセージを示します。

表 2-1 イベント発生部位 EQUIPMENT の運用メッセージ

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
00000001	E8	FAN stopped. 表示されたファンで障害を検出しました。 付加情報で停止したファンを識別できます。 付加情報 = 2102:ABCD***** *は不定値です。無視してください。 ABCD はファン番号に対応します。ABCD に 1 を表示した FAN が障害を検出した FAN です。 A=FAN4, B=FAN3, C=FAN2, D=FAN1 [対応] 装置を交換してください。
	R8	FAN is normal. 表示されたファンは正常状態になりました。 付加情報でその他のファンの状態を識別できます。 付加情報 = 2102:ABCD***** *は不定値です。無視してください。 ABCD はファン番号に対応します。ABCD に 1 を表示した FAN が正常状態に復帰した FAN です。 A=FAN4, B=FAN3, C=FAN2, D=FAN1 [対応] なし。
	E3	Failed in accumulated running time access to main. 装置への通算稼働時間のアクセスに失敗しました。 [対応] 通信および通常運用に影響はありません。ただし、通算稼働時間管理機能が使用できないので、使用したい場合は装置を交換してください。
	E7	Hardware exceeded tolerance level of low temperature(<temperature> degree). Check room temperature. ハードウェアの温度が許容温度範囲を下回りました (<temperature>℃以下)。 <temperature> 0 [対応] 1. 装置周辺の環境（室温など）を確認し、改善してください。 2. ファンを確認し、障害があれば装置を交換してください。
00020102	R7	The temperature of hardware returned to normal level (<temperature> degree). ハードウェアの温度が正常温度 (<temperature>℃) に戻りました。 <temperature> 3

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		[対応] なし。
00020103	E7	Hardware exceeded tolerance level of high temperature (<temperature> degree). Check that room temperature and the fan is operating normally.
		ハードウェアの温度が許容温度範囲を上回りました (<temperature>℃以上)。 <temperature> 40 [対応] 1. 装置周辺の環境（通風，熱源の有無など）を確認し，改善してください。 2. ファンを確認し，障害があれば装置を交換してください。
	R7	The temperature of hardware returned to normal level (<temperature> degree).
		ハードウェアの温度が正常温度 (<temperature>℃) に戻りました。 <temperature> 37 [対応] なし。
00020105	E9	Hardware is becoming high temperature which give damage to this system (<temperature> degree).
		ハードウェアの温度は，装置の運用に致命的な障害を与える温度値 (<temperature>℃以上) に達しました。 <temperature> 検出した温度値 (60℃以上) [対応] 1. 装置周辺の環境（通風，熱源の有無など）を確認し，改善してください。 2. ファンを確認し，障害があれば装置を交換してください。
00020106	E3	The temperature of hardware reached the warning level (<temperature> degree).
		ハードウェアの温度が，コンフィグレーションコマンド system temperature-warning-level で設定した温度に達しました。 <temperature> 装置の入気温度（摂氏） [対応] 装置の温度が指定した温度に達しているため，装置周辺の環境（ファンの状態，通風，熱源の有無など）を確認してください。
00020107	E3	The temperature of hardware came down from the warning level.
		ハードウェアの温度が，コンフィグレーションコマンド system temperature-warning-level で設定した温度より 3℃以上下がりました。 [対応] なし。
25040200	R8	Hardware initialized.
		ハードウェアを初期化しました。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		[対応] なし。
25040201	E8	Hardware restarted because of its failure.
		装置にハードウェア障害が発生したので、再起動を行いました。 [対応] これより後の障害回復成功、または障害回復失敗のログ情報を確認してください。成功の場合は継続して運用可能です。 失敗の場合は装置を交換してください。
	R8	Hardware recovered.
		装置のハードウェア障害から回復しました。 [対応] なし。
25040400	E8	Hardware restarted, but not recovered.
		装置の再起動を行いましたが、ハードウェア障害から回復しませんでした。 [対応] 装置を交換してください。
25040b01	E3	Layer-2 hardware table entry can't be registered. Change to recommended l2-table mode <mode>.
		レイヤ 2 ハードウェアテーブルにエントリが登録できませんでした。レイヤ 2 ハードウェアテーブルの検索方式を<mode>に変更します。 <mode> 変更後のレイヤ 2 ハードウェアテーブルの検索方式 [対応] なし。
25040b02	E3	Layer-2 hardware table entry can't be registered. The recommended l2-table mode is <mode>.
		レイヤ 2 ハードウェアテーブルにエントリが登録できませんでした。最適なレイヤ 2 ハードウェアテーブルの検索方式は<mode>です。 <mode> 最適なレイヤ 2 ハードウェアテーブルの検索方式 [対応] 本メッセージで表示された検索方式を使用する場合は、コンフィグレーションコマンド system l2-table mode を変更し、restart vlan コマンドを実行してください。
25040b03	E3	The recommended l2-table mode can't be selected.
		最適なレイヤ 2 ハードウェアテーブルの検索方式を選択できませんでした。 [対応] システム構成を見直してください。
25040c01	E3	Corrected memory soft errors.
		メモリのソフトエラーから回復しました。ソフトエラーによって一部のフレームが廃棄された可能性があります。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
	内容と対応	
	[対応] なし。 なお、これは Switch processor 内メモリのデータビットが宇宙線等によって不意に変えられるソフトウェアエラーが一時的に発生したことを示すもので、ハードウェア障害ではありません。	

2.2 PS

ここでは、イベント発生部位 PS の運用メッセージを示します。

表 2-2 イベント発生部位 PS の運用メッセージ

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
00000001	E8	<ps> is power off. 表示された電源は OFF です。 <ps>の部分は、PS, EPU のうち、OFF の電源が表示されます。 <ps> PS または EPU [対応] 1. 電源スイッチを確認し、ON にしてください。 2. 電源ケーブルの接続と電源供給元を確認し、正しく接続してください。 3. EPU の接続状態を確認してください。
	R8	<ps> is normal. 表示された電源は正常状態になりました。 <ps>の部分は、PS, EPU のうち、正常状態の電源が表示されます。 本メッセージは以下の場合に表示されます。 1. 電源が、異常状態から正常状態に、または未搭載状態から正常状態になった場合、正常状態になった電源が表示されます。 2. 電源が冗長構成の場合に EPU が抜去されたとき、正常状態の PS が表示されます。 <ps> PS または EPU [対応] なし。
00000002	E8	<ps> is power off. 表示された電源機構は OFF です。 <ps>の部分は、PS1, PS2 のうち、OFF の電源機構が表示されます。 <ps> PS1 または PS2 [対応] 1. 電源スイッチを確認し、ON にしてください。 2. 電源ケーブルの接続と電源供給元を確認し、正しく接続してください。 3. 電源機構が故障の場合は交換してください。
	R8	<ps> is normal. 表示された電源機構は正常状態になりました。 <ps>の部分は、PS1, PS2 のうち、正常状態の電源機構が表示されます。 本メッセージは以下の場合に表示されます。 1. 電源機構が、異常状態から正常状態に、または未搭載状態から正常状態になった場合、正常状態になった電源機構が表示されます。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		2. 電源機構が冗長構成の場合に、どちらかの電源機構が抜去されたとき、正常状態の電源機構が表示されます。 <ps> PS1 または PS2 [対応] なし。
00000003	E3	Failed in accumulated running time access to <ps>.
		電源機構への通算稼働時間のアクセスに失敗しました。 <ps>の部分は、PS1, PS2 のうち、通算稼働時間のアクセスに失敗した電源機構が表示されます。 <ps> PS1 または PS2 [対応] 通信および通常運用に影響はありません。ただし、通算稼働時間管理機能が使用できないので、使用したい場合は電源機構を交換してください。
00000004	E8	Error detected on EPU.
		EPU で障害を検出しました。 [対応] 1. EPU に搭載している電源モジュールが半挿し状態の可能性があります。電源モジュールを正しく挿入してください。 2. EPU または EPU に搭載の電源モジュールが故障の場合は交換してください。
	R8	EPU recovered from error.
		EPU は正常状態になりました。 [対応] なし。
00000005	R8	EPU was removed.
		EPU が抜去されました。 [対応] なし。
00000102	E8	Power unit isn't redundantly mounted.
		電源が冗長構成ではありません。 [対応] 電源機構の搭載状態または EPU の接続状態を確認してください。電源が冗長構成ではない場合、コンフィグレーションコマンドで no power redundancy-mode を設定してください。
	R8	Power unit is mounted redundantly or mode changed.
		電源が冗長構成になりました。または、運用モードが変更されました。 [対応] なし。

2.3 FAN

ここでは、イベント発生部位 FAN の運用メッセージを示します。

表 2-3 イベント発生部位 FAN の運用メッセージ

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
00000002	E8	<fan> stopped.
		表示されたファンは停止または未搭載です。 <fan>の部分は、停止または未搭載のファンが表示されます。 <fan> FAN1(1), FAN1(2), FAN2(1), FAN2(2)のどれか [対応] - 電源機構またはファンユニットの搭載状態を確認してください。搭載状態は、目視または show system コマンドで確認してください。 - 電源機構またはファンユニットが故障の場合は交換してください。
	R8	<fan> is normal.
		表示されたファンは正常状態になりました。 <fan>の部分は、正常状態のファンが表示されます。 <fan> FAN1(1), FAN1(2), FAN2(1), FAN2(2)のどれか [対応] なし。
00000003	E3	Failed in accumulated running time access to <fan>.
		ファンユニットへの通算稼働時間のアクセスに失敗しました。 <fan>の部分は、FAN1, FAN2 のうち、通算稼働時間のアクセスに失敗したファンユニットが表示されます。 <fan> FAN1 または FAN2 [対応] 通信および通常運用に影響はありません。ただし、通算稼働時間管理機能が使用できないので、使用したい場合はファンユニットを交換してください。
00000004	E3	Failed in accumulated running time access to the fan unit.
		ファンユニットへの通算稼働時間のアクセスに失敗しました。 [対応] 通信および通常運用に影響はありません。ただし、通算稼働時間管理機能が使用できないので、使用したい場合はファンユニットを交換してください。

2.4 SOFTWARE

ここでは、イベント発生部位 SOFTWARE の運用メッセージを示します。

2.4.1 0000XXXX

ここでは、メッセージ識別子の上位 4 桁が 0000 の運用メッセージを示します。

表 2-4 イベント発生部位 SOFTWARE の運用メッセージ (0000XXXX)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
00003001	E3	System restarted due to abort reset operation.
		装置が再起動されました。要因は RESET スイッチ押下です。 [対応] なし。
00003002	E3	System restarted due to default reset operation.
		装置が再起動されました。要因はデフォルトスイッチ押下です。 [対応] なし。
00003003	E3	System restarted due to fatal error detected by software.
		致命的障害をソフトウェアが検出し装置を再起動しました。 [対応] show logging コマンドでログを確認し、他の障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置を行ってください。
00003004	E3	System restarted due to user operation.
		装置が再起動されました。要因は reload コマンドです。 [対応] なし。
00003005	E3	System restarted due to fatal error detected by kernel.
		致命的障害をカーネルが検出し装置を再起動しました。 [対応] show logging コマンドでログを確認し、他の障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置を行ってください。
00003006	E3	System restarted due to WDT timeout.
		装置が再起動されました。要因は WDT (ウォッチドッグタイマ) タイムアウトです。 [対応] show logging コマンドでログを確認し、他の障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置を行ってください。
00003007	E3	System restarted due to hardware error detected by kernel.

2 イベント発生部位形式

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		装置が再起動されました。要因はハードウェア障害です。 [対応] 装置を交換してください。
00003008	E3	System restarted due to hardware error detected.
		装置が再起動されました。要因はハードウェア障害です。 [対応] 装置を交換してください。
00003101	E7	Memory exhausted. Possibly too many users logged in, or too many sessions(via ftp,http,...) established.
		CPU のメモリが不足しています。 [対応] 1. 多数のユーザがログインしている場合、必要最小限のユーザ以外はログアウトしてください。 2. ftp からの利用が多い場合、必要最小限のコネクション以外は切断してください。 3. ネットワーク管理装置からのアクセスが多い場合、必要最小限のアクセス以外は抑止してください。 4. 上記 1, 2, 3 で回復しない場合、本装置の収容条件を満たしていない可能性があります。「コンフィグレーションガイド Vol.1」 「3.2 収容条件」を参照してネットワーク構成を見直してください。
	R7	Recovered from memory exhaustion.
		CPU のメモリ不足が回復しました。 [対応] なし。
00003303	E3	Received many packets and loaded into the queue to CPU.
		CPU へのキューに多数の受信パケットが積まれました。 [対応] なし。ただし、本メッセージが頻発して出力される場合は、以下を確認してください。 1. ping, telnet などの自装置宛てパケットやブロードキャスト、マルチキャストパケットを大量に受信していないか確認してください。ネットワーク管理装置からのアクセスが多い場合、必要最小限のアクセス以外は抑止してください。 2. ネットワーク構成が複雑すぎる可能性があります。ネットワーク構成を見直してください。
00003304	E3	Processed the packets in the queue to CPU.
		CPU へのキューに積まれたパケットは処理されました。 [対応] なし。
00008601	E3	NTP lost synchronization with <ip address>.
		NTP サーバ<ip address>との同期状態が失われました。 <ip address> NTP サーバの IPv4 アドレス [対応] show ntp associations コマンドで NTP の状態を確認してください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		同期が取れていない状態が継続するようであれば、NTP コンフィグレーションと NTP サーバの動作状況、通信可否を確認してください。
00008602	E3	NTP detected an invalid packet from <ip address>.
		NTP サーバ<ip address>からの不正なパケットを検出しました。 <ip address> NTP サーバの IPv4 アドレス [対応] NTP サーバを確認してください。
00008603	E3	NTP could not find the server which synchronize with.
		同期できる NTP サーバがありません。 [対応] NTP コンフィグレーションと NTP サーバの動作状況、通信可否を確認してください。

2.4.2 01XXXXXX

ここでは、メッセージ識別子の上位 2 桁が 01 の運用メッセージを示します。

表 2-5 イベント発生部位 SOFTWARE の運用メッセージ (01XXXXXX)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
01100001	E7	Software failure occurred during operation.
01100002		運用中にソフトウェアに障害が発生しました。 [対応] 正常な運用ができない可能性があります。次に示す処置を行ってください。 1.show logging コマンドでログを確認し、他の障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置を行ってください。 2.reload コマンドで装置を再起動してください。 3.reload コマンドで再起動しても同一の障害が発生する場合は、装置を交換してください。
01100004		
01200001		
01200002		
01200004		
01300001		
01300002		
01300004		
01400001		
01400002		
01400004		
01600001		
01600002		
01600004		
01700001		
01700002		
01700004		
01800001		
01800002		

2 イベント発生部位形式

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
01800004 01900001 01900002 01900004 01910001 01910002 01910004		
01100003 01200003 01300003 01400003 01600003 01700003 01800003 01900003 01910003	E9	System restarted due to software failure occurred during initialization. 初期化中にソフトウェアに障害が発生し、装置を再起動しました。 [対応] show logging コマンドでログを確認し、他の障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置を行ってください。
01100005 01200005 01300005 01400005 01600005 01700005 01800005 01900005 01910005	E9	System restarted due to software failure occurred during operation. 運用中にソフトウェアに障害が発生し、装置を再起動しました。 [対応] show logging コマンドでログを確認し、他の障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置を行ってください。
01200187	E3	The temperature logging file can't be written. 温度ロギング情報の書き込みに失敗しました。 [対応] 1. 内蔵フラッシュメモリのユーザ領域を確認してください。 2. 空き領域が不足している場合は、不要なファイルを削除して空き領域（約 8KB）を確保してください。
01700501	E3	Statistics table initialized. set clock コマンドによって装置の時刻が変更されたため、CPU 使用率を保持している統計情報テーブルを初期化しました。 [対応] なし。
01700502	E3	CPU overloaded. There is the possibility of software failure in responding to user command input or sending notification to SNMP agent. ユーザコマンド入力に対する応答か、SNMP エージェントに対する通知が失敗したかもしれません。CPU が過負荷状態である可能性があります。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		[対応] 必要なら再度コマンドの入力または MIB の取得を行ってください。
01700503	E3	There is the possibility of software failure in responding to user command input or sending notification to SNMP agent.
		ユーザコマンド入力に対する応答か、SNMP エージェントに対する通知が失敗したかもしれません。 [対応] 必要なら再度コマンドの入力または MIB の取得を行ってください。
01900250	E3	Software started up.
		ソフトウェアの起動を開始しました。 本ログは UTC 時間で採取されます。 [対応] なし。
01910201	E3	System started collecting new "error.log".
		種別ログを新規に採取し始めました。 [対応] なし。
01910202	E3	System restarted by user operation.
		ユーザ操作による装置再起動を行います。 [対応] なし。
01910203	E3	System restarted after hardware reset.
		リセットスイッチによる装置再起動を行います。 [対応] なし。

2.4.3 02XXXXXX

ここでは、メッセージ識別子の上位 2 桁が 02 の運用メッセージを示します。

表 2-6 イベント発生部位 SOFTWARE の運用メッセージ (02XXXXXX)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
02002001	E7	snmpd aborted.
		SNMP エージェントプログラム (snmpd) を強制終了しました。 [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		SNMP エージェントプログラムの障害待避情報（/usr/var/core 下のファイル snmpd.core）およびログ情報，コンフィグレーションを収集してください。収集方法については，「トラブルシューティングガイド」を参照してください。 なお，SNMP エージェントプログラムは自動的に再起動されます。SNMP エージェントプログラムが再起動しない場合，または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	snmpd restarted.
		SNMP エージェントプログラム（snmpd）を再起動しました。 このメッセージは，SNMP エージェントプログラムの強制終了から自動的に再起動した場合に出力されます。 [対応] なし。
02002003	E7	rmon aborted.
		RMON プログラム（rmon）を強制終了しました。 [対応] RMON の障害待避情報（/usr/var/core 下のファイル rmon.core）およびログ情報，コンフィグレーションを収集してください。収集方法については，「トラブルシューティングガイド」を参照してください。 なお，RMON プログラムは自動的に再起動されます。RMON プログラムが再起動しない場合，または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	rmon restarted.
		RMON プログラム（rmon）を再起動しました。 このメッセージは，RMON プログラムの強制終了から自動的に再起動した場合に出力されます。 [対応] なし。
02002010	E3	System failed switching to admin mode.
		MIB Set 時の Admin mode への変更に失敗しました。 [対応] 他の管理者が admin になっています。show sessions コマンドで，ログインユーザおよび admin ユーザを確認してください。
02002012	E3	Specified MIB doesn't exist, or it does not have read/write attribute.
		設定した MIB は存在しないか，または，read/write 属性の MIB ではありません。 [対応] 「MIB レファレンス」を参照し，設定した MIB が read/write 属性であることを確認してください。
02002013	E3	Incorrect instance value specified.
		MIB Set 時に設定したインスタンス値は，正しくありません。 [対応] インスタンス値を確認して設定してください。
02002014	E3	MIB value specified was out of range.

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		MIB Set 時に MIB 値を、設定範囲外の値で設定しようとしています。 [対応] MIB 値の範囲については、「コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1」 「35 SNMP」を参照してください。
02002015	E3	Data length of the MIB value was too long.
		MIB Set 時に設定した MIB 値のデータ長が長過ぎます。 [対応] MIB 値として設定できる文字数は、「コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1」 「35 SNMP」を参照してください。
02002016	E3	MIB Set failed due to the lack of necessary MIBs.
		設定する上で必要な MIB が足りないために、MIB Set を行うことができませんでした。 [対応] 「MIB レファレンス」を参照し、設定時に必要な項目が満たされていることを確認してください。
02002017	E3	Illegal character used in MIB setting.
		設定できない文字を使用して、MIB Set を行おうとしています。 [対応] 「コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1」 「1 このマニュアルの読み方」の文字コード一覧を確認して設定してください。
02002018	E3	MIB Set failed to configured the configuration file because the preliminary configuration file is under editing.
		バックアップコンフィグレーションファイルが編集のため、スタートアップコンフィグレーションファイルに、MIB の Set を行うことができませんでした。 [対応] バックアップコンフィグレーションファイルの編集を中止してください。
02002019	E3	Failed in contact the configuration file while setting up MIB.
		MIB 設定のための、スタートアップコンフィグレーションファイルへのアクセスに失敗しました。 [対応] スタートアップコンフィグレーションファイルへのアクセスエラーになる要因を取り除いてから再度実行してください。
02002020	E3	MIB value has failed to establish. Errors occurred in the "config" command.
		MIB Set 時にコンフィグレーション編集時のエラーが発生したため、MIB を設定できませんでした。 [対応] コンフィグレーションのエラーについては、「コンフィグレーションコマンドレファレンス」の「コンフィグレーション編集時のエラーメッセージ」を参照して対応してください。
02002021	E3	Not all MIB configured.
		MIB Set に失敗したため、MIB 値は途中でしか設定されていません。 [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		再度設定してください。また、それでもできない場合には、telnetなどでログインし、MIB 値を設定してください。
02002023	E3	System failed to save the configuration while processing MIB settings.
		snmp マネージャからの MIB set 時に、コンフィグレーションの save 処理でエラーが発生しました。 [対応] コンフィグレーションが save されていないので、telnetなどで save してください。
02002024	E3	<object name> set as <mib value> at the request of <ip address>.
		<object name>は、<ip address>からの要求によって、<mib value>に設定されました。 <object name> MIB オブジェクトのニーモニック <mib value> MIB 値 <ip address> SNMP マネージャの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス [対応] なし。
02002025	E3	SNMP: MAC address table entry cleared at the request of <ip address>.
		SNMP マネージャ<ip address>からの MAC アドレステーブルクリア要求により MAC アドレステーブルをクリアしました。 <ip address> SNMP マネージャの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス [対応] なし。

2.4.4 03XXXXXX-09XXXXXX

ここでは、メッセージ識別子の上位 2 桁が 03 から 09 の運用メッセージを示します。

表 2-7 イベント発生部位 SOFTWARE の運用メッセージ (03XXXXXX-)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
03000001 03000002	E7	Software failure occurred during operation.
03000004 04000001 04000002 04000004 05000001 05000002 05000004 06100001 06100002 06100004 06200001 06200002 06200004 06300001 06300002 06300004 06400001 06400002 06400004 06500001		運用中にソフトウェアに障害が発生しました。 [対応] 正常な運用ができない可能性があります。次に示す処置を行ってください。 1.show logging コマンドでログを確認し、他の障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置を行ってください。 2.reload コマンドで装置を再起動してください。 3.reload コマンドで再起動しても同一の障害が発生する場合は、装置を交換してください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
06500002 06500004 07000001 07000002 07000004 08000001 08000002 08000004 09100001 09100002 09100004 09200001 09200002 09200004 09300001 09300002 09300004 09400001 09400002 09400004 09500001 09500002 09500004 09600001 09600002 09600004 09700001 09800001		
03000003 04000003 05000003 06100003 06200003 06300003 06400003 06500003 07000003 08000003 09100003 09200003 09300003 09400003 09500003 09600003	E9	System restarted due to software failure occurred during initialization. 初期化中にソフトウェアに障害が発生し、装置を再起動しました。 [対応] show logging コマンドでログを確認し、他の障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置を行ってください。
03000005 04000005 05000005 06100005 06200005 06300005 06400005 06500005 07000005 08000005 09100005 09200005 09300005 09400005 09500005 09600005 09700005 09800005	E9	System restarted due to software failure occurred during operation. 運用中にソフトウェアに障害が発生し、装置を再起動しました。 [対応] show logging コマンドでログを確認し、他の障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置を行ってください。
05001001	E7	Rtm aborted [:<error string>]. ユニキャストルーティングプログラム (rtm) を強制終了しました。 <error string> エラー要因 • Cannot allocate memory メモリ不足による強制終了 • 空白 その他の要因による強制終了 [対応] • エラー要因が、「メモリ不足による強制終了」の場合 メモリ領域が枯渇したことが原因です。使用制限(「コンフィグレーションガイド Vol.1」 「3.2 収容条件」参照)をオーバーしていないか確認してください。使用制限内である場合は、次の「エラー要因：その他の要因による強制終了」の対応を行ってください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
	内容と対応	
		- エラー要因が、「その他の要因による強制終了」の場合 (1) ユニキャストルーティングプロトコルに関する他のログ（メッセージ種別：RTM）が発生していないかを確認し、対応する処置を行ってください。 (2) ユニキャストルーティングプログラムは自動的に再起動されます。ユニキャストルーティングプログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	Rtm restarted.
		ユニキャストルーティングプログラム（rtm）を再起動しました。 このメッセージは、ユニキャストルーティングプログラムが自動的に再起動した場合、または restart unicast コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] なし。
05001010	E3	The number of maximum multipath set by the configuration is different from the maximum value when this system starts.
		コンフィグレーションで設定された最大マルチパス数が、本装置起動時の最大値と異なります。 [対応] - show system コマンドで、「Current selected unicast multipath number」に表示されているマルチパス数の最大数（2/4/8/16）を確認してください。 1 の値を変更してマルチパスを構成したい場合は、マルチパスを使用するすべてのプロトコルについて、最大マルチパス数をコンフィグレーションで設定および保存してから装置を再起動してください。装置再起動後、コンフィグレーションで設定された最大マルチパス数で運用されます。 1 の値を変更しない場合は、コンフィグレーションで変更した最大マルチパス数の設定を元の値に戻してください。

2.4.5 0dXXXXXX-0fXXXXXX

ここでは、メッセージ識別子の上位 2 桁が 0d から 0f の運用メッセージを示します。

表 2-8 イベント発生部位 SOFTWARE の運用メッセージ (0dXXXXXX-)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
	内容と対応	
0d00b001	E7	dhcpcd aborted.
		DHCP リレープログラム（dhcpcd）を強制終了しました。DHCP リレーが、メモリ領域不足などの異常を検出したため、動作継続を断念し、強制終了しました。 [対応] DHCP リレープログラムは自動的に再起動します。DHCP リレープログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置の再起動を行ってください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
	R7	dhcpd restarted.
		DHCP リレープログラム (dhcpcd) を再起動しました。 このメッセージは DHCP リレープログラムが自動的に再起動した場合に出力します。 [対応] なし。
0d10b001	E7	dhcp_server aborted.
		DHCP サーバプログラム (dhcp_server) を強制終了しました。DHCP サーバが、メモリ領域不足などの異常を検出したため、動作継続を断念し、強制終了しました。 [対応] DHCP サーバプログラムは自動的に再起動します。DHCP サーバプログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置の再起動を行ってください。
	R7	dhcp_server restarted.
		DHCP サーバプログラム (dhcp_server) を再起動しました。 このメッセージは DHCP サーバプログラムが自動的に再起動した場合、または restart dhcp コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] なし。
0d10b002	E3	The not used IP address which a dhcp_server can lease out is not a subnet <subnet address>.
		dhcp_server が貸し出す未使用の IP アドレスが subnet <subnet address> ありません。 <subnet address> 割り当て範囲サブネットアドレス [対応] dhcp_server が割り当てることができる subnet のクライアントの最大数を調査してください。
0d10b003	E3	The dhcp_server reused the abandoned IP address <ip address>.
		dhcp_server は、廃棄された IP アドレスを再利用しました。 <ip address> 割り当て IP アドレス [対応] なし。
0d10b004	E3	The IP address <ip address> which the dhcp_server schedule to lease out is already used by others.
		dhcp_server が貸し出そうとした IP アドレス<ip address>は、すでに他で使用されています。 <ip address> 割り当て予定 IP アドレス [対応] 貸出し IP アドレスの範囲と固定割り当て IP アドレスが重複していないか調査してください。
0d10b005	E3	Failed in NS UPDATE by dhcp_server. : <map>
		dhcp_server による NS UPDATE 処理が失敗しました。 <map> エラーが発生したマップ [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		本装置のゾーン設定、および認証キー設定と DNS サーバ側の設定を確認してください。 また、認証キーを使用する場合は本装置と DNS サーバの時刻情報が合っていることを確認してください。
0d10b0e4	E3	dhcp_server: Invalid network address.
		DHCP サーバが不正なコンフィグレーションを検出しました。無効なネットワークアドレスの指定です。 [対応] 直前に入力した設定を削除してから、正しいネットワークアドレスを設定し直してください。
0d10b0ec	E3	dhcp_server: Invalid key.(ip dhcp key ... secret-hmac-md5 ...)
		DHCP サーバが不正なコンフィグレーションを検出しました。無効なキーです。 [対応] 直前に入力した設定を削除してから、正しいキーを設定し直してください。
0d10b0ee	E3	dhcp_server: Invalid IP address. (ip dhcp excluded-address ...)
		DHCP サーバが不正なコンフィグレーションを検出しました。除外アドレス範囲の指定が不正です。 [対応] 直前に入力した設定を削除してから、正しい除外アドレス範囲を設定し直してください。
0e008001	E3	Virtual router <vrid> of <interface name> state has transitioned to <state>.
		仮想ルータの active 状態が<state>へ遷移しました。 <vrid> 仮想ルータ ID <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 <state> 仮想ルータの状態 [対応] なし。
0e008002	E3	Virtual router <vrid> of <interface name> received VRRP packet with IP TTL not equal to 255.
		IP ヘッダの TTL (Time-to-Live) が 255 ではない VRRP ADVERTISEMENT パケットを受信しました。 <vrid> 仮想ルータ ID <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 [対応] 同一の仮想ルータを構成している相手装置を確認してください。
0e008003	E3	Virtual router <vrid> of <interface name> received VRRP packet that length less than the length of the VRRP header.
		パケット長が不正の VRRP ADVERTISEMENT パケットを受信しました。 <vrid> 仮想ルータ ID <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 [対応] 同一の仮想ルータを構成している相手装置を確認してください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
0e008004	E3	Virtual router <vrid> of <interface name> received VRRP packet that does not pass the authentication check.
		受信した VRRP ADVERTISEMENT パケットの認証に失敗しました。 <vrid> 仮想ルータ ID <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 [対応] 同一の仮想ルータを構成している相手装置のパスワードの設定と、本装置のパスワードの設定を確認してください。
0e008005	E3	Virtual router <vrid> of <interface name> received VRRP packet for which the address list does not match the locally configured list for the virtual router.
		受信した VRRP ADVERTISEMENT パケットで指定された仮想ルータの IP アドレスと本装置の設定が一致しません。 <vrid> 仮想ルータ ID <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 [対応] 同一の仮想ルータを構成している相手装置の仮想ルータの IP アドレスと、本装置の仮想ルータの IP アドレスの設定を確認してください。
0e008006	E3	Virtual router <vrid> of <interface name> received VRRP packet for which the advertisement interval is different than the one configured for local virtual router.
		受信した VRRP ADVERTISEMENT パケットで指定された送信間隔と本装置の設定が一致しません。 <vrid> 仮想ルータ ID <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 [対応] 同一の仮想ルータを構成している相手装置の送信間隔と、本装置の送信間隔の設定を確認してください。
0e008007	E3	VRRP packet received with unsupported version number.
		受信した VRRP ADVERTISEMENT パケットで指定された VRRP のバージョンが本装置の VRRP バージョンと一致しません。 [対応] 本装置と仮想ルータを構成する場合は、相手装置の VRRP のバージョンを IPv4 の場合は 2, IPv6 の場合は 3 に設定してください。
0e008008	E3	Virtual router <vrid> of <interface name> priority was changed to <priority>.
		VRRP の優先度を<priority>に変更しました。 <vrid> 仮想ルータ ID <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 <priority> 仮想ルータの優先度 [対応] なし。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
0e008012	E3	Virtual router <vrid> of <interface name> was finished.
		仮想ルータを終了しました。 <vrid> 仮想ルータ ID <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 [対応] なし。
0e008014	E7	vrrpd aborted.
		VRRP プログラム (vrrpd) を強制終了しました。 [対応] VRRP プログラムは自動的に再起動します。VRRP プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	vrrpd restarted.
		VRRP プログラム (vrrpd) を再起動しました。 このメッセージは VRRP プログラムが自動的に再起動した場合に出力します。 [対応] なし。
0e008015	E3	Virtual router <vrid> of <interface name> received VRRP packet with IP HopLimit not equal to 255.
		IP ヘッダの HopLimit が 255 ではない VRRP ADVERTISEMENT パケットを受信しました。 <vrid> 仮想ルータ ID <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 [対応] 同一の仮想ルータを構成している相手装置を確認してください。
0e008016	E3	Virtual router <vrid> of <interface name> priority changed to <priority>, because error detected on line by vrrp-polling.
		VRRP ポーリングによって、回線障害を検出したため、VRRP の優先度を<priority>に変更しました。 <vrid> 仮想ルータ ID <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 <priority> 仮想ルータの優先度 [対応] 切り替えが頻繁に発生する場合は、コンフィギュレーションを調整することで解決できる場合があります。
0e008017	E3	<interface name> assigned virtual router <vrid> is down because of error detected by track.
		トラッキング機能によって、障害を検出したため、VRRP を設定しているインタフェースをダウンしました。 <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 <vrid> 仮想ルータ ID [対応] 切り替えが頻繁に発生する場合は、コンフィギュレーションを調整することで解決できる場合があります。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
0e008018	E3	<interface name> assigned virtual router <vrid> is up because of recovery detected by track.
		トラッキング機能によって、障害回復を検出したため、VRRP を設定しているインタフェースをアップしました。 <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 <vrid> 仮想ルータ ID [対応] なし。
0e008019	E3	Critical interface of <interface name> is down.
		障害監視インタフェースがダウンしました。 <interface name> 障害監視対象のインタフェース名 [対応] なし。
0e008020	E3	Critical interface of <interface name> is up.
		障害監視インタフェースがアップしました。 <interface name> 障害監視対象のインタフェース名 [対応] なし。
0e008021	E4	The VRRP virtual MAC address entry can't be registered at hardware tables.
		VRRP の仮想 MAC アドレスをハードウェアに設定できませんでした。 [対応] 1. 仮想ルータの仮想ルータ ID を異なる値に変更してください。 2. 仮想ルータを設定する VLAN の VLAN ID を異なる値に変更してください。
0e008022	E3	Virtual router <vrid> of <interface name> advertisement interval set default advertisement interval (1 second) because not supported Advertisement interval configured.
		ADVERTISEMENT パケットの送信間隔に、サポートしていない値が設定されています。Advertisement Interval は、デフォルトの値で動作します。 <vrid> 仮想ルータ ID <interface name> VRRP を設定したインタフェース名 [対応] VRRP 動作モード (ietf-ipv6-spec-07-mode) のコンフィグレーションが設定されている場合、40 秒以下の値に設定してください。
0e008025	E3	Critical interface of <interface type> <interface number> is down.
		障害監視インタフェースがダウンしました。 <interface type> <interface number> 障害監視インタフェースに指定したインタフェース ・ イーサネットインタフェース ・ ポートチャネルインタフェース

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		[対応] なし。
0e008026	E3	Critical interface of <interface type> <interface number> is up.
		障害監視インタフェースがアップしました。 <interface type> <interface number> 障害監視インタフェースに指定したインタフェース - イーサネットインタフェース - ポートチャネルインタフェース [対応] なし。
0e008027	E3	Critical interface of <interface number> is up. But priority not changed because of different interface type.
		障害監視インタフェースが異速度でアップしました。優先度は変更しません。 <interface number> 障害監視インタフェースに指定したインタフェース番号 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] なし。
0f306003 0f406003	E3	The multicast routing program will restart, because the multicast (PIM) max-interfaces configuration changed.
		ランニングコンフィグレーションの IP マルチキャスト (PIM) 情報がコンフィグレーションコマンド ip pim max-interface で変更されたため、IP マルチキャストルーティングプログラムを再起動します。 [対応] なし。
0f406001	E7	mrp aborted.
		IP マルチキャストルーティングプログラムを強制終了しました。 [対応] 1.IP マルチキャストルーティングプログラム関連の他のログ（メッセージ種別：MRP）が発生していないかを確認し、対応する処置を行ってください。 2.IP マルチキャストルーティングプログラムは自動的に再起動します。IP マルチキャストルーティングプログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置の再起動を行ってください。
	R7	mrp restarted.
		IP マルチキャストルーティングプログラムを再起動しました。 このメッセージは、IP マルチキャストルーティングプログラムが自動的に再起動した場合、または restart ipv4-multicast コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] なし。
0f406004	E3	IPv4 multicast routing entry had exceeded maximum value <number> for limit, entry has discarded.
		IPv4 マルチキャスト経路情報が制限により最大値<number>を超えたためエントリを廃棄しています。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		<number> IPv4 マルチキャスト経路情報の最大数 [対応] 不正アクセスが発生した可能性があります。 - 想定以上のマルチキャスト経路情報追加要求が発生していないか確認をしてください。マルチキャスト経路情報が制限により最大値を超えています。 - コンフィグレーション (ip pim mroute-limit コマンド) を確認してください。 - ネットワーク構成を確認の上、本装置の構成を再検討してください。
0f406005	E3	IPv4 multicast routing entry has recovered from the state of discard.
		IPv4 マルチキャスト経路情報を廃棄する状態から回復しました。 [対応] なし。
0f406006	E3	IGMP source-limit <number> has been exceeded on interface <interface name> due to over-request. Request have been discarded.
		インタフェース<interface name>で、IGMP ソース制限値<number>を超える要求がありました。要求を廃棄しています。 <number> IGMP グループ制限値 <interface name> インタフェース名称 [対応] 不正アクセスが発生した可能性があります。 - 想定以上のIGMP グループに属するソース追加要求が発生していないか確認をしてください。 - コンフィグレーション (ip igmp source-limit コマンド) を確認してください。 - ネットワーク構成を確認の上、本装置の構成を再検討してください。
0f406007	E3	IGMP source-limit on requests on interface <interface name> has recovered from state of discard.
		インタフェース<interface name>で、IGMP グループに属するソースを廃棄する状態から回復しました。 <interface name> インタフェース名称 [対応] なし。
0f406008	E3	IGMP group-limit <number> has been exceeded on interface <interface name> due to over-request. Request have been discarded.
		インタフェース<interface name>で、IGMP グループ制限値<number>を超える要求がありました。要求を廃棄しています。 <number> IGMP グループ制限値 <interface name> インタフェース名称 [対応] 不正アクセスが発生した可能性があります。 - 想定以上のIGMP グループ追加要求が発生していないか確認をしてください。 - コンフィグレーション (ip igmp group-limit コマンド) を確認してください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		ネットワーク構成を確認の上、本装置の構成を再検討してください。
0f406009	E3	IGMP group-limit on requests on interface <interface name> has recovered from state of discard.
		インタフェース<interface name>で、IGMP グループを廃棄する状態から回復しました。 <interface name> インタフェース名称 [対応] なし。

2.4.6 11XXXXXX-1fXXXXXX

ここでは、メッセージ識別子の上位 2 桁が 11 から 1f の運用メッセージを示します。

表 2-9 イベント発生部位 SOFTWARE の運用メッセージ (11XXXXXX-)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
11010001	E3	The list number <policy list no.> of the policy base routing changed to the sequence number <sequence>.
		ポリシーベースルーティングのリスト番号<policy list no.>内で、優先度<sequence>の経路を選択しました。 <policy list no.> ポリシーベースルーティングのリスト番号 <sequence> リスト内の経路情報の優先度 [対応] なし。
11010002	E3	The list number <policy list no.> of the policy base routing changed to the default operation.
		ポリシーベースルーティングのリスト番号<policy list no.>内で、デフォルト動作を選択しました。 <policy list no.> ポリシーベースルーティングのリスト番号 [対応] なし。
11109901	E7	policyd aborted.
		ポリシーベースプログラム (policyd) を強制終了しました。 [対応] ポリシーベースプログラムの障害待避情報 (/usr/var/core 下のファイル policyd.core) およびログ情報、コンフィグレーションを収集してください。収集方法については、「トラブルシューティングガイド」を参照してください。 なお、ポリシーベースプログラムは自動的に再起動されます。ポリシーベースプログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	policyd restarted.

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		ポリシーベースプログラム (policyd) を再起動しました。 このメッセージは、ポリシーベースプログラムが自動的に再起動した場合、または restart policy コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] なし。
1920a002	E7	mr6 aborted.
		IPv6 マルチキャストルーティングプログラムを強制終了しました。 [対応] 1. IPv6 マルチキャストルーティングプログラム関連の他のログ（メッセージ種別：MR6）が発生していないかを確認し、対応する処置を行ってください。 2. IPv6 マルチキャストルーティングプログラムは自動的に再起動します。IPv6 マルチキャストルーティングプログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置の再起動を行ってください。
	R7	mr6 restarted.
		IPv6 マルチキャストルーティングプログラムを再起動しました。 このメッセージは、IPv6 マルチキャストルーティングプログラムが自動的に再起動した場合、または restart ipv6-multicast コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] なし。
1920a003	E3	The multicast routing program will restart, because the multicast (PIM6) max-interfaces configuration changed.
		ランニングコンフィグレーションの IPv6 マルチキャスト (PIM6) 情報がコンフィグレーションコマンド ipv6 pim max-interface で変更されたため、IPv6 マルチキャストルーティングプログラムを再起動します。 [対応] なし。
1920a005	E3	IPv6 multicast routing entry had exceeded maximum value <number> for limit, entry has discarded.
		IPv6 マルチキャスト経路情報が制限により最大値<number>を超えたためエントリを廃棄しています。 <number> IPv6 マルチキャスト経路情報の最大数 [対応] 不正アクセスが発生した可能性があります。 - 想定以上のマルチキャスト経路情報追加要求が発生していないか確認をしてください。マルチキャスト経路情報が制限により最大値を超えています。 - コンフィグレーション (ipv6 pim mroute-limit コマンド) を確認してください。 - ネットワーク構成を確認の上、本装置の構成を再検討してください。
1920a006	E3	IPv6 multicast routing entry has recovered from the state of discard.
		IPv6 マルチキャスト経路情報を廃棄する状態から回復しました。 [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
	内容と対応	
		なし。
1e001000	E7	flowd aborted.
		フロー統計エージェントプログラム (flowd) を強制終了しました。 [対応] フロー統計エージェントプログラムは自動的に再起動します。フロー統計エージェントプログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	flowd restarted.
		フロー統計エージェントプログラム (flowd) を再起動しました。このメッセージはフロー統計エージェントプログラムが自動的に再起動した場合、または restart sflow コマンドによって再起動を要求した場合に出力されます。 [対応] なし。
1f00b011	E7	dhcp6_server aborted.
		IPv6 DHCP サーバプログラム (dhcp6_server) を強制終了しました。 IPv6 DHCP サーバが、メモリ領域不足などの異常を検出したため、動作継続を断念し、強制終了しました。 [対応] IPv6 DHCP サーバプログラムは自動的に再起動します。IPv6 DHCP サーバプログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	dhcp6_server restarted.
		IPv6 DHCP サーバプログラム (dhcp6_server) を再起動しました。 このメッセージは、IPv6 DHCP サーバプログラムが自動的に再起動した場合、または restart ipv6-dhcp server コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] なし。
1f01b021	E7	dhcp6_relay aborted.
		IPv6 DHCP リレープログラム (dhcp6_relay) を強制終了しました。 IPv6 DHCP リレーが、メモリ領域不足などの異常を検出したため、動作継続を断念し、強制終了しました。 [対応] IPv6 DHCP リレープログラムは自動的に再起動します。IPv6 DHCP リレープログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	dhcp6_relay restarted.
		IPv6 DHCP リレープログラム (dhcp6_relay) を再起動しました。 このメッセージは、IPv6 DHCP リレープログラムが自動的に再起動した場合、または restart ipv6-dhcp relay コマンドによって再起動を要求した場合に出力されます。 [対応] なし。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
1f01b024	E3	IPv6 DHCP packet discarded by relay agent, because prefix entry exceeded the maximum.
		プレフィックスのエントリが最大数を超えたため、リレーエージェントで IPv6 DHCP パケットを破棄しました。また、本メッセージ出力後、5 分間は同じメッセージが連続で出力されないよう抑止されます。 [対応] 1. 収容クライアント数を show ipv6 dhcp relay binding コマンドで確認してください。 2. 本装置の収容クライアント数が収容条件を超えている場合、収容クライアント数を再検討して変更してください。 なお、実際に破棄された IPv6 DHCP パケット数を確認したい場合は、show ipv6 dhcp traffic コマンドを実行して IPv6 DHCP リレーの統計情報を表示し、lease prefix over の項目を確認してください。
1f01b025	E3	IPv6 DHCP relay information defined by the configuration file is ignored, since IPv6 DHCP relay function license is not given.
		スタートアップコンフィグレーションファイルで設定された IPv6 DHCP リレー情報は、ライセンスが与えられていないため無効となります。 [対応] IPv6 DHCP リレーを使用する場合は、set license コマンドでオプションライセンス OP-DH6R を設定し、装置を再起動してください。

2.4.7 20XXXXXX-2aXXXXXX

ここでは、メッセージ識別子の上位 2 桁が 20 から 2a の運用メッセージを示します。

表 2-10 イベント発生部位 SOFTWARE の運用メッセージ (20XXXXXX-)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20110001	E7	stpd aborted
		スパンニングツリープログラム (STPd) を強制終了しました。 [対応] スパンニングツリープログラムの障害待避情報 (/usr/var/core 下のファイル stpd.core) およびログ情報、コンフィグレーションを収集してください。収集方法については、「トラブルシューティングガイド」を参照してください。 なお、スパンニングツリープログラムは自動的に再起動されます。スパンニングツリープログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	stpd restarted
		スパンニングツリープログラム(stpd)を再起動しました。このメッセージは、スパンニングツリープログラムが自動的に再起動した場合、または restart spanning-tree コマンドによって再起動を要求した場合に出力されます。 [対応]

2 イベント発生部位形式

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		なし。
20120001	E7	LAd aborted
		リンクアグリゲーションプログラム (LAd) を強制終了しました。 [対応] リンクアグリゲーションプログラムの障害待避情報 (/usr/var/core 下のファイル LAd.core) およびログ情報, コンフィグレーションを収集してください。収集方法については, 「トラブルシューティングガイド」を参照してください。 なお, リンクアグリゲーションプログラムは自動的に再起動されます。リンクアグリゲーションプログラムが再起動しない場合, または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	LAd restarted.
		リンクアグリゲーションプログラム (LAd) を再起動しました。 このメッセージは, リンクアグリゲーションプログラムが自動的に再起動した場合, または restart link-aggregation コマンドによって再起動を要求した場合に出力されます。 [対応] なし。
20130001	E7	gsrpd aborted.
		GSRP プログラム (gsrpd) を強制終了しました。 [対応] GSRP プログラムの障害待避情報 (/usr/var/core 下のファイル gsrpd.core) およびログ情報, コンフィグレーションを収集してください。収集方法については, 「トラブルシューティングガイド」を参照してください。 なお, GSRP プログラムは自動的に再起動されます。GSRP プログラムが再起動しない場合, または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
20130002	R7	gsrpd restarted.
		GSRP プログラム (gsrpd) を再起動しました。 このメッセージは GSRP プログラムが自動的に再起動した場合, または restart gsrp コマンドによって再起動を要求した場合に出力されます。 [対応] なし。
20140001	E7	lldpd aborted.
		LLDP プログラム (lldpd) を強制終了しました。 [対応] LLDP プログラムは自動的に再起動します。LLDP プログラムが再起動しない場合, または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	lldpd restarted.
		LLDP プログラム (lldpd) を再起動しました。 このメッセージは LLDP プログラムが自動的に再起動した場合, または restart lldp コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		なし。
20150001	E7	oadpd aborted.
		OADP プログラム (oadpd) を強制終了しました。 [対応] OADP プログラムは自動的に再起動します。OADP プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	oadpd restarted.
		OADP プログラム (oadpd) を再起動しました。 このメッセージは OADP プログラムが自動的に再起動した場合、または restart oadp コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] なし。
20160001	E7	L2MacManager aborted.
		L2MAC 管理プログラム (L2MacManager) を強制終了しました。 [対応] L2MAC 管理プログラムは自動的に再起動します。L2MAC 管理プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	L2MacManager restarted.
		L2MAC 管理プログラム (L2MacManager) を再起動しました。 このメッセージは L2MAC 管理プログラムが自動的に再起動した場合、または restart vlan コマンドによって再起動を要求した場合に出力されます。 [対応] なし。
20160002	E4	The MAC-VLAN MAC Address entry can't be registered at hardware tables.
		MAC VLAN のコンフィグレーションコマンドで設定した MAC アドレスがハードウェアに設定できませんでした。 [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアの仕様によって収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
20170001	E7	axrpd aborted.
		Ring Protocol プログラム (axrpd) を強制終了しました。 [対応] Ring Protocol プログラムの障害待避情報 (/usr/var/core 下のファイル axrpd.core)、ログ情報、およびコンフィグレーションを収集してください。収集方法については、「トラブルシューティングガイド」を参照してください。 なお、Ring Protocol プログラムは自動的に再起動されます。Ring Protocol プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	axrpd restarted.

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		Ring Protocol プログラム (axrpd) を再起動しました。このメッセージは Ring Protocol プログラムが自動的に再起動した場合、または restart axrp コマンドによって再起動を要求した場合に出力されます。 [対応] なし。
20400001	E7	dot1xd aborted
		IEEE802.1X プログラム (dot1xd) を強制終了しました。 [対応] IEEE802.1X プログラムは自動的に再起動します。IEEE802.1X プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	dot1xd restarted.
		IEEE802.1X プログラム (dot1xd) を再起動しました。 このメッセージは IEEE802.1X プログラムが自動的に再起動した場合、または restart dot1x コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] なし。
20400003	E4	The 802.1X Supplicant MAC address can't be registered at hardware tables.
		IEEE802.1X で認証に成功した端末の MAC アドレスがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアの仕様によって収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
20400004	E4	The 802.1X Supplicant MAC address of MAC VLAN can't be registered at hardware tables.
		IEEE802.1X で MAC VLAN での認証に成功した端末の MAC アドレスがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアの仕様によって収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
20420001	E7	wad aborted.
		Web 認証プログラム (wad) を強制終了しました。 [対応] Web 認証プログラムは自動的に再起動します。Web 認証プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	wad restarted.
		Web 認証プログラム (wad) を再起動しました。 このメッセージは Web 認証プログラムが自動的に再起動した場合、または restart web-authentication コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] 認証クライアント側で再度認証作業を行ってください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20420002	E4	The wad MAC Address entry can't be registered at hardware tables.
		Web 認証機能で、端末の MAC アドレスがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアの仕様によって収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
20420003	E4	The wad MAC Address entry failed in the deletion.
		Web 認証機能で、登録した端末の MAC アドレスがハードウェアテーブルから削除されませんでした。 [対応] L2MAC 管理プログラム (L2MacManager) を再起動してください。
20430001	E7	macauthd aborted.
		MAC 認証プログラムを強制終了しました。 [対応] MAC 認証プログラムは自動的に再起動します。MAC 認証プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	macauthd restarted.
		MAC 認証プログラムを再起動しました。 このメッセージは MAC 認証プログラムが自動的に再起動した場合、または restart mac-authentication コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] 認証クライアント側で再度認証作業を行ってください。
20430002	E4	The macauthd MAC address entry can't be registered at hardware tables.
		MAC 認証で、端末の MAC アドレスがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアの仕様によって収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
20430003	E4	The macauthd MAC address entry failed in the deletion.
		MAC 認証で、登録した端末の MAC アドレスがハードウェアテーブルから削除されませんでした。 [対応] L2MacManager を再起動してください。
20700001	E7	efmoamd aborted.
		IEEE802.3ah/OAM プログラム (efmoamd) を強制終了しました。 [対応] IEEE802.3ah/OAM プログラムは自動的に再起動します。IEEE802.3ah/OAM プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	efmoamd restarted.
		IEEE802.3ah/OAM プログラム (efmoamd) を再起動しました。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		このメッセージは IEEE802.3ah/OAM プログラムが自動的に再起動した場合、または restart efmoam コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] なし。
20800001	E7	l2ldd aborted.
		L2 ループ検知プログラム (l2ldd) を強制終了しました。 [対応] L2 ループ検知プログラムは自動的に再起動します。L2 ループ検知プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	l2ldd restarted.
		L2 ループ検知プログラム (l2ldd) を再起動しました。 このメッセージは L2 ループ検知プログラムが自動的に再起動した場合、または restart loop-detection コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] なし。
20900001	E7	cfmd aborted.
		CFM プログラム (cfmd) を強制終了しました。 [対応] CFM プログラムの障害待避情報 (/usr/var/core 下のファイル cfmd.core) およびログ情報、コンフィグレーションを収集してください。 収集方法については、「トラブルシューティングガイド」を参照してください。 なお、CFM プログラムは自動的に再起動します。CFM プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	cfmd restarted.
		CFM プログラム (cfmd) を再起動しました。 このメッセージは CFM プログラムが自動的に再起動した場合、または restart cfm コマンドによって再起動を要求した場合に出力されます。 [対応] なし。
21000001	E7	snoopd aborted.
		IGMP snooping/MLD snooping プログラム (snoopd) を強制終了しました。 [対応] IGMP snooping/MLD snooping プログラムは自動的に再起動します。IGMP snooping/MLD snooping プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	snoopd restarted.
		IGMP snooping/MLD snooping プログラム (snoopd) を再起動しました。 このメッセージは IGMP snooping/MLD snooping プログラムが自動的に再起動した場合、または restart snooping コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		なし。
25090003	E3	System changes to the schedule power control because it became schedule time.
		スケジュール時間が開始し、スケジュール省電力が有効になりました。 [対応] なし。
25090004	E3	System changes from the schedule power control because it ended schedule time.
		スケジュール時間帯が終了し、スケジュール省電力が無効になりました。 [対応] なし。
25090005	E3	The schedule power control is enable because it is schedule time.
		スケジュール時間帯のため、スケジュール省電力が有効です。 [対応] なし。
25090006	E3	The schedule power control is disable because it is not schedule time.
		通常時間帯のため、スケジュール省電力は無効です。 [対応] なし。
25300000	E7	nimd aborted.
		ネットワークインタフェース管理プログラム（nimd）を強制終了しました。 [対応] ネットワークインタフェース管理プログラムは自動的に再起動します。ネットワークインタフェース管理プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	nimd restarted.
		ネットワークインタフェース管理プログラム（nimd）を再起動しました。 このメッセージは、ネットワークインタフェース管理プログラムが自動的に再起動した場合、または restart vlan コマンドによって再起動を要求した場合に出力されます。 [対応] なし。
27000001	E7	accountingd aborted.
		アカウントングプログラム（accountingd）を強制終了しました。 [対応] アカウントングプログラムの障害待避情報（/usr/var/core 下のファイル acctd.core）およびログ情報、コンフィグレーションを収集してください。収集方法については、「トラブルシューティングガイド」を参照してください。なお、アカウントングプログラムは自動的に再起動されます。アカウントングプログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
	R7	accountingd restarted.
		アカウントングプログラム (accountingd) を再起動しました。 このメッセージはアカウントングプログラムが自動的に再起動した場合、または restart accounting コマンドによって再起動を要求した場合に出力されます。 [対応] なし。
27000011	E7	System accounting temporary stopped because accounting event congestion detected.
		アカウントングイベント送信が輻輳したため、ログイン・ログアウト・コマンドのアカウントングを一時停止しました。 [対応] show accounting コマンドでエラーが発生している RADIUS サーバまたは TACACS+サーバがないかを確認してください。エラーが発生している RADIUS サーバまたは TACACS+サーバのコンフィグレーションの設定を確認してください。また、RADIUS サーバまたは TACACS+サーバ側の設定も正しいことを確認してください。 輻輳状態は次のどれかの契機で回復します。 1. RADIUS サーバまたは TACACS+サーバとの通信が復旧後、送信待ちアカウントングイベント数が 256 まで減少したとき。 送信待ちアカウントングイベント数は、show accounting コマンドの表示項目「InQueue」で確認できます。 2. restart accounting コマンド実行時。 3. 次に示すアカウントング関連のコンフィグレーション変更時。 aaa accounting exec, aaa accounting commands, radius-server 関連コマンド, tacacs-server 関連コマンド, interface loopback モードの ip address
	R7	System accounting recovered from congestion.
		アカウントングイベント送信が輻輳から回復したため、ログイン・ログアウト・コマンドのアカウントングを再開しました。 [対応] なし。
27000013	E4	System accounting failed (<number> times).
		ログイン・ログアウト・コマンドのアカウントングが失敗しました。 このメッセージは、アカウントングが失敗した場合に、間隔をあけて出力されます。なお、1 回でも成功した場合や、1 時間失敗が起きなかった場合には、失敗回数はクリアされます。 <number> 連続して失敗した回数 [対応] 1. RADIUS サーバまたは TACACS+のコンフィグレーションが設定されているか確認してください。 2. RADIUS サーバまたは TACACS+サーバの IP アドレスに誤りがないかコンフィグレーションを確認してください。 3. RADIUS サーバまたは TACACS+サーバのポート番号に誤りがないかコンフィグレーションを確認してください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
2a001000	E7	httpd aborted.
		HTTP プログラム (httpd) を強制終了しました。 [対応] HTTP プログラムは自動的に再起動します。HTTP プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	httpd restarted.
		HTTP プログラム (httpd) を再起動しました。このメッセージは、HTTP プログラムが自動的に再起動した場合、または restart netconf コマンドによって HTTP プログラムと NETCONF プログラムの再起動を要求した場合に出力されます。 [対応] なし。

2.4.8 30XXXXXX-32XXXXXX

ここでは、メッセージ識別子の上位 2 桁が 30 から 32 の運用メッセージを示します。

表 2-11 イベント発生部位 SOFTWARE の運用メッセージ (30XXXXXX-)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
3000b041	E7	dhcp_snoopingd aborted.
		DHCP snooping プログラム (dhcp_snoopingd) を強制終了しました。 DHCP snooping が、メモリ領域不足などの異常を検出したため、動作継続を断念し、強制終了しました。 [対応] DHCP snooping プログラムは自動的に再起動します。DHCP snooping プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	dhcp_snoopingd restarted.
		DHCP snooping プログラム (dhcp_snoopingd) を再起動しました。 このメッセージは DHCP snooping プログラムが自動的に再起動した場合、または restart dhcp snooping コマンドによって再起動した場合に出力します。 [対応] なし。
3000b042	E3	Discard of packets occurred by a reception rate limit of DHCP packets and ARP packets.
		DHCP パケットと ARP パケットの受信レート制限によるパケット廃棄が発生しました。 [対応] なし。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
3000b043	E3	Failed in binding database generate by binding entry exceeded(<mac address>/<vlan id>/<ip address>).
		データベースエントリ不足によってバインディングデータベース生成に失敗しました。 <mac address>/<vlan id>/<ip address> DHCP クライアント端末情報 • <mac address> MAC アドレス • <vlan id> VLAN ID • <ip address> IP アドレス [対応] 装置の収容条件を超えました。システム構成を見直してください。また、スタティックエントリの追加によって本メッセージが表示された場合は該当するスタティックエントリを削除してください。
3000b044	E3	The binding database can't be restored(<reason>).
		バインディングデータベースを復元できませんでした。 <reason> 失敗理由 • File is not found. (ファイルが見つかりません) • May be broken. (バインディングデータベースが壊れているおそれがあります) • The data is not saved. (復元できるデータがありません) [対応] バインディングデータベースの保存先を確認してください。
3000b045	E3	The binding database can't be stored(<reason>).
		バインディングデータベースを保存できません。 <reason> 失敗理由 • File is not writing. (ファイルに書き込みができません) [対応] バインディングデータベースの保存先を確認してください。
3000b046	E3	The binding database was restored from <url>.
		バインディングデータベースを復元しました。 <url> 読み込んだバインディングデータベース • previous process リスタート前のプロセス • flash 内蔵フラッシュメモリ • mc MC [対応] なし。
3000b047	E3	Failed in source guard setting by DHCP snooping (<mac address>/<vlan id>/<ip address>/<nif no.>/<port no.>).
		端末フィルタの設定に失敗しました。 <mac address>/<vlan id>/<ip address>/<nif no.>/<port no.> 端末フィルタ設定情報 • <mac address> MAC アドレス

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		• <vlan id> VLAN ID • <ip address> IP アドレス • <nif no.> NIF 番号 • <port no.> ポート番号 [対応] 装置の収容条件を超えました。システム構成を見直してください。
32001001	E7	trackobjd aborted.
		トラックオブジェクトプログラム (trackobjd) を強制終了しました。 [対応] トラックオブジェクトプログラムは自動的に再起動します。トラックオブジェクトプログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	trackobjd restarted.
		トラックオブジェクトプログラム (trackobjd) を再起動しました。 このメッセージはトラックオブジェクトプログラムが自動的に再起動した場合、または restart track-object コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] なし。

2.5 SOFTWARE（認証 VLAN）【OP-VAA】

ここでは、イベント発生部位 SOFTWARE（認証 VLAN）の運用メッセージを示します。

表 2-12 イベント発生部位 SOFTWARE（認証 VLAN）の運用メッセージ

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20410001	E7	vaad aborted.
		VAA プログラム（vaad）を強制終了しました。 [対応] VAA プログラムは自動的に再起動します。VAA プログラムが再起動しない場合、または再起動が頻発する場合は装置を再起動してください。
	R7	vaad restarted.
		VAA プログラム（vaad）を再起動しました。 このメッセージは VAA プログラムが自動的に再起動した場合、または restart vaad コマンドによって再起動を要求した場合に出力します。 [対応] 認証クライアント側で再度認証作業を行ってください。
20410002	E3	vaad connection closed <ipv4 address>.
		VAA と認証サーバ<ipv4 address>とのコネクションが切断されました。 このメッセージは VAA と認証サーバ間の TCP コネクションが何らかの要因で切断された場合、または VAA を停止した場合に出力します。 <ipv4 address> 認証サーバの IPv4 アドレス [対応] VAA が起動状態の場合は、自動的に再接続します。
20410003	E3	vaad connection was established <ipv4 address>.
		VAA と認証サーバ<ipv4 address>とのコネクションが確立しました。 このメッセージは、VAA と認証サーバ間の TCP コネクションが確立された場合に出力します。 <ipv4 address> 認証サーバの IPv4 アドレス [対応] なし。
20410004	E3	vaad Server protocol version is not supported.
		認証サーバのプロトコルバージョンが、VAA でサポートしているバージョンではありません。 このメッセージは、認証サーバのプロトコルバージョンが"1.0"以外の場合に出力します。 [対応] 認証サーバのプロトコルバージョンを"1.0"に変更してください。
20410005	E3	vaad Since L2MacManager restarted, all MAC was deleted.
		L2MacManager が VAA とのソケットをクローズしたため、認証登録してあるすべての MAC アドレスを削除しました。 [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		認証クライアント側で再度認証作業を行ってください。
20410006	E3	vaad all MAC address were cleared.
		VAA と認証サーバ間のすべての TCP コネクションが、指定されたリトライ回数内で確立できなかったため、認証登録してあるすべての MAC アドレスを削除しました。 [対応] 本装置と認証サーバ間でネットワーク的に導通できるか確認してください。
20410007	E3	vaad The socket with L2MacManager was closed.
		VAA と L2MacManager 間のソケットをクローズしました。 [対応] このエラーが頻発する場合は、L2MacManager を再起動してください。
20410008	E4	The vaad MAC Address entry can't be registered at hardware tables.
		VAA 機能で、端末の MAC アドレスがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアの仕様によって収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
20410009	E4	vaad failed to get configuration data.
		装置内部で VAA 機能のコンフィグレーションデータの取得を失敗しました。 [対応] VAA 機能のコンフィグレーションを削除し、VAA のコンフィグレーションを再設定してください。
20410010	E4	vaad failed to make temporary file.
		装置内部で VAA 機能のテンポラリファイルの作成を失敗しました。 [対応] VAA 機能のコンフィグレーションを削除し、VAA のコンフィグレーションを再設定してください。
20410011	E4	vaad was not able to get enough memory.
		装置のメモリ容量が足りないため、VAA のメモリ確保を失敗しました。 [対応] VAA 機能のコンフィグレーションを削除し、VAA のコンフィグレーションを再設定してください。
20410012	E3	VAA information defined by the configuration file is ignored, since VAA function license is not given.
		スタートアップコンフィグレーションファイルで設定された VAA 情報はライセンスが与えられていないため無効となります。 [対応] set license コマンドでオプションライセンス OP-VAA を設定し、装置を再起動してください。

2.6 CONFIG

ここでは、イベント発生部位 CONFIG の運用メッセージを示します。

表 2-13 イベント発生部位 CONFIG の運用メッセージ

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
09300001	E3	This system started with the default configuration file. because the startup configuration file is not found or broken.
		次のどちらかの理由によって、デフォルト設定情報で運用を開始しました。 • スタートアップコンフィグレーションファイルがない、または読み込めない • 装置の障害が発生して自動復旧した回数が、一定時間内に 6 回に達した [対応] 1. コンフィグレーションファイルを待避している場合は copy コマンドを使用し、保存しているコンフィグレーションファイルをスタートアップコンフィグレーションファイルに反映してください。 2. コンフィグレーションファイルを待避していない場合は、新しくコンフィグレーションファイルを作成してください。 3. show logging コマンドでログを確認し、障害が発生している場合はそのメッセージに対応した処置をしてください。
09300002	E3	Configuration command syntax error. line <line number> : "<error syntax>"
		スタートアップコンフィグレーションファイルで構文誤りを検出したのでランニングコンフィグレーションへの反映をスキップしました。 <line number> 対象のコンフィグレーションコマンドの行番号 <error syntax> 対象のコンフィグレーションコマンドの構文 [対応] 確認だけしてください。
09300007	E3	Configuration edit status forcedly finished.
		コンフィグレーションの状態を編集可能状態から編集終了状態に強制的に変更しました。 [対応] コンフィグレーションコマンドモードにいる全ユーザをコンフィグレーションコマンドモードから exit した後、再度編集を開始してください。
09300008	E3	Cannot set the automatic setting configuration command.:<command>
		コンフィグレーションコマンドの自動設定に失敗しました。 <command> コマンド名 [対応] 該当コマンドを手動で設定してください。
09600006	E3	Configuration access management error. process<process name>:pid<process id>:time <time>
		コンフィグレーションに長時間アクセスしているプロセスがいたため、ロックを解放し自動的に復旧しました。 <process name> 発生プロセス名

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
	内容と対応	
	<process id> 発生プロセス ID <time> 発生時刻 (曜日 月 日 時:分:秒 年) [対応] なし。	

2.7 ACCESS

ここでは、イベント発生部位 ACCESS の運用メッセージを示します。

表 2-14 イベント発生部位 ACCESS の運用メッセージ

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
00000001	E3	Unknown host address <ip address>.
		telnet, ftp, または SSH で接続しようとしたが、<ip address>からの接続を許可しませんでした。 <ip address> IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス [対応] 1. 本装置に対して不正なアクセス（コンフィグレーションで許可された以外のリモートホストからのアクセス）が行われた可能性があります。IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスが<ip address>のリモートホストをチェックしてください。 2. <ip address>からのリモートアクセスを許可している場合はコンフィグレーションに誤りがある可能性があります。コンフィグレーションをチェックしてください。 3. <ip address>からのリモートアクセスを許可したい場合はコンフィグレーションでアクセス許可の指定を行ってください。
00000002	E3	Login incorrect <user name>.
		<user name>のアカウントでログインしようとしたが、ログインを許可しませんでした。 <user name> ユーザ名 [対応] 1. 本装置に対してコンソールまたはコンフィグレーションで許可されたりリモートホストから不正なアクセス（アカウント、パスワード認証で失敗）が行われた可能性があります。コンソールまたはコンフィグレーションで許可したりリモートホストの運用状況を確認してください。 2. このログは正規のユーザがログイン時に誤った操作をした場合にも収集されます。したがって、このログが収集されてもリモートホストの運用状況に問題がない場合もあります。 3. 本装置に adduser コマンドにより登録済みのアカウントかどうかを確認してください。 (確認方法: ls /usr/home でホームディレクトリがあるか確認)
00000003	E3	Login refused for too many users logged in.
		telnet または SSH で接続しようとしたが、ログインユーザ数をオーバーしたため、接続を許可しませんでした。 [対応] 1. 現在ログインしているユーザ数を確認してください。 2. 必要であれば、コンフィグレーションでログインできるユーザ数の制限を増加させてください。
00005002	E3	Login <user name> from <host> (<term>).
		ユーザがログインしました。 <user name> ユーザ名 <host> ホスト識別子 • リモート運用端末の場合: IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		• コンソール端末の場合：console <term> 端末名 • リモート運用端末の場合：tty0～ • コンソール端末の場合：tty00 [対応] なし。
00005003	E3	Logout <user name> from <host> (<term>). ユーザがログアウトしました。 <user name> ユーザ名 <host> ホスト識別子 • リモート運用端末の場合：IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス • コンソール端末の場合：console <term> 端末名 • リモート運用端末の場合：tty0～ • コンソール端末の場合：tty00 [対応] なし。
00010001	E3	SNMP agent program received packet from <ip address> with unexpected community name <community name>. SNMP エージェントは、<ip address>から、期待していないコミュニティ名<community name>の パケットを受信しました。 <ip address> SNMP マネージャの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス <community name> コミュニティ名 [対応] 本装置に対してコンフィグレーションで許可している SNMP マネージャ以外からアクセスが行われま した。このメッセージは、SNMP マネージャの IP アドレスとコミュニティ名がコンフィグレーション で許可している SNMP マネージャの IP アドレスとコミュニティ名と一致していない場合に出力しま す。本装置にアクセスする SNMP マネージャの IP アドレスとコミュニティ名が<ip address>と <community name>に一致しているかコンフィグレーションを確認してください。一致していない 場合、不正なアクセスが行われている可能性があります。<ip address>の SNMP マネージャに対 して、アクセスしないよう SNMP マネージャの管理者に連絡してください。 本装置では不正な IP アドレスまたはコミュニティからのアクセスに対して、運用ログの連続出力を抑止 しています。最大 16 個の不正アクセス IP アドレス情報を保持し、保持されている IP アドレスからの 不正アクセスログは 128 回に 1 回出力します。
00030001	E3	Local authentication succeeded. ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更（enable コマンド）要求に対し、ローカル 認証を行い認証に成功しました。 [対応] なし。
00030002	E3	Local authentication failed.

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し、ローカル認証を行い認証に失敗しました。 [対応] 1. 本装置に対してコンフィグレーションで許可されたりリモートホストから不正なアクセスが行われた可能性があります。リモートホストの運用状況を確認してください。 2. このログは正規のユーザがログイン時に誤った操作 (パスワード入力間違いなど) をした場合にも収集されます。したがって、このログが収集されてもリモートホストの運用状況に問題がない場合もあります。
00030003	E3	RADIUS authentication accepted from <host>.
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し、RADIUS 認証を行い認証に成功しました。 <host> RADIUS サーバの IP アドレスまたはホスト名 [対応] なし。
00030004	E3	RADIUS authentication rejected from <host>. "<message>"
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し、RADIUS 認証を行いましたが、RADIUS サーバによって否認されました。 <host> RADIUS サーバの IP アドレスまたはホスト名 <message> RADIUS サーバからの応答メッセージ [対応] 1. 本装置に対してコンフィグレーションで許可されたりリモートホストから不正なアクセスが行われた可能性があります。リモートホストの運用状況を確認してください。 2. このログは正規のユーザがログイン時に誤った操作 (パスワード入力間違いなど) をした場合にも収集されます。したがって、このログが収集されてもリモートホストの運用状況に問題がない場合もあります。 3. RADIUS サーバの設定を確認してください。
00030005	E3	RADIUS server (<host>) didn't response.
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し、RADIUS 認証を行おうとしましたが、RADIUS サーバが応答を返しませんでした。 <host> RADIUS サーバの IP アドレスまたはホスト名 [対応] 1. RADIUS サーバの IP アドレスが誤っていないかコンフィグレーションを確認してください。 2. RADIUS サーバのポート番号が誤っていないかコンフィグレーションを確認してください。 3. RADIUS サーバが起動していることを確認してください。 4. RADIUS サーバ側のクライアント IP アドレスに本装置の IP アドレスが登録されていることを確認してください。
00030006	E3	RADIUS server configuration is not defined.
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し、RADIUS 認証を行おうとしましたが、RADIUS サーバに関するコンフィグレーションがありませんでした。 [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		1.RADIUS コンフィグレーションが設定されているか確認してください。 2.RADIUS コンフィグレーションで、acct-only が指定され認証が抑止されていないか確認してください。
00030007	E3	Invalid response received from <host>.
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し, RADIUS/TACACS+認証を行いました, RADIUS/TACACS+サーバからの応答が不正でした。 <host> RADIUS/TACACS+サーバの IP アドレスまたはホスト名 [対応] RADIUS/TACACS+鍵が本装置と RADIUS/TACACS+サーバ間で一致していることを確認してください。
00030008	E3	RADIUS authentication failed.
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し, RADIUS 認証を行い認証に失敗しました。 [対応] 本メッセージの他に RADIUS 認証に関する運用ログが出力されている場合は, そのメッセージを参照してください。
0003000a	E3	Can't communicate with RADIUS server (<host>).
		RADIUS サーバと通信できません。 <host> RADIUS サーバの IP アドレスまたはホスト名 [対応] 1.RADIUS サーバまでの経路があることを確認してください。 2.RADIUS サーバをホスト名で指定している場合は, 名前解決ができることを確認してください。
0003000b	E3	RADIUS authorization response with no contents.
		RADIUS コマンド承認を行いました, RADIUS サーバから正常に取得できたコマンドリストがありませんでした。 [対応] RADIUS サーバ側の設定 (本装置のベンダー固有設定) に Class, Alaxala-Allow-Commands, Alaxala-Deny-Commands が正しく設定されていることを確認してください。
00030013	E3	TACACS+ authentication accepted from <host>.
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し, TACACS+認証を行い認証に成功しました。 <host> TACACS+サーバの IP アドレスまたはホスト名 [対応] なし。
00030014	E3	TACACS+ authentication rejected from <host>.
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し, TACACS+認証を行いました, TACACS+サーバにより否認されました。 <host> TACACS+サーバの IP アドレスまたはホスト名

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		[対応] 1. 本装置に対してコンフィグレーションで許可されたリモートホストから不正なアクセスが行われた可能性があります。リモートホストの運用状況を確認してください。 2. 本ログは正規のユーザがログイン時に誤った操作（パスワード入力間違いなど）をした場合にも収集されます。したがって、本ログが収集されてもリモートホストの運用状況に問題がない場合もあります。 3. TACACS+サーバの設定を確認してください。
00030015	E3	TACACS+ server (<host>) didn't response.
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し、TACACS+認証、コマンド承認 (TACACS+コンフィグレーションでコマンド承認指定ありの場合) を行おうとしましたが、TACACS+サーバが応答を返しませんでした。 <host> TACACS+サーバの IP アドレスまたはホスト名 [対応] 1. TACACS+サーバの IP アドレスが誤っていないかコンフィグレーションを確認してください。 2. TACACS+サーバが起動していることを確認してください。
00030016	E3	TACACS+ server configuration is not defined.
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し、TACACS+認証を行おうとしましたが、TACACS+サーバに関するコンフィグレーションがありませんでした。 [対応] 1. TACACS+コンフィグレーションが設定されているか確認してください。 2. TACACS+コンフィグレーションで、acct-only が指定され認証が抑止されていないか確認してください。
00030018	E3	TACACS+ authentication failed.
		ユーザからのログイン要求または装置管理者モードへの変更 (enable コマンド) 要求に対し、TACACS+認証を行い認証に失敗しました。 [対応] 他に TACACS+認証に関する運用ログが出力されている場合は、そのメッセージを参照してください。
0003001a	E3	Can't communicate with TACACS+ server (<host>).
		TACACS+サーバと通信できません。 <host> TACACS+サーバの IP アドレスまたはホスト名 [対応] 1. TACACS+サーバまでの経路があることを確認してください。 2. TACACS+サーバをホスト名で指定している場合は、名前解決ができることを確認してください。 3. TACACS+サーバのポート番号が誤っていないかコンフィグレーションを確認してください。 4. TACACS+サーバが起動していることを確認してください。 5. TACACS+サーバ側のクライアント IP アドレスに本装置の IP アドレスが登録されていることを確認してください。
0003001b	E3	TACACS+ authorization response with no contents.

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		TACACS+コマンド承認を行いました。TACACS+サーバから正常に取得できたコマンドリストが一つもありませんでした。 [対応] TACACS+サーバ側の設定（本装置のベンダー固有設定）に class, allow-commands, deny-commands が正しく設定してあることを確認してください。
0003001c	E3	TACACS+ authorization rejected from <host>.
		TACACS+コマンド承認を行いました。TACACS+サーバにより否認されました。 <host> TACACS+サーバの IP アドレスまたはホスト名 [対応] 1. TACACS+サーバ側の設定（本装置のベンダー固有設定）の service 名が正しいことを確認してください。 2. TACACS+サーバ側のその他の設定を確認してください。
0003001d	E3	Local authorization response with no contents.
		ローカルコマンド承認を行いました。ユーザ名とそれに対応したコマンドクラスまたはコマンドリストの設定がありませんでした。 [対応] ローカルログインで認証されたユーザに、コマンドクラス（username view-class）またはコマンドリスト（username view・parser view・commands exec）の設定が正しく設定されていることを確認してください。

2.8 PORT

ここでは、イベント発生部位 PORT の運用メッセージを示します。

表 2-15 イベント発生部位 PORT の運用メッセージ

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
25011000	E3	Port enabled administratively.
		コンフィグレーションコマンド no shutdown, no schedule-power-control shutdown によって、ポートは disable 状態を解除されました。 [対応] なし。
25011001	E4	Port up.
		ポートが up しました。 [対応] なし。
25011002	E4	Transceiver connected.
		トランシーバの挿入を検出しました。 [対応] なし。
25011006	E3	Port activated administratively.
		activate コマンドによって、ポートは inactive 状態を解除されました。 [対応] なし。
25011100	E3	Port disabled administratively.
		コンフィグレーションコマンド shutdown, schedule-power-control shutdown によって、ポートは disable 状態にされました。 [対応] なし。
25011101	E4	Error detected on the port.
		ポートで障害を検出しました。 [対応] 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T の場合 1. 指定のケーブルを正しく接続しているか確認してください。 2. 相手装置の立ち上げが完了しているか確認してください。 3. test interfaces コマンドを実行し、装置、トランシーバに問題がないことを確認してください。 100BASE-FX/1000BASE-X/10GBASE-R の場合 1. 指定のケーブルを正しく接続しているか確認してください。また、ケーブルの端面が汚れていないか確認してください。汚れている場合は、汚れをふき取ってください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		2. 光アッテネータ(光減衰器)を使用している場合、減衰値を確認してください。 3. 相手装置の立ち上げが完了しているか確認してください。 4. test interfaces コマンドを実行し、装置、トランシーバに問題がないことを確認してください。
25011102	E4	Transceiver notconnected.
		トランシーバの抜去を検出しました。 [対応] トランシーバを正しく挿入してください。
25011103	E4	Auto negotiation failed.
		オートネゴシエーションが失敗しました。 [対応] - オートネゴシエーションの設定を確認してください。 - test interfaces コマンドを実行し、装置、トランシーバに問題がないことを確認してください。 - 装置およびトランシーバが正常な場合、ケーブルおよび接続先の機器を確認してください。
25011104	E4	Many failures occurred in receiving frames to the targeted port due to the port troubles. Execute the Line tests to check the port condition.
		ノイズなどによるエラーのため、該当ポートでのフレーム受信失敗が多発しています。 [対応] - test interfaces コマンドを実行し、装置、トランシーバに問題がないことを確認してください。 - 装置およびトランシーバが正常な場合、ケーブルおよび接続先の機器を確認してください。
25011105	E4	Many failures occurred in sending frames to the targeted port due to the port troubles. Execute the Line tests to check the port condition.
		ノイズなどによるエラーのため、該当ポートでのフレーム送信失敗が多発しています。 [対応] - test interfaces コマンドを実行し、装置、トランシーバに問題がないことを確認してください。 - 装置およびトランシーバが正常な場合、ケーブルおよび接続先の機器を確認してください。
25011106	E3	Port inactivated administratively.
		inactivate コマンドによって、ポートは inactive 状態にされました。 [対応] なし。
25011500	E4	Transceiver not supported.
		未サポートのトランシーバを検出しました。 [対応] 「ハードウェア取扱説明書」の「SFP 一覧」および「XFP 一覧」を参照して、該当ポート番号でサポートしているトランシーバを挿入してください。
25020201	E8	Port restarted because of its hardware failure.
		ポート部分にハードウェア障害が発生したので、ポート部分の再起動を行いました。

2 イベント発生部位形式

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
	内容と対応	
	[対応] これより後の障害回復ログ，または障害回復失敗のログを確認してください。障害回復した場合は継続して運用可能です。失敗の場合は未使用のポートを使用してください。障害となったポートを再度使用する場合は，装置を交換してください。トランシーバを使用している場合は，トランシーバがしっかり挿入されているか確認してください。	
	R8	Port recovered from hardware failure.
	ポート部分のハードウェア障害から回復しました。 [対応] なし。	
25020202	E8	Port stopped because of its hardware failure.
	ポート部分にハードウェア障害が発生したので，ポート部分を停止しました。 [対応] 未使用のポートを使用してください。障害となったポートを再度使用する場合は，装置を交換してください。	
25020401	E8	Port restarted, but not recovered from hardware failure.
	ポート部分の再起動を行いました，ポート部分のハードウェア障害から回復しませんでした。 [対応] トランシーバ使用時 - 該当ポートで inactivate コマンドを実行後，トランシーバをいったん抜いてから再度挿入し，activate コマンドを実行してください。 - 回線をリンクアップさせて，障害から復旧するか確認してください。 2で回復しない場合，inactivate コマンドを実行後，トランシーバを交換し，activate コマンドを実行してください。 - 回線をリンクアップさせて，障害から復旧するか確認してください。 4で回復しない場合，未使用のポートを使用してください。障害となったポートを再度使用する場合は，装置を交換してください。 トランシーバ未使用時 未使用のポートを使用してください。障害となったポートを再度使用する場合は，装置を交換してください。	
25100009	E4	Inactivated because of broadcast storm detection.
	ブロードキャストストームを検出したため，ポートを inactive 状態にしました。 [対応] ストームから回復した後，activate コマンドでポートを active 状態にしてください。	
2510000a	E4	Broadcast storm detected.
	ブロードキャストストームを検出しました。 [対応] なし。	
2510000b	E4	Broadcast storm recovered.

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		ブロードキャストストームが回復しました。 [対応] なし。
2510000c	E4	Inactivated because of multicast storm detection.
		マルチキャストストームを検出したため、ポートを inactive 状態にしました。 [対応] ストームから回復した後、activate コマンドでポートを active 状態にしてください。
2510000d	E4	Multicast storm detected.
		マルチキャストストームを検出しました。 [対応] なし。
2510000e	E4	Multicast storm recovered.
		マルチキャストストームが回復しました。 [対応] なし。
2510000f	E4	Inactivated because of unicast storm detection.
		ユニキャストストームを検出したため、ポートを inactive 状態にしました。 [対応] ストームから回復した後、activate コマンドでポートを active 状態にしてください。
25100010	E4	Unicast storm detected.
		ユニキャストストームを検出しました。 [対応] なし。
25100011	E4	Unicast storm recovered.
		ユニキャストストームが回復しました。 [対応] なし。
25100012	E4	NIF <nif no.> Port <port no.>:inactivated because of uni-directional link detection.
		片方向リンク障害を検出したため、ポートを inactive 状態にしました。 <nif no.> NIF 番号 <port no.> ポート番号 [対応] - 接続先で IEEE802.3ah/OAM 機能が有効であることを確認してください。 - test interfaces コマンドを実行し、装置、トランシーバに問題がないことを確認してください。 - 装置およびトランシーバが正常な場合、ケーブルおよび接続先の機器を確認してください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		その後、activate コマンドでポートを active 状態にしてください。
25100013	E4	NIF <nif no.> Port <port no.>:inactivated because of loop detection.
		ループを検出したため、ポートを inactive 状態にしました。 <nif no.> NIF 番号 <port no.> ポート番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。
25230000	E3	Unable to use traffic-shape rate feature because value exceeding setting range was specified.
		設定範囲外の値が指定されたため、ポート帯域制御を使用できません。 [対応] 設定範囲内の帯域に変更してください。設定範囲については、「コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1」 「traffic-shape rate」の rate パラメータの説明を参照してください。
25230001	E3	Unable to use traffic-shape rate feature because its setting unit was an unjust value.
		設定単位が不当であったため、ポート帯域制御を使用できません。 [対応] 指定可能な設定単位に変更してください。指定可能な設定単位については、「コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1」 「traffic-shape rate」の rate パラメータの説明を参照してください。
25230002	E3	Port half duplex does not support traffic-shape rate feature.
		半二重回線では、ポート帯域制御を使用できません。 [対応] 次のどちらかを実施してください。 1. ポート帯域制御を使用する場合、全二重回線に変更してください。 2. 半二重回線で使用する場合、コンフィグレーションコマンド no traffic-shape rate でポート帯域制御を削除してください。
25230003	E3	Unable to use WFQ feature because minimum rate exceeding setting range was specified for queue <queue no.>.
		キュー番号<queue no.>に指定した最低保証帯域が設定範囲外のため、WFQ を含むスケジューリングモードは使用できません。 <queue no.> キュー番号 [対応] 設定範囲内の最低保証帯域に変更してください。設定範囲については、「コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1」 「qos-queue-list」の wfq パラメータの説明を参照してください。
25230004	E3	Unable to use WFQ feature because unit of the minimum rate specified for queue <queue no.> was unjustified.
		キュー番号<queue no.>に指定した最低保証帯域の設定単位が不当であったため、WFQ を含むスケジューリングモードは使用できません。 <queue no.> キュー番号

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		[対応] 指定可能な設定単位に変更してください。指定可能な設定単位については、「コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1」 「qos-queue-list」の wfq パラメータの説明を参照してください。
25230005	E3	Unable to use WFQ feature because total value of minimum rate exceeding the maximum rate of the port.
		最低保証帯域の合計値が回線の最大送出帯域を超えたため、WFQ を含むスケジューリングモードは使用できません。 [対応] 最低保証帯域の合計値が最大送出帯域以内になるようにコンフィグレーションコマンド qos-queue-list で変更してください。
25230006	E3	Port half duplex does not support WFQ feature.
		半二重回線では、WFQ を含むスケジューリングモードは使用できません。 [対応] 次のどちらかを実施してください。 1. スケジューリングモードで WFQ を使用する場合、全二重回線に変更してください。 2. 半二重回線で使用する場合、コンフィグレーションコマンドの qos-queue-group および qos-queue-list で、WFQ を含まないスケジューリングモードに変更してください。

2.9 MAC

ここでは、イベント発生部位 MAC の運用メッセージを示します。

表 2-16 イベント発生部位 MAC の運用メッセージ

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20120002	E4	Channel Group(<channel group number>) is Up.
		チャンネルグループが UP 状態になりました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20120003	E4	Channel Group(<channel group number>) is Down - All port detached.
		チャンネルグループ内のすべてのポートが離脱されチャンネルグループが DOWN 状態になりました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 相手装置との接続回線の状態に関し、以下を確認してください。 1. 回線が DOWN していないか 2. 回線が半二重になっていないか 3. 相手装置の LACP 設定および回線の状態は正常か
20120004	E4	Channel Group(<channel group number>) is Down - The number of the detached port exceeded the configured number.
		チャンネルグループ内の離脱ポート数が設定された制限を超えてチャンネルグループが DOWN 状態になりました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 相手装置との接続回線の状態に関し、以下を確認してください。 1. 回線が DOWN していないか 2. 回線が半二重になっていないか 3. 相手装置の LACP 設定および回線の状態は正常か
20120005	E3	Channel Group(<channel group number>) disabled administratively.
		コンフィグレーションによってチャンネルグループは運用停止に指定されました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20120006	E3	Channel Group(<channel group number>) enabled administratively.
		コンフィグレーションによってチャンネルグループは運用停止を解除しました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20120007	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Different Partner System ID is detected.
		LACP モードのリンクアグリゲーションにおいて相手装置の System ID がポート間で一致しなかったためチャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 以下を確認してください。 1. 相手装置と正しく接続しているか 2. 相手装置の System ID 設定は正しいか
20120008	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Different Partner Key is detected.
		LACP モードのリンクアグリゲーションにおいて相手装置の Key がポート間で一致しなかったためチャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 以下を確認してください。 1. 相手装置と正しく接続しているか 2. 相手装置の Key 設定は正しいか
20120009	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) removed from Channel Group(<channel group number>).
		コンフィグレーションのリンク削除によりチャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20120010	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Port down.
		回線が DOWN 状態になりチャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 回線の状態を確認してください。
20120011	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Different Port data rate.
		速度の異なる回線がチャンネルグループ内に存在し、速度の遅い回線をチャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		[対応] 離脱された回線に関し、本装置および相手装置の設定状態を確認してください。
20120012	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Half-duplex port.
		半二重で動作中の回線をチャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 離脱された回線に関し、本装置および相手装置の設定状態を確認してください。
20120013	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Denied by the LACP partner.
		LACP モードのリンクアグリゲーションにおいて、LACP により相手装置から接続拒否されチャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 相手装置の設定を確認してください。
20120014	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - LACPDU timeout.
		LACP モードのリンクアグリゲーションにおいて、相手装置からの LACPDU を受信せずタイムアウトによりチャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 相手装置の設定、active 状態を確認してください。
20120015	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Configuration is changed.
		コンフィグレーション変更によりチャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20120016	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Port moved is detected.
		チャンネルグループ内でポートが移動したことにより、チャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20120017	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Partner Aggregation bit is FALSE.
		LACP モードで相手装置のアグリゲーションビットが FALSE のため、チャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20120018	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Partner Port number is changed.
		相手装置のポート番号が変更したため、チャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20120019	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Partner Port priority is changed.
		相手装置のポート優先度値が変更したため、チャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20120020	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - Operation of detach port limit.
		離脱ポート制限により、チャンネルグループから離脱しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20120021	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) added to Channel Group(<channel group number>).
		チャンネルグループにポートが追加されました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20120022	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) attached to Channel Group(<channel group number>).
		チャンネルグループにポートが集約されました。

2 イベント発生部位形式

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		<nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20120023	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) attached to Channel Group(<channel group number>) - A standby port became active.
		スタンバイリンクによる運転を開始しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20120024	E3	Port(<nif no.>/<port no.>) detached from Channel Group(<channel group number>) - This port became a standby port.
		スタンバイリンクによる運転を停止しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。

2.10 VLAN

ここでは、イベント発生部位 VLAN の運用メッセージを示します。

2.10.1 2011XXXX

ここでは、メッセージ識別子の上位 4 桁が 2011 の運用メッセージを示します。

表 2-17 イベント発生部位 VLAN の運用メッセージ (2011XXXX)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20110002	E3	STP(<mode>): This bridge becomes the Root Bridge.
		本装置がルートブリッジになりました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID [対応] なし。
20110003	E3	STP(<mode>): This bridge becomes the Designated Bridge.
		本装置が指定ブリッジになりました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID [対応] なし。
20110006	E3	STP(<mode>): Topology change detected - BPDU Timeout detected on the root port(<nif no.>/<port no.>).
		ルートポートの BPDU タイムアウトを検出しました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ ポート番号 [対応] 回線の状態を確認してください。
20110007	E3	STP(<mode>): Topology change detected - Topology Change Notification BPDU received on the port(<nif no.>/<port no.>).
		トポロジ変更 BPDU を受信しました。 <mode> スパニングツリー種別

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		• single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • MST マルチプルスパニングツリー <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ ポート番号 [対応] 回線の状態を確認してください。
20110008	E4	STP(<mode>): Port status becomes Forwarding on the port(<nif no.>/<port no.>). ポートがフォワーディング状態になりました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ ポート番号 [対応] なし。
20110009	E4	STP(<mode>): Port status becomes Blocking on the port(<nif no.>/<port no.>). ポートがブロッキング状態になりました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ ポート番号 [対応] なし。
20110010	E4	STP(<mode>): Port status becomes Down- BPDU received on the BPDU GUARD port(<nif no.>/<port no.>). BPDU ガード機能を設定しているポートで BPDU を受信したため、ポートを DOWN させました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • MST マルチプルスパニングツリー <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ ポート番号 [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		回線の状態を確認してください。
20110011	E3	STP(<mode>): Spanning Tree Protocol enabled - BPDU received on the Port Fast(<nif no.>/<port no.>).
		PortFast 機能を設定しているポートで BPDU を受信したため、スパニングツリー対象ポートになりました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • MST マルチプルスパニングツリー <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ ポート番号 [対応] 回線の状態を確認してください。
20110012	E3	STP (<mode>) : Topology change detected - BPDU Timeout detected on the root port(ChGr:<channel group number>).
		ルートポートの BPDU タイムアウトを検出しました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 回線の状態を確認してください。
20110013	E3	STP (<mode>) : Topology change detected - Topology Change Notification BPDU received on the port(ChGr:<channel group number>).
		トポロジ変更 BPDU を受信しました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • MST マルチプルスパニングツリー <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 回線の状態を確認してください。
20110014	E3	STP (<mode>) : Spanning Tree Protocol enabled - BPDU received on the Port Fast(ChGr:<channel group number>).
		PortFast 機能を設定しているポートで BPDU を受信したため、スパニングツリー対象ポートになりました。 <mode> スパニングツリー種別

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		• single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • MST マルチプルスパニングツリー <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 回線の状態を確認してください。
20110015	E4	STP (<mode>) : Port status becomes Forwarding on the port(ChGr:<channel group number>). ポートがフォワーディング状態になりました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20110016	E4	STP (<mode>) : Port status becomes Blocking on the port(ChGr:<channel group number>). ポートがブロッキング状態になりました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20110017	E4	STP (<mode>) : Port status becomes Down- BPDU received on the BPDU GUARD port(ChGr:<channel group number>). BPDU ガード機能を設定しているポートで BPDU を受信したため、ポートを DOWN させました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • MST マルチプルスパニングツリー <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		回線の状態を確認してください。
20110022	E3	STP : Cleared MAC Address Table entry.
		トポロジ変更 BPDU を受信したため、MAC Address Table のエントリをクリアしました。 [対応] なし。
20110023	E3	STP(<mode>): Topology change detected - BPDU Timeout detected on the alternate port(<nif no.>/<port no.>).
		代替ポートの BPDU タイムアウトを検出しました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ ポート番号 [対応] 回線の状態を確認してください。
20110024	E3	STP(<mode>): Topology change detected - BPDU Timeout detected on the backup port(<nif no.>/<port no.>).
		バックアップポートの BPDU タイムアウトを検出しました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ ポート番号 [対応] 回線の状態を確認してください。
20110025	E3	STP (<mode>) : Topology change detected - BPDU Timeout detected on the alternate port(ChGr:<channel group number>).
		代替ポートの BPDU タイムアウトを検出しました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		<channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 回線の状態を確認してください。
20110026	E3	STP (<mode>) : Topology change detected - BPDU Timeout detected on the backup port(ChGr:<channel group number>).
		バックアップポートのBPDU タイムアウトを検出しました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] 回線の状態を確認してください。
20110027	E3	STP(MST): This bridge becomes the CIST Root Bridge.
		本装置が CIST ルートブリッジになりました。 [対応] なし。
20110028	E3	STP(CIST): This bridge becomes the CIST Regional Root Bridge.
		本装置が CIST 内部ルートブリッジになりました。 [対応] なし。
20110029	E3	STP(MST Instance <mst instance id>): This bridge becomes the MSTI Regional Root Bridge.
		本装置が MSTI 内部ルートブリッジになりました。 <mst instance id> MST インスタンス ID [対応] なし。
20110031	E3	STP(CIST): This bridge becomes the CIST Regional Designated Bridge.
		本装置が CIST 内部指定ブリッジになりました。 [対応] なし。
20110032	E3	STP(MST Instance <mst instance id>): This bridge becomes the MSTI Regional Designated Bridge.
		本装置が MSTI 内部指定ブリッジになりました。 <mst instance id> MST インスタンス ID

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		[対応] なし。
20110037	E4	STP (<mode>) : Port status becomes Blocking on the port(<nif no.>/<port no.>), because IEEE802.1Q Tagged BPDU was received from the port which is not trunk port.
		アクセスポート、プロトコルポート、MAC ポートのどれかを設定 (Untagged フレームを使用) しているにも関わらず IEEE802.1Q VLAN Tag が付いた BPDU を受信したため、Blocking にします。 <mode> スパニングツリー種別 • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ ポート番号 [対応] 対向装置の設定を確認してください。
20110038	E4	STP (<mode>) : Port status becomes Blocking on the port(ChGr:<channel group number>), because IEEE802.1Q Tagged BPDU was received from the port which is not trunk port.
		アクセスポート、プロトコルポート、MAC ポートのどれかを設定 (Untagged フレームを使用) しているにも関わらず IEEE802.1Q VLAN Tag が付いた BPDU を受信したため、Blocking にします。 <mode> スパニングツリー種別 • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID <channel group number> チャネルグループ番号 [対応] 対向装置の設定を確認してください。
20110039	E4	STP : Exceeded the number of the maximum spanning tree.
		スパニングツリーで収容できるツリー数を超えました。今後はツリーの追加ができません。 [対応] ネットワーク構成を見直すか、シングルスパニングツリーまたはマルチプルスパニングツリーを使用してください。
20110040	E4	STP(<mode>): Port status becomes Blocking - BPDU that priority is high was received on the ROOT GUARD port(<nif no.>/<port no.>).
		ルートガード機能を設定しているポートで優先度の高い BPDU を受信したため、Blocking にします。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ ポート番号 [対応] 対向装置の設定を確認してください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20110041	E4	STP(<mode>): Port status becomes Blocking - BPDU that priority is high was received on the ROOT GUARD port(ChGr:<channel group number>).
		ルートガード機能を設定しているポートで優先度の高い BPDU を受信したため、Blocking にします。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <channel group number> チャネルグループ番号 [対応] 対向装置の設定を確認してください。
20110042	E3	STP (<mode>) : Topology change detected - BPDU Timeout detected on the root port(VLID:<link id>).
		ルートポートの BPDU タイムアウトを検出しました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <link id> 仮想リンク ID [対応] 回線の状態を確認してください。
20110043	E3	STP (<mode>) : Topology change detected - Topology Change Notification BPDU received on the port(VLID:<link id>).
		トポロジ変更 BPDU を受信しました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <link id> 仮想リンク ID [対応] 回線の状態を確認してください。
20110044	E3	STP (<mode>) : Topology change detected - BPDU Timeout detected on the alternate port(VLID:<link id>).
		代替ポートの BPDU タイムアウトを検出しました。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		<mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <link id> 仮想リンク ID [対応] 回線の状態を確認してください。
20110045	E3	STP (<mode>) : Topology change detected - BPDU Timeout detected on the backup port(VLID:<link id>).
		バックアップポートの BPDU タイムアウトを検出しました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <link id> 仮想リンク ID [対応] 回線の状態を確認してください。
20110047	E4	STP (<mode>) : Port status becomes Forwarding on the port(VLID:<link id>).
		ポートがフォワーディング状態になりました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID • CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <link id> 仮想リンク ID [対応] なし。
20110048	E4	STP (<mode>) : Port status becomes Blocking on the port(VLID:<link id>).
		ポートがブロッキング状態になりました。 <mode> スパニングツリー種別 • single シングルスパニングツリー • PVST+:VLAN <vlan id> PVST+スパニングツリーおよび VLAN ID

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
	内容と対応	
		• CIST マルチプルスパニングツリー (CIST) • MST Instance <mst instance id> マルチプルスパニングツリー (MSTI) および MST インスタンス ID <link id> 仮想リンク ID [対応] なし。

2.10.2 2013XXXX (GSRP)

ここでは、メッセージ識別子の上位 4 桁が 2013 の運用メッセージを示します。

表 2-18 イベント発生部位 VLAN の運用メッセージ (2013XXXX)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
	内容と対応	
20130002	E3	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned to Backup. GSRP の状態がバックアップへ遷移しました。このメッセージは、GSRP の初期化が完了した場合、GSRP のコンフィギュレーションの backup-lock を削除した場合または GSRP 装置が対向装置を認識していない状態で Master 状態の時に restart vlan コマンドを実行した場合に出力されます。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] なし。
20130003	E3	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned to Master, because the number of active ports was more than neighbor's. 自装置のアクティブポート数が隣接の GSRP スイッチより多かったため、GSRP の状態がマスタへ遷移しました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] なし。
20130004	E3	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned to Master, because the priority was higher than neighbor's. 自装置のプライオリティが隣接の GSRP スイッチより高かったため、GSRP の状態がマスタへ遷移しました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] なし。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20130005	E3	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned to Master, because the MAC address was larger than neighbor's.
		自装置の MAC アドレスが隣接の GSRP スイッチより大きかったため、GSRP の状態がマスタへ遷移しました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] なし。
20130006	E4	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned to Master, because "set gsrp master" command was executed.
		set gsrp master コマンドの実行により、GSRP の状態がマスタへ遷移しました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] なし。
20130007	E4	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned to Master, because the direct link failure was detected.
		ダイレクトリンク障害を検出したため、GSRP の状態がマスタへ遷移しました。このメッセージは GSRP のコンフィギュレーションコマンド no-neighbor-to-master に direct-down パラメータを設定していた場合に、GSRP の状態がバックアップ（隣接不明）のときにダイレクトリンクのダウンを検出したことにより、マスタへ遷移する際出力されます。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] なし。
20130008	E3	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned from Master to Backup, because the number of active ports was less than neighbor's.
		自装置のアクティブポート数が隣接の GSRP スイッチより少なかったため、GSRP の状態がマスタからバックアップへ遷移しました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] なし。
20130009	E3	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned from Master to Backup, because the priority was lower than neighbor's.
		自装置のプライオリティが隣接の GSRP スイッチより低かったため、GSRP の状態がマスタからバックアップへ遷移しました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		なし。
20130010	E3	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned from Master to Backup, because the MAC address was smaller than neighbor's.
		自装置の MAC アドレスが隣接の GSRP スイッチより小さかったため、GSRP の状態がマスタからバックアップへ遷移しました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] なし。
20130011	E4	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned to Backup(No Neighbor).
		GSRP の状態がバックアップ（隣接不明）へ遷移しました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] ダイレクトリンクのポートが正しく実装されており、動作していることを確認してください。また、現在の GSRP の状態をコンフィグレーション、および運用コマンドで確認してください。
20130012	E4	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned from Backup(No Neighbor) to Backup.
		GSRP の状態がバックアップ（隣接不明）からバックアップへ遷移しました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] なし。
20130013	E3	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : advertise timeout detected on Master.
		GSRP Advertise フレームの受信タイムアウトを検出しました。このメッセージは GSRP の状態がマスタの場合だけ出力されます。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] ダイレクトリンクのポートが正しく実装されており、動作していることを確認してください。また、現在の GSRP の状態をコンフィグレーション、および運用コマンドで確認してください。
20130014	E4	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : advertise timeout detected on Backup(Lock).
		GSRP Advertise フレームの受信タイムアウトを検出しました。このメッセージは GSRP の状態がバックアップ（ロック）の場合だけ出力されます。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		ダイレクトリンクのポートが正しく実装されており、動作していることを確認してください。また、現在の GSRP の状態をコンフィグレーション、および運用コマンドで確認してください。
20130015	E3	GSRP aware : MAC Address Table entry cleared, because GSRP flush request received on port <port list>, GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> Source MAC address <mac address>.
		GSRP flush request フレームを受信し、MAC Address Table をクリアしました。 <port list> ポート番号の範囲 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID <mac address> MAC アドレス [対応] なし。
20130016	E4	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned from Master to Backup, because the double Master detected.
		自装置, および隣接装置の GSRP の状態が共にマスタであることを検出したため、マスタからバックアップへ遷移しました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] ダイレクトリンクのポートが正しく動作しているか確認してください。また、現在の GSRP の状態をコンフィグレーション、および運用コマンドで確認してください。
20130017	E3	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> VLAN id <vlan id> : removed from vlan-group, because configuration is a disagreement, Ring protocol and GSRP.
		Ring Protocol との併用時に、Ring Protocol と GSRP の構成不一致によって、該当 VLAN が vlan-group の対象外になりました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID <vlan id> VLAN ID [対応] Ring Protocol の vlan-mapping と GSRP の vlan-group の内容が一致するように構成を変更してください。
20130018	E4	GSRP <gsrp group id> VLAN group <vlan group id> : state transitioned to Master, because forced shift time was expired.
		自動マスタ遷移待ち時間の設定時間を経過したことによって、GSRP の状態がマスタへ遷移しました。 <gsrp group id> GSRP グループ ID <vlan group id> VLAN グループ ID [対応] なし。
20130019	E3	MAC Address Table entry cleared, because flush request received on port <port list>, Source MAC address <mac address>.

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		Flush Request フレームを受信し、MAC アドレステーブルをクリアしました。 <port list> ポート番号の範囲 <mac address> フレーム送信元の装置 MAC アドレス [対応] なし。
20130020	E4	GSRP : Virtual MAC address learning frame cannot be sent in the port where capacity was exceeded.
		仮想 MAC アドレス学習用フレームを送信できる VLAN ポート数が収容条件を超えています。収容条件を超えた VLAN ポートで制御フレームを送信できません。 [対応] 仮想 MAC アドレス学習用フレームを送信するポート数を減らしてください。または、送信間隔を長く設定してください。

2.10.3 2017XXXX (Ring Protocol)

ここでは、メッセージ識別子の上位 4 桁が 2017 の運用メッセージを示します。

表 2-19 イベント発生部位 VLAN の運用メッセージ (2017XXXX)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20170001	E3	AXRP <ring id> : activated state monitoring.
		Ring Protocol の状態監視を開始しました。このメッセージは、Ring Protocol の初期化が完了した場合、および Ring Protocol のコンフィギュレーションの動作モードをマスタモードに設定した場合に出力されます。 <ring id> リング ID [対応] なし。
20170002	E3	AXRP <ring id> : detected fault recovery by receiving health check frames.
		Ring Protocol の状態監視で障害復旧を検出しました。このメッセージは、マスタノードでヘルスチェックフレームを受信し、障害復旧を検出した場合に出力されます。 <ring id> リング ID [対応] なし。
20170003	E3	AXRP <ring id> : cleared MAC address table by receiving flush request frames.
		フラッシュ制御フレームを受信し、MAC アドレステーブルをクリアしました。このメッセージは、出力先がリングポートである MAC アドレステーブルをクリアした場合に出力されます。 <ring id> リング ID [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		なし。
20170004	E4	AXRP <ring id> : detected fault by health check timeout.
		Ring Protocol の状態監視で障害を検出しました。このメッセージは、マスタノードでヘルスチェック タイムアウトを検出した場合に出力されます。 <ring id> リング ID [対応] 該当リング内のリンクまたはノードに障害が発生している可能性があります。リンクおよびノードの状 態を確認してください。
20170005	E3	AXRP <ring id> : cleared MAC address table by timeout of forwarding-shift- timer.
		forwarding-shift-time のタイムアウトによって、MAC アドレステーブルをクリアしました。このメッ セージは、トランジットノードで forwarding-shift-time によってタイムアウトを検出し、MAC アド レステーブルをクリアした場合に出力されます。 <ring id> リング ID [対応] なし。
20170014	E3	AXRP(virtual-link <link id>) : cleared MAC address table by receiving flush frames.
		Ring Protocol で仮想リンクのフラッシュ制御フレームを受信し、MAC アドレステーブルエントリを クリアしました。このメッセージは、すべてのリングポートで学習している MAC アドレステーブルエ ントリをクリアします。 <link id> 仮想リンク ID [対応] なし。
20170016	E3	AXRP <ring id> : detected fault recovery by receiving health check frames, but suspended the fault recovery process.
		Ring Protocol の状態監視で障害復旧を検出しましたが、設定によって経路の切り戻しが抑止されまし た。このメッセージは、マスタノードで障害復旧を検出した場合に出力されます。 <ring id> リング ID [対応] コンフィグレーションコマンド preempt-delay で指定した抑止時間のタイムアウトを待つか、clear axrp preempt-delay コマンドで手動で経路切り戻し抑止状態を解除してください。
20170017	E3	AXRP <ring id> : canceled the suspension of the fault recovery process.
		Ring Protocol の経路切り戻し抑止状態の解除が実行されました。このメッセージは、マスタノードで 経路切り戻し抑止中に経路切り戻し抑止状態が解除された場合に出力されます。 <ring id> リング ID [対応] なし。
20170018	E3	AXRP <ring id> : activated multi fault state monitoring.

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		Ring Protocol の多重障害監視を開始しました。 <ring id> リング ID [対応] なし。
20170019	E3	AXRP <ring id> : detected multi fault recovery by receiving multi fault detection frames.
		Ring Protocol の多重障害監視で多重障害の復旧を検出しました。このメッセージは、共有ノードで多重障害監視フレームを受信して多重障害の復旧を検出した場合に出力されます。 <ring id> リング ID [対応] なし。
20170020	E4	AXRP <ring id> : detected multi fault by multi fault detection timeout.
		Ring Protocol の多重障害監視で多重障害を検出しました。このメッセージは、共有ノードで多重障害監視機能がタイムアウトを検出した場合に出力されます。 <ring id> リング ID [対応] 該当リング内で多重障害が発生している可能性があります。リンクおよびノードの状態を確認してください。
20170021	E3	AXRP (multi-fault-detection <ring id>) : cleared MAC address table by receiving flush frames.
		多重障害用のフラッシュ制御フレームを受信し、MAC アドレステーブルをクリアしました。このメッセージは、多重障害監視を適用しているリング ID に対応したリングポートの MAC アドレステーブルをクリアした場合に出力されます。 <ring id> リング ID [対応] なし。

2.10.4 2080XXXX (L2 ループ検知)

ここでは、メッセージ識別子の上位 4 桁が 2080 の運用メッセージを示します。

表 2-20 イベント発生部位 VLAN の運用メッセージ (2080XXXX)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20800001	E4	L2LD : Port(<nif no.>/<port no.>) inactivated because of loop detection from port(<nif no.>/<port no.>).
		ループ障害を検出したため、ポートを閉塞しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		ネットワーク構成を確認してください。
20800002	E4	L2LD : Port(<nif no.>/<port no.>) inactivated because of loop detection from ChGr(<channel group number>).
		ループ障害を検出したため、ポートを閉塞しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。
20800003	E4	L2LD : ChGr(<channel group number>) inactivated because of loop detection from port(<nif no.>/<port no.>).
		ループ障害を検出したため、ポートを閉塞しました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。
20800004	E4	L2LD : ChGr(<channel group number>) inactivated because of loop detection from ChGr(<channel group number>).
		ループ障害を検出したため、ポートを閉塞しました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。
20800005	E4	L2LD : Port(<nif no.>/<port no.>) loop detection from port(<nif no.>/<port no.>).
		ループ障害を検出しました。 ループ障害検出ログ (20800005~20800008) の出力後 1 分間は、同一ポートまたはチャンネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。
20800006	E4	L2LD : Port(<nif no.>/<port no.>) loop detection from ChGr(<channel group number>).
		ループ障害を検出しました。 ループ障害検出ログ (20800005~20800008) の出力後 1 分間は、同一ポートまたはチャンネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20800007	E4	L2LD : ChGr(<channel group number>) loop detection from port(<nif no.>/<port no.>).
		ループ障害を検出しました。 ループ障害検出ログ（20800005～20800008）の出力後 1 分間は、同一ポートまたはチャネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 <channel group number> チャネルグループ番号 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。
20800008	E4	L2LD : ChGr(<channel group number>) loop detection from ChGr(<channel group number>).
		ループ障害を検出しました。 ループ障害検出ログ（20800005～20800008）の出力後 1 分間は、同一ポートまたはチャネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 <channel group number> チャネルグループ番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。
20800009	E4	L2LD : Port(<nif no.>/<port no.>) activate by automatic restoration of the L2loop detection function.
		L2 ループ検知機能の自動復旧によって、ポートの inactive 状態を解除します。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] なし。
20800010	E4	L2LD : ChGr(<channel group number>) activate by automatic restoration of the L2loop detection function.
		L2 ループ検知機能の自動復旧によって、ポートの inactive 状態を解除します。 <channel group number> チャネルグループ番号 [対応] なし。
20800011	E4	L2LD : L2loop detection frame cannot be sent in the port where capacity was exceeded.
		L2 ループ検知フレームを送信できるポート数が収容条件を超えています。収容条件を超えたポートで L2 ループ検知フレームを送信できません。 [対応] L2 ループ検知フレームを送信するポート数を減らしてください。

2.10.5 2090XXXX (CFM)

ここでは、メッセージ識別子の上位 4 桁が 2090 の運用メッセージを示します。

表 2-21 イベント発生部位 VLAN の運用メッセージ (2090XXXX)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20900003	E4	MD Level <level> MA <no.>: detected on fault of OtherCCM in MEP <mepid>.
		該当 MEP で障害 (OtherCCM) を検出しました。 <level> ドメインレベル <no.> MA 識別番号 <mepid> MEP ID [対応] 対向装置を同一 MA として認識していません。 ドメインレベル, MA 識別番号, ドメイン名称, MA 名称が対向装置と一致しているか確認してください。
20900004	E4	MD Level <level> MA <no.>: detected on fault of ErrorCCM in MEP <mepid>.
		該当 MEP で障害 (ErrorCCM) を検出しました。 <level> ドメインレベル <no.> MA 識別番号 <mepid> MEP ID [対応] 対向装置と構成が一致していません。 MEP ID が対向装置と異なっているか, 送信間隔 (interval) が対向装置と一致しているか確認してください。
20900005	E4	MD Level <level> MA <no.>: detected on fault of Timeout in MEP <mepid>.
		該当 MEP で障害 (Timeout) を検出しました。 <level> ドメインレベル <no.> MA 識別番号 <mepid> MEP ID [対応] 対向装置から CCM を受信していません。 ネットワークの状態を確認してください。
20900006	E4	MD Level <level> MA <no.>: detected on fault of PortState in MEP <mepid>.
		該当 MEP で障害 (PortState) を検出しました。 <level> ドメインレベル <no.> MA 識別番号 <mepid> MEP ID [対応] 対向装置の回線障害またはポートのブロッキング状態を検出しました。 対向装置の状態を確認してください。
20900007	E4	MD Level <level> MA <no.>: detected on fault of RDI in MEP <mepid>.

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
	内容と対応	
		該当 MEP で障害 (RDI) を検出しました。 <level> ドメインレベル <no.> MA 識別番号 <mepid> MEP ID [対応] 対向装置で障害を検出しています。 対向装置の状態を確認してください。
20900008	E4	Exceeded the number of the maximum port.
		MEP と MIP を設定できるポート数を超過しました。 [対応] 設定数を確認してください。

2.10.6 2110XXXX-2120XXXX

ここでは、メッセージ識別子の上位 4 桁が 2110 から 2120 の運用メッセージを示します。

表 2-22 イベント発生部位 VLAN の運用メッセージ (2110XXXX-)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
	内容と対応	
21100001	E3	IGMP snooping: IGMP querier changed on VLAN <vlan id> - lost IGMP querier address <ipv4 address>.
		VLAN <vlan id>上の IGMP クエリア<ipv4 address>からの広告 (IGMPQuery) がなくなったため、IGMP クエリア情報を削除しました。IPv4 マルチキャストグループメンバー (受信ホスト) の有無を正しく確認できないため、IPv4 マルチキャストデータ中継が正しく行われません。 <vlan id> VLAN ID <ipv4 address> IPv4 アドレス [対応] 1. IGMP クエリア<ipv4 address>との接続を確認してください。 2. メッセージ識別子が 21100002 である IGMP クエリア変更メッセージが出力されているか確認してください。 3. IGMP クエリアとの接続が確認できない場合は、コンフィグレーションコマンド ip igmp snooping querier を実行して本装置の IGMP クエリア機能を有効にしてください。
21100002	E3	IGMP snooping: IGMP querier changed on VLAN <vlan id> - new IGMP querier address <ipv4 address>.
		VLAN <vlan id>上に新たな IGMP クエリアを確認したため、IGMP クエリアを<ipv4 address>に変更しました。 <vlan id> VLAN ID <ipv4 address> IPv4 アドレス [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		なし。
21100003	E3	IGMP snooping: IPv4 address not defined on VLAN <vlan id>,IGMP querier function stopped.
		VLAN <vlan id>上の IGMP クエリアは IPv4 アドレスが設定されていないため停止しています。 <vlan id> VLAN ID [対応] 1. 該当 VLAN に IPv4 アドレスを設定してください。 2. show igmp-snooping コマンドを使用し、該当 VLAN に設定した IPv4 アドレスが表示されるか確認してください。
21100004	E3	IGMP snooping:The number of the IGMP snooping entry exceeded the capacity of this system.
		IGMP snooping で使用している学習エントリ数が装置の収容条件を超えています。 [対応] 収容条件を超えているので、エントリ数を削減できるようにシステム構成や設定を見直してください。
21100005	E4	The IGMP snooping entry can't be registered at hardware tables(VLAN:<vlan id> MAC address:<mac address>).
		IGMP snooping エントリがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 <vlan id> VLAN ID <mac address> MAC アドレス [対応] システム構成を見直してください。 ただし、ハードウェアの仕様によって収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
21200001	E3	MLD snooping: MLD querier changed on VLAN <vlan id> - lost MLD querier address <ipv6 address>.
		VLAN <vlan id>上の MLD クエリア<ipv6 address>からの広告（MLD Query）がなくなったため、MLD クエリア情報を削除しました。IPv6 マルチキャストグループリスナ（受信ホスト）の有無を正しく確認できないため、IPv6 マルチキャストデータ中継が正しく行われません。 <vlan id> VLAN ID <ipv6 address> IPv6 アドレス [対応] 1. MLD クエリア<ipv6 address>との接続を確認してください。 2. メッセージ識別子が 21200002 である MLD クエリア変更メッセージが出力されているか確認してください。 3. MLD クエリアとの接続が確認できない場合は、コンフィグレーションコマンド ipv6 mld snooping querier を実行して本装置の MLD クエリア機能を有効にしてください。
21200002	E3	MLD snooping: MLD querier changed on VLAN <vlan id> - new MLD querier address <ipv6 address>.
		VLAN <vlan id>上に新たな MLD クエリアを確認したため、MLD クエリアを<ipv6 address>に変更しました。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		<vlan id> VLAN ID <ipv6 address> IPv6 アドレス [対応] なし。
21200003	E3	MLD snooping: IPv6 address not defined on VLAN <vlan id>, MLD querier function stopped.
		VLAN <vlan id>上の MLD クエリアは IPv6 アドレスが設定されていないため停止しています。 <vlan id> VLAN ID [対応] 1. 該当 VLAN に IPv6 アドレスを設定してください。 2. show mld-snooping コマンドを使用し、該当 VLAN に設定した IPv6 アドレスが表示されるか確認 ください。
21200004	E3	MLD snooping:The number of the MLD snooping entry exceeded the capacity of this system.
		MLD snooping で使用している学習エントリ数が装置の収容条件を超えています。 [対応] 収容条件を超えているので、エントリ数を削減できるようシステム構成や設定を見直してください。
21200005	E4	The MLD snooping entry can't be registered at hardware tables(VLAN:<vlan id> MAC address:<mac address>).
		MLD snooping エントリがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 <vlan id> VLAN ID <mac address> MAC アドレス [対応] システム構成を見直してください。 ただし、ハードウェアの仕様によって収容条件の最大数まで設定できない場合があります。

2.10.7 2510XXXX

ここでは、メッセージ識別子の上位 4 桁が 2510 の運用メッセージを示します。

表 2-23 イベント発生部位 VLAN の運用メッセージ (2510XXXX)

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
25100001	E4	VLAN (<vlan id>) Status is Up.
		VLAN 状態が UP 状態になりました。 <vlan id> VLAN ID [対応] なし。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
25100002	E4	VLAN (<vlan id>) Status is Down.
		VLAN 状態が DOWN 状態になりました。 <vlan id> VLAN ID [対応] VLAN に属している各回線の状態を確認してください。
25100005	E4	The mac-address-table static entry can't be registered at hardware tables(VLAN:<vlan id> MAC address:<mac address>).
		mac-address-table static コンフィグレーションによるエントリがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 <vlan id> VLAN ID <mac address> MAC アドレス [対応] システム構成を見直してください。 ただし、ハードウェアの仕様によって収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
25100006	E4	The VLAN MAC Address entry can't be registered at hardware tables(VLAN:<vlan id> MAC address:<mac address>).
		VLAN MAC アドレスエントリがハードウェアに設定できませんでした。 <vlan id> VLAN ID <mac address> MAC アドレス [対応] システム構成を見直してください。 ただし、ハードウェアの仕様によって収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
25100007	E4	Protocol based VLAN (<vlan id>) registration failed on the port(<nif no.>/<port no.>).
		プロトコル VLAN を設定できませんでした。ポートに設定済みのプロトコルを指定しているほかの VLAN を重複して設定しようとしています。 <vlan id> VLAN ID <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] システム構成を見直してください。
25100008	E4	VLAN (<vlan id>) vlan-mac registration failed.
		vlan-mac の設定に失敗しました。vlan-mac に設定できる VLAN 数が収容条件を超えています。 <vlan id> VLAN ID [対応] システム構成を見直してください。
2510001b	E3	Sum of number of VLAN on ports exceeded capacity.
		ポートごとの VLAN 数の合計が装置の収容条件を超えました。 [対応] 次に示す処置のどれかを行ってください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		- ポートごとの VLAN 数の合計が収容条件内のコンフィギュレーションファイルを copy コマンドで running-config ファイルに反映してください。 - ポートごとの VLAN 数の合計を収容条件内に変更し、restart vlan コマンドを実行してください。 - ポートごとの VLAN 数の合計を収容条件内に変更し、装置を再起動してください。
25100021	E4	The vlan-protocol <protocol name> registration failed on the VLAN <vlan id>.
		プロトコル VLAN へのプロトコルの設定が失敗しました。ポートに設定済みのプロトコルを重複して設定しようとしています。 <protocol name> 追加しようとしたプロトコル名称 <vlan id> VLAN ID [対応] システム構成を見直してください。
25100022	E4	Protocol <frame type> registration failed on the vlan-protocol <protocol name>.
		VLAN プロトコル用のプロトコル値の設定が失敗しました。ポートに設定済みのプロトコルを重複して設定しようとしています。 <frame type> 追加しようとしたプロトコルのフレーム種別 - ethertype <hex> EthernetV2 形式フレームの EtherType 値 - llc <hex> 802.3 形式フレームの LLC 値 (DSAP, SSAP) - snap-ethertype <hex> 802.3 形式フレームの EtherType 値 <protocol name> プロトコル名称 [対応] システム構成を見直してください。

2.11 ULR

ここでは、イベント発生部位 ULR の運用メッセージを示します。

表 2-24 イベント発生部位 ULR の運用メッセージ

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20a00001	E4	ULR:Active port is switched to secondary port(<nif no.>/<port no.>) from primary port(<nif no.>/<port no.>).
		プライマリポートに障害が発生したため、セカンダリポートに切り替えました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] プライマリポートの障害を確認してください。
20a00002	E4	ULR:Active port is switched to primary port(<nif no.>/<port no.>) from secondary port(<nif no.>/<port no.>).
		セカンダリポートに障害が発生したため、プライマリポートに切り戻しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] セカンダリポートの障害を確認してください。
20a00003	E4	ULR:Active port is switched to secondary port(<nif no.>/<port no.>) from primary port(ChGr:<channel group number>).
		プライマリポートに障害が発生したため、セカンダリポートに切り替えました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] プライマリポートの障害を確認してください。
20a00004	E4	ULR:Active port is switched to primary port(<nif no.>/<port no.>) from secondary port(ChGr:<channel group number>).
		セカンダリポートに障害が発生したため、プライマリポートに切り戻しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] セカンダリポートの障害を確認してください。
20a00005	E4	ULR:Active port is switched to secondary port(ChGr:<channel group number>) from primary port(<nif no.>/<port no.>).
		プライマリポートに障害が発生したため、セカンダリポートに切り替えました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] プライマリポートの障害を確認してください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20a00006	E4	ULR:Active port is switched to primary port(ChGr:<channel group number>) from secondary port(<nif no.>/<port no.>).
		セカンダリポートに障害が発生したため、プライマリポートに切り戻しました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] セカンダリポートの障害を確認してください。
20a00007	E4	ULR:Active port is switched to secondary port(ChGr:<channel group number>) from primary port(ChGr:<channel group number>).
		プライマリポートに障害が発生したため、セカンダリポートに切り替えました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] プライマリポートの障害を確認してください。
20a00008	E4	ULR:Active port is switched to primary port(ChGr:<channel group number>) from secondary port(ChGr:<channel group number>).
		セカンダリポートに障害が発生したため、プライマリポートに切り戻しました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] セカンダリポートの障害を確認してください。
20a00009	E4	ULR:Active port is switched to secondary port(<nif no.>/<port no.>) from primary port(<nif no.>/<port no.>), because command execution.
		set switchport-backup active コマンドの実行によってプライマリポートからセカンダリポートに切り替えました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] なし。
20a00010	E4	ULR:Active port is switched to primary port(<nif no.>/<port no.>) from secondary port(<nif no.>/<port no.>), because command execution.
		set switchport-backup active コマンドの実行によってセカンダリポートからプライマリポートに切り戻しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] なし。
20a00011	E4	ULR:Active port is switched to secondary port(<nif no.>/<port no.>) from primary port(ChGr:<channel group number>), because command execution.
		set switchport-backup active コマンドの実行によってプライマリポートからセカンダリポートに切り替えました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト	
		内容と対応	
		[対応] なし。	
20a00012	E4	ULR:Active port is switched to primary port(<nif no.>/<port no.>) from secondary port(ChGr:<channel group number>), because command execution.	
		set switchport-backup active コマンドの実行によってセカンダリポートからプライマリポートに切り戻しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャネルグループ番号 [対応] なし。	
20a00013	E4	ULR:Active port is switched to secondary port(ChGr:<channel group number>) from primary port(<nif no.>/<port no.>), because command execution.	
		set switchport-backup active コマンドの実行によってプライマリポートからセカンダリポートに切り替えました。 <channel group number> チャネルグループ番号 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] なし。	
20a00014	E4	ULR:Active port is switched to primary port(ChGr:<channel group number>) from secondary port(<nif no.>/<port no.>), because command execution.	
		set switchport-backup active コマンドの実行によってセカンダリポートからプライマリポートに切り戻しました。 <channel group number> チャネルグループ番号 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] なし。	
20a00015	E4	ULR:Active port is switched to secondary port(ChGr:<channel group number>) from primary port(ChGr:<channel group number>), because command execution.	
		set switchport-backup active コマンドの実行によってプライマリポートからセカンダリポートに切り替えました。 <channel group number> チャネルグループ番号 [対応] なし。	
20a00016	E4	ULR:Active port is switched to primary ChGr(<channel group number>) from secondary ChGr(<channel group number>), because command execution.	
		set switchport-backup active コマンドの実行によってセカンダリポートからプライマリポートに切り戻しました。	

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		<channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20a00017	E4	ULR:Primary port(<nif no.>/<port no.>) became the active port. プライマリポートがアクティブポートになりました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] なし。
20a00018	E4	ULR:Primary port(ChGr:<channel group number>), became the active port. プライマリポートがアクティブポートになりました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20a00019	E4	ULR:Secondary port(<nif no.>/<port no.>) became the active port. セカンダリポートがアクティブポートになりました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] なし。
20a00020	E4	ULR:Secondary port(ChGr:<channel group number>) became the active port. セカンダリポートがアクティブポートになりました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20a00021	E4	ULR:Both uplink redundant port(<nif no.>/<port no.>) and port(<nif no.>/<port no.>) are down. プライマリポートとセカンダリポートが両方ダウンしました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] プライマリポートとセカンダリポートで障害が発生していないか確認してください。
20a00022	E4	ULR:Both uplink redundant port(<nif no.>/<port no.>) and port(ChGr:<channel group number>) are down. プライマリポートとセカンダリポートが両方ダウンしました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] プライマリポートとセカンダリポートで障害が発生していないか確認してください。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
20a00023	E4	ULR:Both uplink redundant port(ChGr:<channel group number>) and port(<nif no.>/<port no.>) are down.
		プライマリポートとセカンダリポートが両方ダウンしました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] プライマリポートとセカンダリポートで障害が発生していないか確認してください。
20a00024	E4	ULR:Both uplink redundant port(ChGr:<channel group number>) and port(ChGr:<channel group number>) are down.
		プライマリポートとセカンダリポートが両方ダウンしました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] プライマリポートとセカンダリポートで障害が発生していないか確認してください。
20a00025	E4	ULR:Active port is switched to primary port(<nif no.>/<port no.>) from secondary port(<nif no.>/<port no.>), because preemption execution.
		自動切り戻しの実行によってセカンダリポートからプライマリポートに切り戻しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] なし。
20a00026	E4	ULR:Active port is switched to primary port(<nif no.>/<port no.>) from secondary port(ChGr:<channel group number>), because preemption execution.
		自動切り戻しの実行によってセカンダリポートからプライマリポートに切り戻しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。
20a00027	E4	ULR:Active port is switched to primary port(ChGr:<channel group number>) from secondary port(<nif no.>/<port no.>), because preemption execution.
		自動切り戻しの実行によってセカンダリポートからプライマリポートに切り戻しました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] なし。
20a00028	E4	ULR:Active port is switched to primary port(ChGr:<channel group number>) from secondary port(ChGr:<channel group number>), because preemption execution.
		自動切り戻しの実行によってセカンダリポートからプライマリポートに切り戻しました。 <channel group number> チャンネルグループ番号

2 イベント発生部位形式

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		[対応] なし。
20a00029	E4	ULR:Exceeded the number of MAC Address Table entry update request to uplink-switch from active port(<nif no.>/<port no.>).
		本装置のアップリンクポートから上位アップリンクスイッチに対して MAC アドレステーブルエントリの更新を要求できる数を超過しました。 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] なし。
20a00030	E4	ULR:Exceeded the number of MAC Address Table entry update request to uplink-switch from active port(ChGr:<channel group number>).
		本装置のアップリンクポートから上位アップリンクスイッチに対して MAC アドレステーブルエントリの更新を要求できる数を超過しました。 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] なし。

2.12 IP

ここでは、イベント発生部位 IP の運用メッセージを示します。

表 2-25 イベント発生部位 IP の運用メッセージ

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
26000001	E4	The ARP entry can't be registered at hardware tables. (<ipv4 address>)
		ARP エントリがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 <ipv4 address> ハードウェアテーブルに設定できなかった ARP エントリの IPv4 アドレス [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアが採用しているキャッシュの仕様によって、IP アドレスの組み合わせによっては収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
26000002	E4	The ARP entry can't be deleted from hardware tables.
		ARP エントリがハードウェアテーブルから削除できませんでした。 [対応] 装置を交換してください。
26000003	E4	The NDP entry can't be registered at hardware tables. (<ipv6 address>)
		NDP エントリがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 <ipv6 address> ハードウェアテーブルに設定できなかった NDP エントリの IPv6 アドレス [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアが採用しているキャッシュの仕様によって、IPv6 アドレスの組み合わせによっては収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
26000004	E4	The NDP entry can't be deleted from hardware tables.
		NDP エントリがハードウェアテーブルから削除できませんでした。 [対応] 装置を交換してください。
26000005	E4	IPv4 unicast routing information can't be registered at hardware tables. (<ipv4 prefix>/<masklen>)
		IPv4 ユニキャストルーティングテーブルエントリがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 <ipv4 prefix> ハードウェアテーブルに設定できなかった IPv4 ユニキャストルーティングテーブルエントリ <masklen> 上記 IPv4 ユニキャストルーティングテーブルエントリのサブネットマスク長 [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアが採用しているキャッシュの仕様によって、IP アドレスによっては収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
26000006	E4	IPv4 unicast routing information can't be deleted from hardware tables.

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		IPv4 ユニキャストルーティングテーブルエントリがハードウェアテーブルから削除できませんでした。 [対応] 装置を交換してください。
26000007	E4	IPv4 multicast routing information can't be registered at hardware tables. (Source:<ipv4 address> Group:<ipv4 address>)
		IPv4 マルチキャストルーティングテーブルエントリがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 <ipv4 address> ハードウェアテーブルに設定できなかった IPv4 マルチキャストルーティングテーブルエントリの発信元 IPv4 アドレスとグループアドレス [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアが採用しているキャッシュの仕様によって、IP アドレスによっては収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
26000008	E4	IPv4 multicast routing information can't be deleted from hardware tables.
		IPv4 マルチキャストルーティングテーブルエントリがハードウェアテーブルから削除できませんでした。 [対応] 装置を交換してください。
26000009	E4	IPv6 unicast routing information can't be registered at hardware tables. (<ipv6 prefix>/<prefixlen>)
		IPv6 ユニキャストルーティングテーブルエントリがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 <ipv6 prefix> ハードウェアテーブルに設定できなかった IPv6 ユニキャストルーティングテーブルエントリ <prefixlen> 上記 IPv6 ユニキャストルーティングテーブルエントリのプレフィックス長 [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアが採用しているキャッシュの仕様によって、IPv6 アドレスによっては収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
2600000a	E4	IPv6 unicast routing information can't be deleted from hardware tables.
		IPv6 ユニキャストルーティングテーブルエントリがハードウェアテーブルから削除できませんでした。 [対応] 装置を交換してください。
2600000b	E4	IPv6 multicast routing information can't be registered at hardware tables. (Source:<ipv6 address> Group:<ipv6 address>)
		IPv6 マルチキャストルーティングテーブルエントリがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 <ipv6 address> ハードウェアテーブルに設定できなかった IPv6 マルチキャストルーティングテーブルエントリの発信元アドレスとグループアドレス [対応] 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアが採用しているキャッシュの仕様によって、IPv6 アドレスによっては収容条件の最大数まで設定できない場合があります。

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
2600000c	E4	IPv6 multicast routing information can't be deleted from hardware tables.
		IPv6 マルチキャストルーティングテーブルエントリがハードウェアテーブルから削除できませんでした。 [対応] 装置を交換してください。
2600000d	E4	The IP configuration to VLAN (<vlan id>) can't be registered at hardware tables.
		VLAN (<vlan id>)への IP のコンフィグレーションがハードウェアテーブルに設定できませんでした。 <vlan id> IP のコンフィグレーションを設定した VLAN ID [対応] 1. VLAN ID を変更してください。 2. 収容条件を見直してください。 ただし、ハードウェアが採用しているキャッシュの仕様によって収容条件の最大数まで設定できない場合があります。
50000003	E4	Duplication of IPv4 address <ipv4 address> with the node of MAC address <mac address> was detected.
		IPv4 アドレス<ipv4 address>が、MAC アドレス<mac address>を持つ装置と競合しています。 <ipv4 address> 本装置のインタフェースに設定した IPv4 アドレス <mac address> 上記 IPv4 アドレスとの重複を検出した装置の MAC アドレス [対応] 1. 自 IPv4 アドレスまたは MAC アドレス<mac address>を持つ装置の IPv4 アドレスを変更してください。 2. VRRP 使用時、CPU の負荷が高い状況では、本メッセージが頻発する場合があります。その場合には、該当 VRRP を構成している装置間で、VRRP コンフィグレーションの timers advertise の値を大きくしてください。
50000006	E4	The number of pieces of the ARP entry exceeds the capacity of this system.
		ARP テーブルのエントリ数が本装置の収容条件を超えています。 [対応] 本メッセージが頻発する場合は、次に示す対応を行ってください。 1. arp コンフィグレーションに不要な情報があれば削除してください。 2. 不要なエントリが動的に生成されていた場合は、clear arp-cache コマンドを実行し、エントリを削除してください。 3. ネットワークシステム構成を見直し、ARP テーブルのエントリ数を削減できるシステム構成に変更してください。
50000013	E4	The number of pieces of the IPv4 unicast routing information exceeds the capacity of this system.
		IPv4 ユニキャスト経路情報のエントリ数が本装置の収容条件を超えています。 [対応]

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		1. IPv4 ユニキャスト経路情報に不要な情報があれば削除してください。 2. ネットワークシステム構成を見直し、IPv4 ユニキャスト経路情報を削減できるようなシステム構成に変更してください。 3. 1, 2 を実施した上で、clear ip route コマンドに*パラメータを指定して実行してください。
51000006	E4	The number of pieces of the IPv4 Multicast Routing entry exceeds the capacity of this system.
		IPv4 マルチキャスト経路情報のエントリ数が本装置の収容条件を超えています。 [対応] 1. IPv4 マルチキャスト経路情報に不要な情報があれば削除してください。 2. ネットワークシステム構成を見直し、IPv4 マルチキャスト経路情報を削減できるようなシステム構成に変更してください。
60000002	E4	The number of pieces of the NDP entry exceeds the capacity of this system.
		NDP テーブルのエントリ数が本装置の収容条件を超えています。 [対応] 本メッセージが頻発する場合は、次に示す対応を行ってください。 1. ndp コンフィグレーションに不要な情報があれば削除してください。 2. 不要なエントリが動的に生成されていた場合は、clear ipv6 neighbors コマンドを実行し、エントリを削除してください。 3. ネットワークシステム構成を見直し、NDP テーブルのエントリ数を削減できるシステム構成に変更してください。
60000003	E4	Duplication of IPv6 address <ipv6 address> with the node of MAC address <mac address> was detected.
		アドレス重複検出処理で IPv6 アドレスの重複を検出しました。本装置に設定した<ipv6 address>が、<mac address>の装置と競合しています。自装置の<ipv6 address>は使用不能となります。使用不能状態となった IPv6 アドレスは変更もしくは削除後、再設定するまで使用できなくなります。アドレス重複により使用不能となっているアドレスは、show ipv6 interface コマンドで確認してください。 <ipv6 address> アドレス重複検出によって使用不能となった本装置のインタフェースの IPv6 アドレス <mac address> アドレス重複検出によって検出されたアドレスが重複している装置の MAC アドレス [対応] 1. 本装置に設定した<ipv6 address>が誤っている場合は、本装置の<ipv6 address>を変更してください。 2. 他装置の<ipv6 address>が誤っている場合は、競合している他装置の<ipv6 address>を修正してください。その後、本装置の<ipv6 address>を削除し、再設定してください。 3. VRRP 使用時、CPU の負荷が高い状況では、本メッセージが頻発する場合があります。その場合には、該当 VRRP を構成している装置間で、VRRP コンフィグレーションの timers advertise の値を大きくしてください。
60000008	E4	The number of pieces of the IPv6 unicast routing information exceeds the capacity of this system.

メッセージ 識別子	イベント レベル	メッセージテキスト
		内容と対応
		IPv6 ユニキャスト経路情報のエントリ数が本装置の収容条件を超えています。 [対応] 1. IPv6 ユニキャスト経路情報に不要な情報があれば削除してください。 2. ネットワークシステム構成を見直し、IPv6 ユニキャスト経路情報を削減できるようなシステム構成に変更してください。 3. 1, 2 を実施した上で、clear ipv6 route コマンドに*パラメータを指定して実行してください。
61000005	E4	The number of pieces of the IPv6 Multicast Routing entry exceeds the capacity of this system.
		IPv6 マルチキャスト経路情報のエントリ数が本装置の収容条件を超えています。 [対応] 1. IPv6 マルチキャスト経路情報に不要な情報があれば削除してください。 2. ネットワークシステム構成を見直し、IPv6 マルチキャスト経路情報を削減できるようなシステム構成に変更してください。

3

メッセージテキスト形式

3.1 トラッキングオブジェクトログ(TRO)【OS-L3A】

トラッキングオブジェクトログについて次の表に示します。

表 3-1 トラッキングオブジェクトログ

項番	メッセージテキスト	内容
1	Track object <track object id> is up. (type ICMP, address <destination address>)	イベント（自装置） ポリシーベースルーティングのトラッキングの状態が Down から Up に変化しました。 [メッセージテキストの表示説明] <track object id> ポリシーベースルーティングのトラッキング ID <destination address> ポーリング宛先アドレス [対応] なし。
2	Track object <track object id> is down. (type ICMP, address <destination address>)	イベント（自装置） ポリシーベースルーティングのトラッキングの状態が Up から Down に変化しました。 [メッセージテキストの表示説明] <track object id> ポリシーベースルーティングのトラッキング ID <destination address> ポーリング宛先アドレス [対応] なし。

3.2 IPv4 ルーティングプロトコル情報(RTM)

IPv4 ルーティングプロトコルのイベント情報について説明します。

3.2.1 RIP

IPv4 ルーティングプロトコル情報 (RTM) のイベント情報を次の表に示します。

表 3-2 IPv4 ルーティングプロトコル (RIP) イベント情報

項番	メッセージテキスト	内容
1	rip_rcv_response: Bad metric (<metric>) for net <destination address> from <source address>	エラー (相手装置)
		不正なメトリック値 (0 または 17 以上のメトリック) を持つ経路情報を受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <metric> 経路情報のメトリック値 <destination address> 経路情報の宛先アドレス <source address> 送信元ゲートウェイ [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIP) を調査してください。
2	rip_rcv_response: Bad mask (<mask>) for net <destination address> from <source address>	エラー (相手装置)
		不正なネットワークマスクを持つ経路情報を受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <mask> 経路情報のネットワークマスク <destination address> 経路情報の宛先アドレス <source address> 送信元ゲートウェイ [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIP) を調査してください。
3	rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - ignoring version 0 packets	エラー (相手装置)
		バージョンフィールドが 0 のため、受信した RIP パケットを無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <rip command> 受信メッセージタイプ • Invalid, Request, Response, TraceOn, TraceOff, Poll, PollEntry <source address> 送信元ゲートウェイ [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIP) を調査してください。
4	rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - reserved field not zero	エラー (相手装置)
		リザーブフィールドが 0 ではないため、受信した RIP パケットを無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <rip command> 受信メッセージタイプ

項番	メッセージテキスト	内容
		Invalid, Request, Response, TraceOn, TraceOff, Poll, PollEntry <source address> 送信元ゲートウェイ [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIP) を調査してください。
5	rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - authentication failure [(Key-ID <key id>)]	エラー (自装置／相手装置) 認証エラーのため、受信した RIP パケットを無視します。 この運用メッセージは、次の契機で出力されます。 - 最初の事象発生から 16 回目までは、すべて出力されます。 - 最初の事象発生から 17 回目以降は、256 回事象が発生するごとに 1 回出力されます。 - 最後の事象発生から 3 分以上経過してから事象が発生した場合は、上記 1, 2 の契機で出力されます。 ただし、上記回数には、次のメッセージの回数を含みます。 rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal authentication type rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal authentication key identifier (Key-ID <key id>) rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal authentication sequence number (Key-ID <key id>) [メッセージテキストの表示説明] <rip command> 受信メッセージタイプ - Invalid, Request, Response, TraceOn, TraceOff, Poll, PollEntry <source address> 送信元ゲートウェイ <key id> キー識別子 [対応] 自装置と相手装置の RIP で認証キーが一致しているか調査してください。 認証キーが一致していない場合は、認証キーが一致するように設定してください。
6	rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - TRACE packets not supported	ワーニング (相手装置) TRACE パケットは未サポートのため、受信した RIP パケットを無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <rip command> 受信メッセージタイプ TraceOn, TraceOff <source address> 送信元ゲートウェイ [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIP) の仕様を確認してください。
7	rip_init:	エラー (自装置)

項番	メッセージテキスト	内容
	Old copy of rtm is running	すでにユニキャストルーティングプログラムが動作している可能性があります。 ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従って処置してください。
8	RIP: The total number of RIP targets is more than the maximum permitted	エラー（自装置） RIP ターゲット（隣接）の総数が最大許容数をオーバーしています。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] 最大隣接ルータ数が収容条件を超えないように RIP の設定を見直してください。
9	rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal authentication type	エラー（相手装置） 認証情報の認証タイプが不正なため、受信した RIP パケットを無視します。 この運用メッセージは、次の契機で出力されます。 - 最初の事象発生から 16 回目までは、すべて出力されます。 - 最初の事象発生から 17 回目以降は、256 回事象が発生するごとに 1 回出力されます。 - 最後の事象発生から 3 分以上経過してから事象が発生した場合は、上記 1、2 の契機で出力されます。 ただし、上記回数には、次のメッセージの回数を含みます。 rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - authentication failure [(Key-ID <key id>)] rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal authentication key identifier (Key-ID <key id>) rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal authentication sequence number (Key-ID <key id>) [メッセージテキストの表示説明] <rip command> 受信メッセージタイプ - Invalid, Request, Response, TraceOn, TraceOff, Poll, PollEntry <source address> 送信元ゲートウェイ [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIP) を調査してください。
10	rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal	エラー（自装置／相手装置） 認証情報のキー識別子が不正なため、受信した RIP パケットを無視します。 この運用メッセージは、次の契機で出力されます。

項番	メッセージテキスト	内容
	authentication key identifier (Key-ID <key id>)	1. 最初の事象発生から 16 回目までは、すべて出力されます。 2. 最初の事象発生から 17 回目以降は、256 回事象が発生するごとに 1 回出力されます。 3. 最後の事象発生から 3 分以上経過してから事象が発生した場合は、上記 1, 2 の契機で出力されます。 ただし、上記回数には、次のメッセージの回数を含みます。 rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - authentication failure [(Key-ID <key id>)] rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal authentication type rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal authentication sequence number (Key-ID <key id>) [メッセージテキストの表示説明] <rip command> 受信メッセージタイプ Invalid, Request, Response, TraceOn, TraceOff, Poll, PollEntry <source address> 送信元ゲートウェイ <key id> キー識別子 [対応] 自装置と相手装置の RIP で認証情報のキー識別子が一致しているか調査してください。 認証情報のキー識別子が一致していない場合は、認証情報のキー識別子が一致するように設定してください。
11	rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal authentication sequence number (Key-ID <key id>)	エラー（相手装置） 認証情報のシーケンス番号が不正なため、受信した RIP パケットを無視します。 この運用メッセージは、次の契機で出力されます。 1. 最初の事象発生から 16 回目までは、すべて出力されます。 2. 最初の事象発生から 17 回目以降は、256 回事象が発生するごとに 1 回出力されます。 3. 最後の事象発生から 3 分以上経過してから事象が発生した場合は、上記 1, 2 の契機で出力されます。 ただし、上記回数には、次のメッセージの回数を含みます。 rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - authentication failure [(Key-ID <key id>)] rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal authentication type rip_rcv: Ignoring RIP <rip command> packet from <source address> - illegal authentication key identifier (Key-ID <key id>) [メッセージテキストの表示説明] <rip command> 受信メッセージタイプ Invalid, Request, Response, TraceOn, TraceOff, Poll, PollEntry <source address> 送信元ゲートウェイ

項番	メッセージテキスト	内容
		<key id> キー識別子 [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIP) を調査してください。

3.2.2 OSPF 【OS-L3A】

IPv4 ルーティングプロトコル情報 (RTM) のイベント情報を次の表に示します。

表 3-3 IPv4 ルーティングプロトコル (OSPF) イベント情報

項番	メッセージテキスト	内容
1	OSPF SENT <source address> -> <destination address> : <error string>.	ワーニング (自装置) OSPF パケットの送信に失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
2	OSPF: Helper to adjacency <router id> address <address> failed because restart time is up.	情報 (相手装置) リスタート待ち時間が経過したため、ヘルパールータの動作を停止しました。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID <address> 隣接ルータの IPv4 アドレス [対応] 隣接ルータがリスタート動作を停止していないか確認してください。停止していない場合、隣接ルータのリスタート時間を調整してください。
3	OSPF: Helper to adjacency <router id> address <address> failed because network topology is changed.	ワーニング (自装置/ネットワーク) トポロジー変更のため、ヘルパールータの動作を停止しました。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID <address> 隣接ルータの IPv4 アドレス [対応] なし。
4	OSPF RECV [Area <area id>] <source address> -> <destination address> : <log type>.	ワーニング (自装置/相手装置) 受信した OSPF パケットが不正です。 ただし、OSPF インタフェースとして設定していないブロードキャスト型インタフェースから受信したマルチキャストパケットは、ログ採取せずに廃棄します。 [メッセージテキストの表示説明]

項番	メッセージテキスト	内容
		<area id> エリア ID <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス <log type> ログ種別 • IP: bad destination • IP: bad protocol • IP: received my own packet • OSPF: bad packet type • OSPF: bad version • OSPF: bad checksum • OSPF: packet too small • OSPF: packet size > ip length • OSPF: bad area id • OSPF: unknown neighbor • OSPF: area mismatch • OSPF: bad virtual link • OSPF: bad authentication type • OSPF: bad authentication key • OSPF: interface down • HELLO: netmask mismatch • HELLO: hello timer mismatch • HELLO: dead timer mismatch • HELLO: NBMA neighbor unknown • HELLO: extern option mismatch • DD: extern option mismatch • HELLO: router id confusion • DD: router id confusion • LS ACK: Unknown LSA type • LS REQ: empty request • LS REQ: bad request • LS UPD: LSA checksum bad [対応] ログ種別によって、対応が異なります。 • IP: bad destination <source address>が直結ネットワークではない、または <destination address>が OSPF 未設定のインタフェースの場合、OSPF インタフェースの設定を修正してください。 • IP: bad protocol • IP: received my own packet • OSPF: bad packet type

項番	メッセージテキスト	内容
		• OSPF: bad version • OSPF: bad checksum • OSPF: packet too small • OSPF: packet size > ip length • OSPF: bad area id 隣接ルータが不正なパケットを送信しています。隣接ルータのユニキャストルーティングプログラム（OSPF）を調査してください。 • OSPF: unknown neighbor Hello で認識していない隣接ルータから、Hello 以外のパケットを受信していますが対応不要です。 • OSPF: area mismatch • OSPF: bad virtual link 新規の隣接ルータからパケットを受信している場合、エリアの設定を修正してください。 それ以外は対応不要です。 • OSPF: bad authentication type • OSPF: bad authentication key 認証の設定を修正してください。 • OSPF: interface down なし。 • HELLO: netmask mismatch • HELLO: hello timer mismatch • HELLO: dead timer mismatch • HELLO: NBMA neighbor unknown OSPF インタフェースの設定を修正してください。 • HELLO: extern option mismatch • DD: extern option mismatch スタブエリアの設定を修正してください。 • HELLO: router id confusion • DD: router id confusion ルータ ID の設定を修正してください。 • LS ACK: Unknown LSA type • LS REQ: empty request • LS REQ: bad request • LS UPD: LSA checksum bad 隣接ルータが不正なパケットを送信しています。隣接ルータのユニキャストルーティングプログラム（OSPF）を調査してください。
5	OSPF: Abort due to <address> mask <mask1> advertisement was blocked by LSA <lsid> mask <mask2> Age <age>.	エラー（自装置） LSDB <lsid>と経路間で矛盾があります。 ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明]

項番	メッセージテキスト	内容
		<address> 経路情報の宛先アドレス <mask1> 経路情報のネットワークマスク <lsid> LSA の LSID <mask2> LSA のネットワークマスク <age> LSA を生成してからの時間 [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従って処置してください。
6	OSPF: Lost adjacency <router id> address <address>(<interface name>) due to sequence mismatch (<sequence1> versus <sequence2>).	ワーニング（自装置／相手装置） シーケンスの不一致によって隣接ルータを失いました。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID <address> 隣接ルータの IPv4 アドレス <interface name> インタフェース名称 <sequence1> 制御データ上のシーケンス番号 <sequence2> DD メッセージ内のシーケンス番号 [対応] 頻発する場合は OSPF パケット再送間隔 (retransmitinterval) を長くしてください。
7	OSPF: Lost adjacency <router id> address <address>(<interface name>) because no Hello received recently.	ワーニング（相手装置／ネットワーク） 隣接ルータから定期的に送信されるはずの Hello パケットを一定時間受信しなかったため、隣接関係を打ち切りました。隣接ルータが動作を停止した場合、または本装置－隣接ルータ間の通信に不具合がある場合に発生します。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID <address> 隣接ルータの IPv4 アドレス <interface name> インタフェース名称 [対応] 頻発する場合、Hello パケット送信間隔 (hellointerval) を短くし、Hello パケット最大許容受信間隔 (routerdeadinterval) を長くしてください。
8	OSPF: Lost adjacency <router id> address <address>(<interface name>) because neighbor didn't receive my Hello recently.	ワーニング（相手装置／ネットワーク） 隣接ルータが本装置を認識しなくなったため、隣接関係を打ち切りました。隣接ルータが再起動した場合、および本装置が送信した Hello パケットを隣接ルータが適切に受信していない場合に発生します。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID <address> 隣接ルータの IPv4 アドレス <interface name> インタフェース名称 [対応] 頻発する場合、Hello パケット送信間隔 (hellointerval) を短くし、Hello パケット最大許容受信間隔 (routerdeadinterval) を長くしてください。
9	OSPF:	エラー（相手装置）

項番	メッセージテキスト	内容
	Lost adjacency <router id1> address <address>(<interface name>) due to bad LS Request (<lsid> <router id2> <ls type>).	不正な LS リクエストによって隣接ルータを失いました。 [メッセージテキストの表示説明] <router id1> 隣接ルータのルータ ID <address> 隣接ルータの IPv4 アドレス <interface name> インタフェース名称 <lsid> LSA の LSID <router id2> LSA の広告ルータ ID <ls type> LSA の LS タイプコード [対応] 隣接ルータのユニキャストルーティングプログラム (OSPF) を調査してください。
10	OSPF: Adjacency <router id> address <address>(<interface name>) is established.	情報 (自装置／相手装置) OSPF の隣接ルータとの接続に成功しました。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID <address> 隣接ルータの IPv4 アドレス <interface name> インタフェース名称 [対応] なし。
11	OSPF: Checksum failed at LSA type <ls type> ID <lsid> adv-router <router id> in this system's LSDB that belongs to Area <area id>, Domain <domain id>.	エラー (自装置) LSDB のチェックサムが不正です。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] <ls type> LSA の LS タイプコード <lsid> LSA の LSID <router id> LSA の広告ルータ ID <area id> LSA のエリア ID <domain id> LSA のドメイン ID [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従い、処置してください。
12	OSPF: Recovered from stub router (in domain <domain id>).	情報 (自装置) スタブルータ動作を終了します。 [メッセージテキストの表示説明] <domain id> OSPF のドメイン ID [対応] なし。

3.2.3 BGP4 【OS-L3A】

IPv4 ルーティングプロトコル情報 (RTM) のイベント情報を次の表に示します。

表 3-4 IPv4 ルーティングプロトコル (BGP4) イベント情報

項番	メッセージテキスト	内容
1	bgp_check_auth: Synchronization failure with BGP task <task name>	エラー (相手装置)
		BGP4 タスクが受信したメッセージのヘッダマーカーの値が不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <task name> BGP4 タスク名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
2	bgp_trace: Unsupported BGP version <version>!!!	エラー (自装置)
		制御データ上の BGP バージョン番号が不正です。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] <version> 制御データ上の BGP バージョン番号 [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従って、処置してください。
3	bgp_log_notify: Notify message received from <bgp name> [(<description>)] is truncated (length <length>)	エラー (相手装置)
		該当ピアから受信した NOTIFICATION メッセージのメッセージ長が不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信メッセージ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
4	bgp_send: Sending <length> bytes to <bgp name> [(<description>)] blocked (no spooling requested): <error string>	ワーニング (自装置)
		ソケットバッファが一杯になり、該当ピアへのメッセージ送信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length> 送信要求メッセージ長 <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
5	bgp_send: Sending <length> bytes to <bgp name> [(<description>)] failed: <error string>	ワーニング (自装置)
		該当ピアへのメッセージ送信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length> 送信要求メッセージ長 <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称

項番	メッセージテキスト	内容
		<error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
6	bgp_send: Sending <length> bytes to <bgp name> [(<description>)]: Connection closed	ワーニング（自装置／相手装置／ネットワーク） コネクションの切断によって該当ピアへのメッセージ送信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length> 送信要求メッセージ長 <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 [対応] 頻発する場合は、コネクションの切断原因を調査してください。
7	bgp_send: Sending to <bgp name> [(<description>)] looping: <error string>	ワーニング（自装置） 該当ピアへのメッセージ送信がリトライアウトしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
8	bgp_send_open: Internal error! peer <bgp name> [(<description>)], version <version>	エラー（自装置） 該当ピアに送信する OPEN メッセージの BGP バージョン番号が不正です。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <version> 送信メッセージ内の BGP バージョン番号 [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従い、処置してください。
9	bgp_path_attr_error from <routine>: Update error subcode <code> (<error string>) for peer <bgp name> [(<description>)] detected. <length> bytes error data - 1st five: <error data>	エラー（相手装置） 該当ピアから受信した UPDATE メッセージでエラーを検出しました。 [メッセージテキストの表示説明] <routine> 内部ルーチン名称 <code> (<error string>) エラー要因 <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> エラーデータ長 <error data> エラーデータの先頭 5 バイト [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。

項番	メッセージテキスト	内容
10	bgp_rcv: Read from peer <bgp name> [(<description>)] failed: <error string>	ワーニング（自装置） 該当ピアからのメッセージ受信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
11	bgp_rcv: Peer <bgp name> [(<description>)]: Received unexpected EOF	ワーニング（自装置／相手装置／ネットワーク） コネクションの切断によって該当ピアからのメッセージ受信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] 頻発する場合は、コネクションの切断原因を調査してください。
12	bgp_read_message: Peer <bgp name> [(<description>)]: <message type> message arrived with length <length>	エラー（相手装置） 該当ピアから不正なメッセージ長のメッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <message type> 受信メッセージタイプ ・ invalid, Open, Update, Notification, KeepAlive <length> 受信メッセージ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
13	bgp_read_message: Peer <bgp name> [(<description>)]: <message type1> arrived, expected <message type2> [or <message type2>]	エラー（相手装置） 該当ピアから状態に適切ではないメッセージタイプのメッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <message type1> 受信メッセージタイプ ・ invalid, Open, Update, Notification, KeepAlive <message type2> 状態に適切なメッセージタイプ ・ invalid, Open, Update, Notification, KeepAlive [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
14	bgp_get_open:	エラー（相手装置）

項 番	メッセージテキスト	内容
	Peer <bgp name> [(<description>)]: Received short version <version> message (<length> octets)	該当ピアからメッセージ長が不正な OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <version> 受信メッセージ内の BGP バージョン番号 <length> 受信メッセージ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
15	bgp_get_open: Received unsupported version <version> message from peer <bgp name> [(<description>)]	ワーニング (相手装置) 該当ピアから未サポートの BGP バージョン番号を持つ OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <version> 受信メッセージの BGP バージョン番号 <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアが BGP バージョン 4 をサポートしているか調査してください。
16	bgp_get_open: Peer <bgp name> [(<description>)]: Hold time too small (<holdtime>)	エラー (相手装置) 該当ピアからホールドタイムが 3 秒より小さい OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <holdtime> 受信メッセージ内のホールドタイム [対応] ピアのコンフィグレーションを調査してください。
17	bgp_get_open: Peer <bgp name> [(<description>)]: Invalid BGP identifier <router id>	エラー (相手装置) 該当ピアから不正な BGP 識別子の OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <router id> 受信メッセージ内の BGP 識別子 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
18	bgp_get_open: Peer <bgp name> [(<description>)]: Unsupported optional parameter <option>	エラー (相手装置) 該当ピアから不正なオプションコードを含む OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称

項番	メッセージテキスト	内容
		<option> 受信メッセージ内のオプションコード [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください
19	bgp_rcv_open: Peer <bgp name> [(<description>)] claims AS <as1>, <as2> configured	ワーニング (自装置／相手装置) 該当ピアから構成された AS 番号と異なる AS 番号の OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <as1> 受信メッセージの AS 番号 <as2> コンフィグレーション上のピアの AS 番号 [対応] コンフィグレーションを調査してください。
20	bgp_rcv_open: Peer <bgp name> [(<description>)] accepted mismatched versions: Peer <version1> this system <version2>	ワーニング (相手装置) 該当ピアから BGP バージョン番号が不一致の状態に KEEPALIVE メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <version1> 相手側の BGP バージョン番号 <version2> 自側の BGP バージョン番号 [対応] ピアが BGP バージョン 4 をサポートしているか調査してください。
21	bgp_pp_rcv: No group for <bgpp name> found, dropping peer	ワーニング (自装置／相手装置) 設定されていないピアから OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgpp name> 送信元ピア名称 [対応] コンフィグレーションを調査してください。
22	bgp_pp_rcv: Rejecting connection from <bgp name> [(<description>)], peer in state <state>	ワーニング (相手装置／ネットワーク) Idle, OpenConfirm, Established 状態中に該当ピアから OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <state> ピア状態 • Idle, OpenConfirm, Established [対応] コネクションが不安定になっています。頻発する場合は、不安定要因を調査してください。

項番	メッセージテキスト	内容
23	bgp_pp_rcv: Dropping <bgpp name> version <version>, <bgp name> [(<description>)] wants version 4	ワーニング（相手装置）
		該当ピアから未サポートの BGP バージョン番号を持つ OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgpp name>, <bgp name> 送信元ピア名称 <version> 受信メッセージの BGP バージョン番号 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアがサポートしている BGP バージョンを調査してください。
24	bgp_pp_rcv: Peer <bgp name> [(<description>)] sent unexpected extra data, probably insane	エラー（相手装置）
		該当ピアからのメッセージに不要なデータが付加されています。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
25	bgp_check_capability_match: Capability of peer <bgp name> [(<description>)] is unmatched	ワーニング（相手装置）
		本装置に設定されている Capability の設定が、該当ピアに設定されていません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] コンフィグレーションを調査してください。
26	bgp_write_flush: Sending <length1> (sent <length2>) bytes to <bgp name> [(<description>)] failed: <error string>	ワーニング（自装置）
		該当ピアへのメッセージ送信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length1> 送信要求データ長 <length2> 送信済データ長 <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
27	bgp_write_flush: Sending <length1> (sent <length2>) bytes to <bgp name> [(<description>)]: Connection closed	ワーニング（自装置／相手装置／ネットワーク）
		コネクションの切断によって該当ピアへのメッセージ送信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length1> 送信要求データ長 <length2> 送信済データ長

項番	メッセージテキスト	内容
		<bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 [対応] 頻発する場合は接続の切断原因を調査してください。
28	bgp_write_flush: Sending to <bgp name> [(<description>)] (sent <length1>, <length2> remain[s]) looping: <error string>	ワーニング (自装置) 該当ピアへのメッセージ送信がリトライアウトしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <length1> 送信済データ長 <length2> 送信残データ長 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
29	bgp_peer_connected: task_get_addr_local(<bgp name> [(<description>)]): <error string>	ワーニング (自装置) 該当ピアへの接続接続に使用するローカルアドレス取り出しに失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
30	bgp_connect_start: Peer <bgp name> [(<description>)] local address <ipv4 address> unavailable, connection failed	ワーニング (自装置) 該当ピアとの接続接続に使用するローカルアドレスが利用できない (バインド失敗) ために接続接続が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 <ipv4 address> ピアリングに使用するローカルアドレス [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
31	bgp_traffic_timeout: Holdtime expired for <bgp name> [(<description>)]	ワーニング (相手装置/ネットワーク) 該当ピアに対するホールドタイムアウトが発生しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
32	bgp_traffic_timeout:	ワーニング (自装置)

項 番	メッセージテキスト	内容
	Error sending KEEPALIVE to <bgp name> [(<description>)]: <error string>	該当ピアへの KEEPALIVE メッセージの送信に失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
33	bgp_listen_accept: accept(<socket>): <error string>	ワーニング（自装置） コネクションの受付が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <socket> ソケットのディスクリプタ番号 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
34	bgp_listen_accept: task_get_addr_local() failed, terminating!!	エラー（自装置） コネクション接続に使用するローカルアドレス取り出しに失敗しました。コネクション接続をいったん終了します。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] 頻発する場合は、ピアのユニキャストルーティングプログラム（BGP4）を調査してください。
35	bgp_listen_start: Couldn't get BGP listen socket!!	エラー（自装置） コネクション接続のためのソケット生成に失敗しました。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従って、処置してください。
36	bgp_listen_start: listen: <error string>	エラー（自装置） コネクションの受付準備が失敗しました。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] <error string> エラー要因 [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従って、処置してください。
37	bgp_set_peer_if: BGP peer <bgp name> [(<description>)] interface not found. Leaving peer idled	ワーニング（自装置） 該当ピアと接続されたインタフェースが見つかりません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称

項番	メッセージテキスト	内容
		[対応] コンフィグレーションを調査してください。
38	bgp_set_peer_if: BGP peer <bgp name> [(<description>)] local address <ipv4 address> not on shared net. Leaving peer idled	ワーニング（自装置） 該当ピアとのコネクション接続に使用するローカルアドレスが同一ネットワーク上にありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 <ipv4 address> コネクション接続に使用するローカルアドレス [対応] コンフィグレーションを調査してください。
39	bgp_pp_timeout: Peer <bgpp name> timed out waiting for OPEN	ワーニング（相手装置／ネットワーク） 該当ピアとの OPEN メッセージ待ちタイマがタイムアウトしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgpp name> 接続先ピア名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
40	bgp_peer_init: BGP peer <bgp name> [(<description>)] local address <ipv4 address> not found. Leaving peer idled	ワーニング（自装置） 該当ピアとのコネクション接続に使用するローカルアドレスに対するインタフェースが見つかりません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 <ipv4 address> コネクション接続に使用するローカルアドレス [対応] コンフィグレーションを調査してください。
41	bgp_rcv_v4_update: Peer <bgp name> [(<description>)]: Strange message header length <length>	エラー（相手装置） 該当ピアからの受信メッセージはメッセージヘッダ内のメッセージ長が不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信メッセージのヘッダのメッセージ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
42	bgp_rcv_v4_update: Peer <bgp name> [(<description>)] unrecognized message type <type>	エラー（相手装置） 該当ピアからの受信メッセージはメッセージタイプが不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称

項番	メッセージテキスト	内容
		<description> 送信元ピア description 名称 <type> メッセージタイプ [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
43	bgp_rcv_v4_update: Received OPEN message from <bgp name> [(<description>)], state is ESTABLISHED	ワーニング (相手装置/ネットワーク) ESTABLISHED 状態で該当ピアから OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] コネクションが不安定になっています。頻発する場合は不安定要因を調査してください。
44	bgp_rcv_v4_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE length <length> too small	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージ長が小さ過ぎます。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信メッセージ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
45	bgp_rcv_v4_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE unreachable prefix length <length1> exceeds packet length <length2>	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの非到達経路情報のプレフィックス長がパケット長を超えています。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> 受信メッセージ内の非到達経路情報のプレフィックス長 <length2> 受信パケット長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
46	bgp_rcv_v4_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE zero attribute length followed by <length> bytes of garbage	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの属性長が 0 であるが、実体のデータが存在します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 実体のデータ長 [対応]

項番	メッセージテキスト	内容
		ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
47	bgp_rcv_v4_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE path attribute length <length1> too large (<length2> bytes remaining)	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージのパス属性長が実体のパス属性の長さより大き過ぎます。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> 受信メッセージのパス属性長 <length2> 実体のデータ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
48	bgp_rcv_v4_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE no next hop found	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージにネクストホップ属性が見つかりません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
49	bgp_rcv_v4_update: External peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE included LOCALPREF attribute	エラー (相手装置) 該当外部ピアからの UPDATE メッセージに LOCALPREF 属性を含んでいます。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
50	bgp_rcv_v4_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE no LOCALPREF attribute found	エラー (相手装置) 該当内部ピアからの UPDATE メッセージに LOCALPREF 属性が見つかりません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア番号 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
51	bgp_rcv_v4_update:	エラー (相手装置)

項番	メッセージテキスト	内容
	Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE has path attributes but no reachable prefixes!	該当ピアからの UPDATE メッセージはパス属性を持っているが到達性情報はありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
52	bgp_rcv_v4_unreach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid unreachable prefix length <length>	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの非到達経路情報のプレフィックス長が不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信メッセージ内のプレフィックス長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
53	bgp_rcv_v4_unreach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Prefix length <length1> exceeds unreachable prefix data remaining (<length2> bytes)	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの非到達経路情報のプレフィックス長が非到達経路情報のプレフィックスデータを超えています。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> 受信メッセージ内のプレフィックス長 <length2> 実体のデータ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
54	bgp_rcv_v4_unreach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Ignoring unreachable route with two or more labels (<length1> of <length2>)	ワーニング (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの複数ラベルを持つ非到達経路情報の経路を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> of <length2> メッセージ内の不正情報の位置 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
55	bgp_rcv_v4_unreach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Ignoring unreachable	エラー (相手装置)

項番	メッセージテキスト	内容
	route with RD 0 prefix (<length1> of <length2>)	該当ピアから受信した UPDATE メッセージの RD 0 を持つ非到達経路情報の経路を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> of <length2> メッセージ内の不正情報の位置 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
56	bgp_rcv_v4_unreach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Ignoring invalid unreachable route <ipv4 address>/ <mask> (<length1> of <length2>)	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの非到達経路情報の不正な経路を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <ipv4 address> 非到達経路情報の宛先アドレス <mask> 非到達経路情報のネットワークマスク <length1> of <length2> メッセージ内の不正情報の位置 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
57	bgp_rcv_v4_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] AS <as1> received path with first AS <as2>	エラー (相手装置) AS 番号<as1>のピアから次ホップの AS 番号が<as2>の AS パスを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <as1> 送信元ピアの AS 番号 <as2> 受信メッセージ内の次ホップ AS 番号 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
58	bgp_rcv_v4_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid prefix length <length>	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージのプレフィックス長が不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信メッセージ内のプレフィックス長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
59	bgp_rcv_v4_reach:	エラー (相手装置)

項番	メッセージテキスト	内容
	Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Prefix length <length1> exceeds prefix data remaining (<length2> bytes)	該当ピアから受信した UPDATE メッセージのプレフィックス長は実体のプレフィックス長を超えています。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> 受信メッセージ内のプレフィックス長 <length2> 実体のプレフィックス長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
60	bgp_rcv_v4_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Ignoring route with two or more labels (<length1> of <length2>)	ワーニング (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの複数ラベルを持つ経路を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> of <length2> 受信メッセージ内の不正情報の位置 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
61	bgp_rcv_v4_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Ignoring route with RD 0 prefix (<length1> of <length2>)	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの RD 0 を持つ経路を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> of <length2> 受信メッセージ内の不正情報の位置 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
62	bgp_rcv_v4_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Included invalid route <ipv4 address>/<mask> (<length1> of <length2>)	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージは不正な経路を含んでいます。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <ipv4 address> 宛先アドレス <mask> ネットワークマスク <length1> of <length2> 受信メッセージ内の不正情報の位置 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
63	bgp_rcv_v4_reach:	ワーニング (相手装置)

項番	メッセージテキスト	内容
	Ignoring network 0 route <ipv4 address>/<mask> from peer <bgp name> [(<description>)] (<length1> of <length2>)	該当ピアからのネットワーク 0 宛の経路を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <ipv4 address> 宛先アドレス <mask> ネットワークマスク <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> of <length2> 受信メッセージ内の不正情報の位置 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
64	bgp_rcv_v4_reach: Ignoring loopback route from peer <bgp name> [(<description>)] (<length1> of <length2>)	ワーニング (相手装置) 該当ピアからのループバック経路を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> of <length2> 受信メッセージ内の不正情報の位置 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
65	bgp_rcv_mp_unreach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of MP_UNREACH_NLRI attribute(<length>) : No address family	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの MP_UNREACH_NLRI 属性長が不正です。アドレスファミリーがありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_UNREACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
66	bgp_rcv_mp_unreach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid address family (<address family>) in MP_UNREACH_NLRI attribute	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの MP_UNREACH_NLRI 属性のアドレスファミリーが不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <address family> 受信した MP_UNREACH_NLRI 属性のアドレスファミリー情報 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
67	bgp_rcv_mp_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of	エラー (相手装置)

項 番	メッセージテキスト	内容
	MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No address family	該当ピアから受信した UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。アドレスファミリがありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
68	bgp_rcv_mp_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid address family(<address family>) in MP_REACH_NLRI attribute	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性のアドレスファミリが不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <address family> 受信した MP_REACH_NLRI 属性のアドレスファミリ情報 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
69	bgp_rcv_mp_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No nexthop length	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。ネクストホップ長がありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
70	bgp_rcv_mp_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid nexthop length(<length>) in MP_REACH_NLRI attribute	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性のネクストホップ長が不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性のネクストホップ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
71	bgp_rcv_mp_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of	エラー (相手装置)

項番	メッセージテキスト	内容
	MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No nexthop	該当ピアから受信した UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。ネクストホップがありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
72	bgp_rcv_mp_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid rd of nexthop (<rd1>:<rd2>) in MP_REACH_NLRI attribute	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性のネクストホップの RD が不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <rd1>:<rd2> 受信した MP_REACH_NLRI 属性のネクストホップの RD [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
73	bgp_rcv_mp_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No reserved	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。Reserved フィールドがありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
74	bgp_rcv_mp_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No snpa length	エラー (相手装置) 該当ピアから受信した UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。SNPA 長がありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
75	bgp_rcv_mp_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of	エラー (相手装置)

項番	メッセージテキスト	内容
	MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No snpa	該当ピアから受信した UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。SNPA がありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
76	bgp_peer_established: Peer <bgp name> [<description>]: connection established	情報 (自装置/相手装置) 該当ピアと BGP4 コネクションが確立しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] なし。
77	bgp_ifachange: Peer <bgp name> [<description>]: Closed connection by changing interface state	情報 (自装置/相手装置) インタフェース状態の変化によって、BGP4 コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] インタフェースの状態変化要因を調査してください。
78	bgp_terminate: Peer <bgp name> [<description>]: Closed connection by terminating bgp	情報 (自装置) BGP4 タスクの停止によって、BGP4 コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] BGP4 タスク停止要因を調査してください。
79	bgp_peer_delete: Peer <bgp name> [<description>]: Closed connection by changing configuration	情報 (自装置) コンフィグレーション変更 (ピア情報の削除) によって、BGP4 コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] なし。
80	bgp_init:	情報 (自装置)

項番	メッセージテキスト	内容
	Peer <bgp name> [(<description>)]: Closed connection by changing configuration	コンフィグレーションの変更によって、BGP4 コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] なし。
81	bgp_peer_clear: Peer <bgp name> [(<description>)]: Closed connection by clearing peer	情報（自装置） clear ip bgp コマンドの投入によって、BGP4 コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] なし。
82	bgp_pp_recv: Peer <bgp name> in graceful-restart failed to retain stale routes, deleting all the stale routes from the peer	エラー（相手装置） グレースフル・リスタートを実行したピアがフォワーディング経路を保存できませんでした。該当ピアから学習していた経路をすべて削除します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
83	bgp_recv_open: Peer <bgp name> in graceful-restart failed to retain stale routes, deleting all the stale routes from the peer	エラー（相手装置） グレースフル・リスタートを実行したピアがフォワーディング経路を保存できませんでした。該当ピアから学習していた経路をすべて削除します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
84	bgp_restart_timeout: Peer <bgp name> [(<description>)]: Timed out waiting for reconnect.	エラー（自装置／相手装置） グレースフル・リスタートが失敗しました。ピアルータから指定された restart-time 以内にピアルータに接続できませんでした。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] ピアルータと通信できるかどうかを確認してください。ピアルータで BGP が動作しているかどうかを確認してください。ピアルータが動作

項番	メッセージテキスト	内容
		している場合は、ピアルータの restart-time の値を、ピアルータが復旧し接続できる時間まで延ばしてください。
85	bgp_restart_timeout: Peer <bgp name> [(<description>)]: Timed out waiting for End-Of-RIB marker from restart router.	エラー（相手装置） グレースフル・リスタートが失敗しました。ピアルータから End-Of-RIB を受信できませんでした。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] 該当するピアルータで BGP が動作しているかどうかを確認してください。動作している場合は、stalepath-time の値を延ばしてください。
86	bgp_peer_established: Peer <bgp name> [(<description>)] connection established with graceful restart.	情報（自装置／相手装置） 該当ピアと BGP コネクションが再確立しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] なし。
87	bgp_receive_End-Of-RIB: End-Of-RIB marker received from <bgp name> [(<description>)].	情報（自装置） End-Of-RIB を受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] なし。
88	bgp_send_End-Of-RIB: End-Of-RIB marker sent to <bgp name> [(<description>)].	情報（自装置） End-Of-RIB を送信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 [対応] なし。
89	BGP: NOTIFICATION sent to <bgp name> [(<description>)]: code <code> (<code string>) [subcode <subcode> (<subcode string>)] [value <value>] [data <data>]	ワーニング（相手装置） 該当ピアに NOTIFICATION メッセージを送信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <code> (<code string>), <subcode> (<subcode string>) エラーコード、エラーサブコード 1. エラーコード 1（Message Header Error） ・エラーサブコード 1（lost connection synchronization）

項番	メッセージテキスト	内容
		・エラーサブコード 2 (bad length) ・エラーサブコード 3 (bad message type) 2. エラーコード 2 (Open Message Error) ・エラーサブコード 0 (unspecified error) ・エラーサブコード 1 (unsupported version) ・エラーサブコード 2 (bad AS number) ・エラーサブコード 3 (bad BGP ID) ・エラーサブコード 4 (unsupported optional parameter) ・エラーサブコード 6 (unacceptable holdtime) 3. エラーコード 3 (Update Message Error) ・エラーサブコード 1 (invalid attribute list) ・エラーサブコード 2 (unknown well known attribute) ・エラーサブコード 3 (missing well known attribute) ・エラーサブコード 4 (attribute flags error) ・エラーサブコード 5 (bad attribute length) ・エラーサブコード 6 (bad ORIGIN attribute) ・エラーサブコード 9 (error with optional attribute) ・エラーサブコード 10 (bad address/prefix field) ・エラーサブコード 11 (AS path attribute problem) 4. エラーコード 4 (Hold Timer Expired Error) 5. エラーコード 5 (Finite State Machine Error) 6. エラーコード 6 (Cease) ・不正な<code>の場合<code string>は"invalid"を、不正な<subcode>の場合<subcode string>は"unknown"を表示します。 ・<value>または<data>に NOTIFICATION メッセージのデータフィールドの情報を表示します。 <value> 10 進表示 <data> 16 進表示 [対応] ネットワーク構成およびピアのコンフィグレーションを調査してください。ネットワーク構成およびピアのコンフィグレーションに問題がない場合は、ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4) を調査してください。
90	BGP: NOTIFICATION received from <bgp name> [(<description>)]: code <code> (<code string>) [subcode <subcode> (<subcode string>)] [value <value>] [data <data>]	ワーニング (自装置) 該当ピアから NOTIFICATION メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <code> (<code string>), <subcode> (<subcode string>) エラーコード, エラーサブコード 1. エラーコード 1 (Message Header Error) ・エラーサブコード 1 (lost connection synchronization) ・エラーサブコード 2 (bad length) ・エラーサブコード 3 (bad message type)

項番	メッセージテキスト	内容
		2. エラーコード 2 (Open Message Error) ・エラーサブコード 0 (unspecified error) ・エラーサブコード 1 (unsupported version) ・エラーサブコード 2 (bad AS number) ・エラーサブコード 3 (bad BGP ID) ・エラーサブコード 4 (unsupported optional parameter) ・エラーサブコード 6 (unacceptable holdtime) ・エラーサブコード 7 (unsupported capability) 3. エラーコード 3 (Update Message Error) ・エラーサブコード 1 (invalid attribute list) ・エラーサブコード 2 (unknown well known attribute) ・エラーサブコード 3 (missing well known attribute) ・エラーサブコード 4 (attribute flags error) ・エラーサブコード 5 (bad attribute length) ・エラーサブコード 6 (bad ORIGIN attribute) ・エラーサブコード 7 (AS loop detected) ・エラーサブコード 8 (invalid NEXT_HOP) ・エラーサブコード 9 (error with optional attribute) ・エラーサブコード 10 (bad address/prefix field) ・エラーサブコード 11 (AS path attribute problem) 4. エラーコード 4 (Hold Timer Expired Error) 5. エラーコード 5 (Finite State Machine Error) 6. エラーコード 6 (Cease) ・不正な<code>の場合<code string>は"invalid"を、不正な<subcode>の場合<subcode string>は"unknown"を表示します。 ・<value>または<data>に NOTIFICATION メッセージのデータフィールドの情報を表示します。 <value> 10 進表示 <data> 16 進表示 [対応] ネットワーク構成およびコンフィギュレーションを調査してください。
91	BGP: No MD5 digest from <source ipv4> +<port no.> to <destination ipv4> +<port no.>	ワーニング (相手装置) BGP4 コネクションで受信した TCP セグメントに MD5 認証オプションが設定されていません。 この運用メッセージは、次の契機で出力されます。 1. 最初の事象発生から 16 回目までは、すべて出力されます。 2. 最初の事象発生から 17 回目以降は、256 回事象が発生するごとに 1 回出力されます。 3. 最後の事象発生から 3 分間以上経過してから事象が発生した場合は、上記 1., 2. の契機で出力されます。 ただし、上記回数には、「BGP: Invalid MD5 digest from <source ipv4>+<port no.> to <destination ipv4>+<port no.>」の回数を含みます。 [メッセージテキストの表示説明]

項番	メッセージテキスト	内容
		<source ipv4> 送信元 IPv4 アドレス <port no.> TCP ポート番号 <destination ipv4> 宛先 IPv4 アドレス [対応] 相手装置の BGP4 で MD5 認証が設定されているか調査してください。 設定されていない場合は、MD5 認証の設定が一致するように設定してください。 設定が一致している場合は、送信元 BGP4 ピア以外から TCP セグメントが送信されていないか調査してください。
92	BGP: Invalid MD5 digest from <source ipv4>+<port no.> to <destination ipv4>+<port no.>	ワーニング（自装置／相手装置） BGP4 コネクションで受信した TCP セグメントの MD5 認証オプションが不正です。 この運用メッセージは、次の契機で出力されます。 - 最初の事象発生から 16 回目までは、すべて出力されます。 - 最初の事象発生から 17 回目以降は、256 回事象が発生するごとに 1 回出力されます。 - 最後の事象発生から 3 分以上経過してから事象が発生した場合は、上記 1., 2. の契機で出力されます。 ただし、上記回数には、「BGP: No MD5 digest from <source ipv4>+<port no.> to <destination ipv4>+<port no.>」の回数を含みます。 [メッセージテキストの表示説明] <source ipv4> 送信元 IPv4 アドレス <port no.> TCP ポート番号 <destination ipv4> 宛先 IPv4 アドレス [対応] 自装置と相手装置の BGP4 で MD5 認証キーが一致しているか調査してください。 MD5 認証キーが一致していない場合は、MD5 認証キーが一致するように設定してください。 MD5 認証キーが一致している場合は、送信元 BGP4 ピア以外から TCP セグメントが送信されていないか調査してください。
93	BGP: Number of prefix received from <bgp name> [(<description>)]: reached <routes1>, limit <routes2>	ワーニング（相手装置） 該当ピアから学習した経路数（アクティブ経路と非アクティブ経路の合計）が閾値を超えました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <routes1> ピアから学習した経路数 <routes2> ピアから学習する経路数の上限値 [対応] 該当ピアから学習する経路がさらに増加する場合は、ピアが広告する経路数を調査してください。
94	BGP:	ワーニング（相手装置）

項番	メッセージテキスト	内容
	Number of prefix received from <bgp name> [(<description>)]: <routes1> exceed limit <routes2>	該当ピアから学習した経路数（アクティブ経路と非アクティブ経路の合計）が上限値を超えました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <routes1> ピアから学習した経路数 <routes2> ピアから学習する経路数の上限値 [対応] 該当ピアが広告する経路数を調査してください。
95	BGP: Peer <bgp name> [(<description>)]: Closed connection by maximum- prefix	情報（相手装置） 学習経路数の制限によって BGP4 コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] 該当ピアが広告する経路数を調査してください。ピアを再接続する場合は、ピアが広告する経路数が上限値以下になることを確認してから、clear ip bgp コマンドを入力してください。
96	BGP: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE included attribute type code (0) [- AS Path (<as number>): <aspath>]	ワーニング（相手装置） 該当ピアからタイプコードが 0 のパス属性を含む UPDATE メッセージを受信しました。 本運用メッセージは同一ピアにおいて前回の出力から 1 時間以内は再度出力しません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <as number> AS 番号の数 <aspath> AS パス - AS 番号列：AS_SEQ {AS 番号列}：AS_SET (AS 番号列)：AS_CONFED_SEQUENCE なお、一つの運用メッセージで出力できる文字数には制限があるため、すべての AS パスが出力されない（AS 番号の途中までしか出力されない）ことがあります。 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム（BGP4）を調査してください。

3.2.4 IPv4 ユニキャストルーティングプロトコル共通

ユニキャストルーティング共通情報（RTM）のイベント情報を次の表に示します。

表 3-5 ユニキャストルーティング共通イベント情報

項番	メッセージテキスト	内容
1	*** Give up gdump. Because of no enough memory.	ワーニング（自装置） dump protocols unicast コマンドによるユニキャストルーティングプログラムの制御情報ダンプ収集中に、システムのメモリ残量が一時的に既定値を下回ったため、ダンプ収集を中断しました。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] コマンド実行するために必要な空きメモリが不足しています。収容条件を見直してください。

3.3 IPv6 ルーティングプロトコル情報(RTM)

IPv6 ルーティングプロトコルのイベント情報について説明します。

3.3.1 RIPng

IPv6 ルーティングプロトコル情報 (RTM) のイベント情報を次の表に示します。

表 3-6 IPv6 ルーティングプロトコル (RIPng) イベント情報

項番	メッセージテキスト	内容
1	ripng_rcv: Bad metric(<metric>) for net <prefix> from <source address>	エラー (相手装置) 不正なメトリック値 (0 または 17 以上のメトリック) を持つ経路情報を受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <metric> 経路情報のメトリック値 <prefix> 経路情報の宛先プレフィックス <source address> 送信元ゲートウェイアドレス [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIPng) を調査してください。
2	ripng_rcv: Bad prefixlen(<prefixlen>) for net <prefix> from <source address>	エラー (相手装置) 不正なプレフィックス長を持つ経路情報を受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <prefixlen> 経路情報のプレフィックス長 <prefix> 経路情報の宛先 <source address> 送信元ゲートウェイアドレス [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIPng) を調査してください。
3	ripng_rcv: Ignoring RIPng <ripng command> packet from <source address> - ignoring invalid version packet	エラー (相手装置) バージョンフィールドが不正のため、受信した RIPng パケットを無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <ripng command> 受信メッセージタイプ Request, Response <source address> 送信元ゲートウェイアドレス [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIPng) を調査してください。
4	ripng_rcv: Packet hoplimit is <hop limit> hop limit must be 255	エラー (相手装置) ホップリミットが不正なため、受信した RIPng パケットを無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <hop limit> 受信ホップリミット

項番	メッセージテキスト	内容
		[対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIPng) を調査してください。
5	ripng_init: Old copy of rtm is running	エラー (自装置) すでにユニキャストルーティングプログラムが動作している可能性があります。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従い、処置してください。
6	ripng_rcv: Ignoring RIPng <ripng command> from <source address> - source address is not link-local	エラー (相手装置) ソースアドレスがリンクローカルアドレスではないため、受信した RIPng パケットを無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <ripng command> 受信メッセージタイプ <source address> 送信元ゲートウェイ [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIPng) を調査してください。
7	ripng_rcv: Ignoring RIPng <ripng command> from <source address> - source port is not valid	エラー (相手装置) 不正なソースポートのため、受信した RIPng パケットを無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <ripng command> 受信メッセージタイプ <source address> 送信元ゲートウェイ [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIPng) を調査してください。
8	ripng_rcv: Ignoring RIPng <ripng command> packet from <source address> - invalid or not implemented command	エラー (相手装置) 無効または実装されていないコマンドのため、受信したパケットを無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <ripng command> 受信メッセージタイプ <source address> 送信元ゲートウェイ [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIPng) を調査してください。
9	ripng_rcv: Ignoring RIPng packet from <source address> - too short packet (<size>)	エラー (相手装置) RIPng ヘッドよりもパケット長が短いため、受信したパケットを無視します。 [メッセージテキストの表示説明]

項番	メッセージテキスト	内容
		<source address> 送信元ゲートウェイ <size> パケット長 [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIPng) を調査してください。
10	ripng_rcv: Ignoring RIPng request packet from <source address> - the routing entries of improper length	エラー (相手装置) 不正な長さの経路情報が含まれているため、受信した request パケットを無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元ゲートウェイ [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIPng) を調査してください。
11	ripng_rcv: Ignoring a routing entry of improper length - packet from <source address>	エラー (相手装置) 不正な長さの経路情報を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元ゲートウェイ [対応] 送信元ゲートウェイのユニキャストルーティングプログラム (RIPng) を調査してください。
12	RIPng: The total number of RIPng targets is more than the maximum permitted	エラー (自装置) RIPng ターゲット (隣接) の総数が最大許容数をオーバーしています。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] 最大隣接ルータ数が収容条件を超えないように RIPng の設定を見直してください。

3.3.2 OSPFv3 【OS-L3A】

IPv6 ルーティングプロトコル情報 (RTM) のイベント情報を次の表に示します。

表 3-7 IPv6 ルーティングプロトコル (OSPFv3) イベント情報

項番	メッセージテキスト	内容
1	OSPFv3 SENT <source address> (<interface name>) -> <destination address>: <error string>.	ワーニング (自装置) OSPFv3 パケットの送信に失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv6 アドレス <interface name> インタフェース名称 <destination address> 宛先 IPv6 アドレス <error string> エラー要因

項番	メッセージテキスト	内容
		[対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
2	OSPFv3: Helper to adjacency <router id> failed because network topology is changed.	ワーニング（自装置／ネットワーク） トポロジー変更のため、ヘルパールータの動作を停止しました。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID [対応] なし。
3	OSPFv3: Helper to adjacency <router id> failed because restart time is up.	情報（相手装置） リスタート待ち時間が経過したため、ヘルパールータの動作を停止しました。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID [対応] 隣接ルータがリスタート動作を停止していないか確認してください。停止していない場合、隣接ルータのリスタート時間を調整してください。
4	OSPFv3 RECV [Area <area id>] RouterID <source id> [(<interface name>)] -> <destination address>: <log type>.	ワーニング（自装置／相手装置） 受信した OSPFv3 パケットが不正です。 ただし、OSPFv3 インタフェースとして設定していないブロードキャスト型インタフェースから受信したマルチキャストパケットは、ログ採取せずに廃棄します。 [メッセージテキストの表示説明] <area id> エリア ID <source id> 送信元ルータ ID <interface name> インタフェース名称 <destination address> 宛先 IPv6 アドレス <log type> ログ種別 • IP: received my own packet • bad packet type • bad version • bad checksum • packet too small • packet size > ip length • unknown neighbor • area mismatch • bad virtual link • interface down • HELLO: hello timer mismatch • HELLO: dead timer mismatch • HELLO: extern option mismatch • DD: extern option mismatch

項番	メッセージテキスト	内容
		• HELLO: router id confusion • DD: router id confusion • DD: MTU mismatch • LS ACK: Unknown LSA type • LS REQ: empty request • LS REQ: bad request • LS UPD: LSA checksum bad • LS UPD: Unknown LSA type [対応] ログ種別によって、対応が異なります。 • IP: received my own packet • bad packet type • bad version • bad checksum • packet too small • packet size > ip length 隣接ルータが不正なパケットを送信しています。隣接ルータのユニキャストルーティングプログラム（OSPFv3）を調査してください。 • unknown neighbor Hello で認識していない隣接ルータから、Hello 以外のパケットを受信していますが対応不要です。 • area mismatch • bad virtual link 新規の隣接ルータからパケットを受信している場合、エリアの設定を修正してください。 それ以外は対応不要です。 • interface down なし。 • HELLO: hello timer mismatch • HELLO: dead timer mismatch OSPFv3 インタフェースの設定を修正してください。 • HELLO: extern option mismatch • DD: extern option mismatch スタブエリアの設定を修正してください。 • HELLO: router id confusion • DD: router id confusion ルータ ID の設定を修正してください。 • DD: MTU mismatch 隣接ルータと MTU 長が不一致であるため、経路情報の交換に失敗する場合があります。MTU 長を合わせてください。 • LS ACK: Unknown LSA type • LS REQ: empty request

項番	メッセージテキスト	内容
		• LS REQ: bad request • LS UPD: LSA checksum bad • LS UPD: Unknown LSA type 隣接ルータが不正なパケットを送信しています。隣接ルータのユニキャストルーティングプログラム (OSPFv3) を調査してください。
5	OSPFv3: Conflict between LSDB <lsid> and route <prefix> /<prefixlen> - Export to OSPFv3 Bypassed.	エラー (自装置) LSDB <lsid>と経路間で矛盾があります。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] <lsid> LSA の LSID <prefix> 経路情報の宛先アドレス <prefixlen> 経路情報のプレフィックス長 [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従って処置してください。
6	OSPFv3: Lost adjacency <router id> with interfaceID <id> (<interface name>) because no Hello received recently.	ワーニング (相手装置/ネットワーク) 隣接ルータから定期的送信されるはずの Hello パケットを一定時間受信しなかったため、隣接関係を打ち切りました。隣接ルータが動作を停止した場合、または本装置-隣接ルータ間の通信に不具合がある場合に発生します。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID <id> 隣接ルータのインタフェース ID <interface name> インタフェース名称 [対応] 頻発する場合、Hello パケット送信間隔 (hellointerval) を短くし、Hello パケット最大許容受信間隔 (routerdeadinterval) を長くしてください。
7	OSPFv3: Lost adjacency <router id> with interfaceID <id> (<interface name>) because neighbor didn't receive my Hello recently.	ワーニング (相手装置/ネットワーク) 隣接ルータが本装置を認識しなくなったため、隣接関係を打ち切りました。隣接ルータが再起動した場合、および本装置が送信した Hello パケットを隣接ルータが適切に受信していない場合に発生します。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID <id> 隣接ルータのインタフェース ID <interface name> インタフェース名称 [対応] 頻発する場合 Hello パケット送信間隔 (hellointerval), Hello パケット最大許容受信間隔 (routerdeadinterval) を長くしてください。
8	OSPFv3: Lost adjacency <router id1> with interfaceID <id> (<interface name>) due to bad LS Request (<lsid> <router id2> <ls type>).	エラー (相手装置) 不正な LS リクエストによって隣接ルータを失いました。 [メッセージテキストの表示説明] <router id1> 隣接ルータのルータ ID <id> 隣接ルータのインタフェース ID <interface name> インタフェース名称

項番	メッセージテキスト	内容
		<lsid> LSA の LSID <router id2> LSA の広告ルータ ID <ls type> LSA の LS タイプコード [対応] 隣接ルータのユニキャストルーティングプログラム (OSPFv3) を調査してください。
9	OSPFv3: Lost adjacency <router id> with interfaceID <id> (<interface name>) due to sequence mismatch (<sequence1> versus <sequence2>).	ワーニング (自装置／相手装置) シーケンス (またはオプション) の不一致によって隣接ルータを失いました。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID <id> 隣接ルータのインタフェース ID <interface name> インタフェース名称 <sequence1> 制御データ上のシーケンス番号 <sequence2> DD メッセージ内のシーケンス番号 [対応] 頻発する場合は OSPFv3 パケット再送間隔 (retransmitinterval) を長くしてください。
10	OSPFv3: Adjacency <router id> interface <interface name> is established.	情報 (自装置／相手装置) OSPFv3 の隣接ルータとの接続に成功しました。 [メッセージテキストの表示説明] <router id> 隣接ルータのルータ ID <interface name> インタフェース名称 [対応] なし。
11	OSPFv3: Checksum failed at LSA type <ls type> ID <lsid> adv-router <router id> in this system's LSDB that belongs to Area <area id>, Domain <domain id>.	エラー (自装置) LSDB のチェックサムが不正です。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] <ls type> LSA の LS タイプコード <lsid> LSA の LSID <router id> LSA の広告ルータ ID <area id> LSA のエリア ID <domain id> LSA の Domain_ID [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従い、処置してください。
12	OSPFv3: Recovered from stub router (in domain <domain id>).	情報 (自装置) スタブルータ動作を終了します。 [メッセージテキストの表示説明] <domain id> OSPFv3 の Domain ID [対応] なし。

3.3.3 BGP4+ 【OS-L3A】

IPv6 ルーティングプロトコル情報 (RTM) のイベント情報を次の表に示します。

表 3-8 IPv6 ルーティングプロトコル (BGP4+) イベント情報

項番	メッセージテキスト	内容
1	bgp4+_check_auth: Synchronization failure with BGP task <task name>	エラー (相手装置)
		BGP4+タスクが受信したメッセージのヘッダマーカの値が不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <task name> BGP4+タスク名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
2	bgp4+_trace: Unsupported BGP version <version>!!!	エラー (自装置)
		制御データ上の BGP バージョン番号が不正です。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] <version> 制御データ上の BGP バージョン番号 [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従って、処置してください。
3	bgp4+_log_notify: Notify message received from <bgp name> [(<description>)] is truncated (length <length>)	エラー (相手装置)
		該当ピアから受信した NOTIFICATION メッセージのメッセージ長が不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信メッセージ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
4	bgp4+_send: Sending <length> bytes to <bgp name> [(<description>)] blocked (no spooling requested): <error string>	ワーニング (自装置)
		ソケットバッファが一杯となったため該当ピアへのメッセージ送信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length> 送信要求メッセージ長 <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
5	bgp4+_send:	ワーニング (自装置)
		該当ピアへのメッセージ送信が失敗しました。

項番	メッセージテキスト	内容
	Sending <length> bytes to <bgp name> [(<description>)] failed: <error string>	[メッセージテキストの表示説明] <length> 送信要求メッセージ長 <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
6	bgp4+_send: Sending <length> bytes to <bgp name> [(<description>)]: Connection closed	ワーニング（自装置／相手装置／ネットワーク） コネクションの切断によって該当ピアへのメッセージ送信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length> 送信要求メッセージ長 <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 [対応] 頻発する場合は、コネクションの切断原因を調査してください。
7	bgp4+_send: Sending to <bgp name> [(<description>)] looping: <error string>	ワーニング（自装置） 該当ピアへのメッセージ送信がリトライアウトしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
8	bgp4+_send_open: Internal error! peer <bgp name> [(<description>)], version <version>	エラー（自装置） 該当ピアに送信する OPEN メッセージの BGP バージョン番号が不正です。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <version> 送信メッセージ内の BGP バージョン番号 [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従って、処置してください。
9	bgp4+_path_attr_error from <routine>: Update error subcode <code> (<error string>) for peer <bgp name> [(<description>)] detected. <length> bytes error data - 1st five: <error data>	エラー（相手装置） 該当ピアから受信した UPDATE メッセージでエラーを検出しました。 [メッセージテキストの表示説明] <routine> 内部ルーチン名称 <code> (<error string>) エラー要因 <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> エラーデータ長

項番	メッセージテキスト	内容
		<error data> エラーデータの先頭 5 バイト [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
10	bgp4+_recv: Read from peer <bgp name> [(<description>)] failed: <error string>	ワーニング (自装置) 該当ピアからのメッセージ受信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
11	bgp4+_recv: Peer <bgp name> [(<description>)]: Received unexpected EOF	ワーニング (自装置/相手装置/ネットワーク) コネクションの切断によって該当ピアからのメッセージ受信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] 頻発する場合は、コネクションの切断原因を調査してください。
12	bgp4+_read_message: Peer <bgp name> [(<description>)]: <message type> message arrived with length <length>	エラー (相手装置) 該当ピアから不正なメッセージ長のメッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <message type> 受信メッセージタイプ • invalid, Open, Update, Notification, KeepAlive <length> 受信メッセージ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
13	bgp4+_read_message: Peer <bgp name> [(<description>)]: <message type1> arrived, expected <message type2> [or <message type2>]	エラー (相手装置) 該当ピアから状態に適切でないメッセージタイプのメッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <message type1> 受信メッセージタイプ • invalid, Open, Update, Notification, KeepAlive <message type2> 状態に適切なメッセージタイプ • invalid, Open, Update, Notification, KeepAlive

項番	メッセージテキスト	内容
		[対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
14	bgp4+_get_open: Peer <bgp name> [(<description>)]: Received short version <version> message (<length> octets)	エラー (相手装置) 該当ピアからメッセージ長が不正な OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <version> 受信メッセージ内の BGP バージョン番号 <length> 受信メッセージ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
15	bgp4+_get_open: Received unsupported version <version> message from peer <bgp name> [(<description>)]	ワーニング (相手装置) 該当ピアから未サポートの BGP バージョン番号を持つ OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <version> 受信メッセージの BGP バージョン番号 <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアが BGP バージョン 4 をサポートしているか調査してください。
16	bgp4+_get_open: Peer <bgp name> [(<description>)]: Hold time too small (<hold time>)	エラー (相手装置) 該当ピアからホールドタイムが 3 秒より小さい OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <hold time> 受信メッセージ内のホールドタイム [対応] ピアのコンフィグレーションを調査してください。
17	bgp4+_get_open: Peer <bgp name> [(<description>)]: Invalid BGP4+ identifier <router id>	エラー (相手装置) 該当ピアから不正な BGP4+識別子の OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <router id> 受信メッセージ内の BGP4+識別子 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
18	bgp4+_get_open:	エラー (相手装置)

項番	メッセージテキスト	内容
	Peer <bgp name> [(<description>)] : Unsupported optional parameter <option>	該当ピアから不正なオプションコードを含む OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <option> 受信メッセージ内のオプションコード [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください
19	bgp4+_recv_open: Peer <bgp name> [(<description>)] claims AS <as1>, <as2> configured	ワーニング (自装置／相手装置) 該当ピアから構成された AS 番号と異なる AS 番号の OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <as1> 受信メッセージの AS 番号 <as2> コンフィグレーション上のピアの AS 番号 [対応] コンフィグレーションを調査してください。
20	bgp4+_recv_open: Peer <bgp name> [(<description>)] accepted mismatched versions: Peer <version1> this system <version2>	ワーニング (相手装置) 該当ピアから BGP バージョン番号が不一致の状態では KEEPALIVE メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <version1> 相手側の BGP バージョン番号 <version2> 自側の BGP バージョン番号 [対応] ピアが BGP4+ をサポートしているか調査してください。
21	bgp4+_pp_recv: No group for <bgpp name> found, dropping peer	ワーニング (自装置／相手装置) 設定されていないピアから OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgpp name> 送信元ピア名称 [対応] コンフィグレーションを調査してください。
22	bgp4+_pp_recv: Rejecting connection from <bgp name> [(<description>)], peer in state <state>	ワーニング (相手装置／ネットワーク) Idle, OpenConfirm, Established 状態中に該当ピアから OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <state> ピア状態

項番	メッセージテキスト	内容
		• Idle, OpenConfirm, Established [対応] コネクションが不安定になっています。頻発する場合は、不安定要因を調査してください。
23	bgp4+_pp_rcv: Dropping <bgpp name> version <version>, <bgp name> [(<description>)] wants version 4	ワーニング（相手装置） 該当ピアから未サポートの BGP バージョン番号を持つ OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgpp name>, <bgp name> 送信元ピア名称 <version> 受信メッセージの BGP バージョン番号 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアがサポートしている BGP バージョンを調査してください。
24	bgp4+_pp_rcv: Peer <bgp name> [(<description>)] sent unexpected extra data, probably insane	エラー（相手装置） 該当ピアからのメッセージに不要なデータが付加されています。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
25	bgp4+_check_capability_match: Capability of peer <bgp name> [(<description>)] is unmatched	ワーニング（相手装置） 本装置に設定されている Capability の設定が、該当ピアに設定されていません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] コンフィギュレーションを調査してください。
26	bgp4+_write_flush: Sending <length1> (sent <length2>) bytes to <bgp name> [(<description>)] failed: <error string>	ワーニング（自装置） 該当ピアへのメッセージ送信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length1> 送信要求データ長 <length2> 送信済データ長 <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
27	bgp4+_write_flush:	ワーニング（自装置／相手装置／ネットワーク）

項番	メッセージテキスト	内容
	Sending <length1> (sent <length2>) bytes to <bgp name> [(<description>)]: Connection closed	コネクションの切断によって該当ピアへのメッセージ送信が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length1> 送信要求データ長 <length2> 送信済データ長 <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 [対応] 頻発する場合はコネクションの切断原因を調査してください。
28	bgp4+_write_flush: Sending to <bgp name> [(<description>)] (sent <length1>, <length2> remain[s]) looping: <error string>	ワーニング (自装置) 該当ピアへのメッセージ送信がリトライアウトしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <length1> 送信済データ長 <length2> 送信残データ長 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
29	bgp4+_peer_connected: task_get_addr_local(<bgp name> [(<description>)]): <error string>	ワーニング (自装置) 該当ピアへのコネクション接続に使用するローカルアドレス取り出しに失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
30	bgp4+_connect_start: Peer <bgp name> [(<description>)] local address <ipv6 address> unavailable, connection failed	ワーニング (自装置) 該当ピアとのコネクション接続に使用するローカルアドレスが利用できない (バインド失敗) ためにコネクション接続が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 <ipv6 address> ピアリングに使用するローカルアドレス [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
31	bgp4+_traffic_timeout: Holdtime expired for <bgp name> [(<description>)]	ワーニング (相手装置/ネットワーク) 該当ピアに対するホールドタイムアウトが発生しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称

項番	メッセージテキスト	内容
		<description> 接続先ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
32	bgp4+_traffic_timeout: Error sending KEEPALIVE to <bgp name> [(<description>)]: <error string>	ワーニング (自装置) 該当ピアへの KEEPALIVE メッセージの送信に失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
33	bgp4+_listen_accept: accept(<socket>): <error string>	ワーニング (自装置) コネクションの受付が失敗しました。 [メッセージテキストの表示説明] <socket> ソケットのディスクリプタ番号 <error string> エラー要因 [対応] 頻発する場合は、エラー要因を調査してください。
34	bgp4+_listen_accept: bgp4+_get_peer_if() failed, terminating!!	エラー (自装置) コネクション接続に使用するリンクローカルアドレス取り出しに失敗しました。コネクション接続をいったん終了します。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] 頻発する場合は、ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
35	bgp4+_listen_accept: task_get_addr_local() failed, terminating!!	エラー (自装置) コネクション接続に使用するローカルアドレス取り出しに失敗しました。コネクション接続をいったん終了します。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] 頻発する場合は、ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
36	bgp4+_listen_start: Couldn't get BGP listen socket!!	エラー (自装置) コネクション接続のためのソケット生成に失敗しました。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応]

項番	メッセージテキスト	内容
		ログ「rtm aborted」の対応に従って、処置してください。
37	bgp4+_listen_start: listen: <error string>	エラー（自装置） コネクションの受付準備が失敗しました。ユニキャストルーティングプログラムを自動的に再起動します。 [メッセージテキストの表示説明] <error string> エラー要因 [対応] ログ「rtm aborted」の対応に従って、処置してください。
38	bgp4+_set_peer_if: BGP peer <bgp name> [(<description>)] interface not found. Leaving peer idled	ワーニング（自装置） 該当ピアと接続されたインタフェースが見つかりません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] コンフィグレーションを調査してください。
39	bgp4+_set_peer_if: BGP peer <bgp name> [(<description>)] local address <ipv6 address> not on shared net. Leaving peer idled	ワーニング（自装置） 該当ピアとのコネクション接続に使用するローカルアドレスが同一ネットワーク上にありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 <ipv6 address> コネクション接続に使用するローカルアドレス [対応] コンフィグレーションを調査してください。
40	bgp4+_pp_timeout: Peer <bgrp name> timed out waiting for OPEN	ワーニング（相手装置／ネットワーク） 該当ピアとの OPEN メッセージ待ちタイマがタイムアウトしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgrp name> 接続先ピア名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム（BGP4+）を調査してください。
41	bgp4+_peer_init: BGP peer <bgp name> [(<description>)] local address <ipv6 address> not found. Leaving peer idled	ワーニング（自装置） 該当ピアとのコネクション接続に使用するローカルアドレスに対するインタフェースが見つかりません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 <ipv6 address> コネクション接続に使用するローカルアドレス [対応] コンフィグレーションを調査してください。

項番	メッセージテキスト	内容
42	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)]: Strange message header length <length>	エラー（相手装置） 該当ピアからの受信メッセージはメッセージヘッダ内のメッセージ長が不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信メッセージのヘッダのメッセージ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
43	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)] unrecognized message type <type>	エラー（相手装置） 該当ピアからの UPDATE メッセージはメッセージタイプが不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <type> メッセージタイプ [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
44	bgp4+_recv_update: Received OPEN message from <bgp name> [(<description>)], state is ESTABLISHED	ワーニング（相手装置／ネットワーク） ESTABLISHED 状態で該当ピアから OPEN メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] コネクションが不安定になっています。頻発する場合は不安定要因を調査してください。
45	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE length <length> too small	エラー（相手装置） 該当ピアからの UPDATE メッセージ長が小さ過ぎます。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信メッセージ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
46	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE unreachable prefix length <length1> exceeds packet length <length2>	エラー（相手装置） 該当ピアからの UPDATE メッセージの非到達経路情報のプレフィックス長がパケット長を超えています。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称

項番	メッセージテキスト	内容
		<description> 送信元ピア description 名称 <length1> 受信メッセージ内の非到達経路情報のプレフィックス長 <length2> 受信パケット長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
47	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE unreachable prefix length <length> too long	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの非到達経路情報のプレフィックス長が 128 ビットを超えています。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信メッセージ内のプレフィックス長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください
48	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE prefix length <length1> exceeds unreachable prefix data remaining (<length2> bytes)	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの非到達経路情報のプレフィックス長が非到達経路情報のプレフィックスデータを超えています。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> 受信メッセージ内のプレフィックス長 <length2> 実体のデータ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
49	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE zero attribute length followed by <length> bytes of garbage	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの属性長が 0 であるが、実体のデータが存在します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 実体のデータ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
50	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE path attribute length <length1> too large (<length2> bytes remaining)	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージのパス属性長が実体のパス属性の長さより大き過ぎます。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称

項番	メッセージテキスト	内容
		<description> 送信元ピア description 名称 <length1> 受信メッセージのパス属性長 <length2> 実体のデータ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
51	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE no next hop found	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージにネクストホップ属性が見つかりません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
52	bgp4+_recv_update: External peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE included LOCALPREF attribute	エラー (相手装置) 該当外部ピアからの UPDATE メッセージに LOCALPREF 属性を含んでいます。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
53	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE no LOCALPREF attribute found	エラー (相手装置) 該当内部ピアからの UPDATE メッセージに LOCALPREF 属性が見つかりません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア番号 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
54	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE has path attributes but no reachable prefixes!	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージはパス属性を持っていますが、対応する経路情報を持っていません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。

項番	メッセージテキスト	内容
55	bgp4+_recv_update: Peer <bgp name> [(<description>)] AS <as1> received path with first AS <as2>	エラー（相手装置） AS 番号<as1>のピアから次ホップの AS 番号が<as2>の AS パスを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <as1> 送信元ピアの AS 番号 <as2> 受信メッセージ内の次ホップ AS 番号 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
56	bgp4+_recv_update: Ignores prefix from peer <bgp name> [(<description>)] in RFC-1771's NLRI field	ワーニング（相手装置） RFC2858 に従わないで RFC1771 に従ったフォーマットの経路情報を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
57	bgp4+_recv_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No address family	エラー（相手装置） 該当ピアからの UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。アドレスファミリーがありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
58	bgp4+_recv_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No nexthop length	エラー（相手装置） 該当ピアからの UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。ネクストホップ長がありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
59	bgp4+_recv_reach:	エラー（相手装置）

項番	メッセージテキスト	内容
	Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No nexthop	該当ピアからの UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。ネクストホップがありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
60	bgp4+_recv_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No reserved	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。Reserved フィールドがありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
61	bgp4+_recv_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No snpa length	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。SNPA 長がありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
62	bgp4+_recv_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of MP_REACH_NLRI attribute(<length>) : No snpa	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの MP_REACH_NLRI 属性長が不正です。SNPA がありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_REACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
63	bgp4+_recv_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE multi-protocol prefix	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの経路のプレフィックス長が残データ量と比較して長すぎます。

項番	メッセージテキスト	内容
	length <length1> exceeds prefix data remaining (<length2> bytes)	[メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length1> 受信メッセージ内のプレフィックス長 <length2> 実体のデータ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
64	bgp4+_recv_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE multi-protocol prefix length <length> too long	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの経路のプレフィックス長が 128 ビットを超えています。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元のピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信メッセージ長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
65	bgp4+_recv_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] bad next hop address length <length>	エラー (相手装置) 該当ピアからの経路のネクストホップアドレス長が不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> ネクストホップアドレス長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
66	bgp4+_recv_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] next hop <ipv6 address> improper, ignoring routes in this update	エラー (相手装置) 該当ピアからの経路のネクストホップアドレスが同一ネットワーク上ありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <ipv6 address> ネクストホップアドレス [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
67	bgp4+_recv_reach: Peer <bgp name> [(<description>)] unknown family/subfamily <family>/<subfamily>	エラー (相手装置) 該当ピアから IPv6 ユニキャスト以外の経路情報を受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称

項番	メッセージテキスト	内容
		<family> アドレスファミリ <subfamily> サブアドレスファミリ [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
68	bgp4+_recv_unreach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE: Invalid length of MP_UNREACH_NLRI attribute(<length>) : No address family	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの MP_UNREACH_NLRI 属性長が不正です。アドレスファミリがありません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信した MP_UNREACH_NLRI 属性長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
69	bgp4+_recv_unreach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE prefix length <length> exceeds unreachable multi-protocol prefix data remaining (<length> bytes)	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの非到達経路情報のプレフィックス長で残りの到達経路情報のデータ長を超えています。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> ネクストホップアドレス長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
70	bgp4+_recv_unreach: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE unreachable multi- protocol prefix length <length> too long	エラー (相手装置) 該当ピアからの UPDATE メッセージの非到達経路情報のプレフィックス長が 128 ビットを超えています。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <length> 受信メッセージ内のプレフィックス長 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
71	bgp4+_recv_unreach: Peer <bgp name> [(<description>)] unknown family/subfamily <family>/<subfamily>	エラー (相手装置) 該当ピアから IPv6 ユニキャスト以外の非到達経路情報を受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <family> アドレスファミリ <subfamily> サブアドレスファミリ

項番	メッセージテキスト	内容
		[対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
72	bgp4+_peer_established: Peer <bgp name> [(<description>)] connection established	情報 (自装置/相手装置) 該当ピアと BGP4+コネクションが確立しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] なし。
73	bgp4+_ifachange: Peer <bgp name> [(<description>)]: Closed connection by changing interface state	情報 (自装置/相手装置) インタフェース状態の変化によって、BGP4+コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] インタフェースの状態変化要因を調査してください。
74	bgp4+_terminate: Peer <bgp name> [(<description>)]: Closed connection by terminating bgp4+	情報 (自装置) BGP4+タスクの停止によって、BGP4+コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] BGP4+タスク停止要因を調査してください。
75	bgp4+_peer_delete: Peer <bgp name> [(<description>)]: Closed connection by changing configuration	情報 (自装置) コンフィグレーション変更 (ピア情報の削除) によって、BGP4+コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] なし。
76	bgp4+_init: Peer <bgp name> [(<description>)]: Closed connection by changing configuration	情報 (自装置) コンフィグレーションの変更によって、BGP4+コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] なし。

項番	メッセージテキスト	内容
77	bgp4+_peer_clear: Peer <bgp name> [(<description>)]: Closed connection by clearing peer	情報（自装置）
		clear ipv6 bgp コマンドの投入によって、BGP4+コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] なし。
78	bgp4+_pp_recv: Peer <bgp name> in graceful- restart failed to retain stale routes, deleting all the stale routes from the peer	エラー（相手装置）
		グレースフル・リスタートを実行したピアがフォワーディング経路を保存できませんでした。該当ピアから学習していた経路をすべて削除します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
79	bgp4+_recv_open: Peer <bgp name> in graceful- restart failed to retain stale routes, deleting all the stale routes from the peer	エラー（相手装置）
		グレースフル・リスタートを実行したピアがフォワーディング経路を保存できませんでした。該当ピアから学習していた経路をすべて削除します。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
80	bgp4+_restart_timeout: Peer <bgp name> [(<description>)]: Timed out waiting for reconnect.	エラー（自装置／相手装置）
		グレースフル・リスタートが失敗しました。ピアルータから指定された restart-time 以内にピアルータに接続できませんでした。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] ピアルータと通信できるかどうかを確認してください。ピアルータで BGP4+が動作しているかどうかを確認してください。ピアルータが動作している場合は、ピアルータの restart-time の値を、ピアルータが復旧し接続できる時間まで延ばしてください。
81	bgp4+_restart_timeout: Peer <bgp name> [(<description>)]: Timed out waiting for End-Of-RIB marker from restart router.	エラー（相手装置）
		グレースフル・リスタートが失敗しました。ピアルータから End-Of-RIB を受信できませんでした。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応]

項番	メッセージテキスト	内容
		該当ピアルータで BGP4+が動作しているかどうかを確認してください。 動作している場合は、stalepath-time の値を延ばしてください。
82	bgp4+_peer_established: Peer <bgp name> [(<description>)] connection established with graceful restart.	情報（自装置／相手装置） 該当ピアと BGP コネクションを再確立しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] なし。
83	bgp4+_receive_End-Of-RIB: End-Of-RIB marker received from <bgp name> [(<description>)].	情報（自装置） End-Of-RIB を受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 [対応] なし。
84	bgp4+_send_End-Of-RIB: End-Of-RIB marker sent to <bgp name> [(<description>)].	情報（自装置） End-Of-RIB を送信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 [対応] なし。
85	BGP4+: NOTIFICATION sent to <bgp name> [(<description>)]: code <code> (<code string>) [subcode <subcode> (<subcode string>)] [value <value>] [data <data>]	ワーニング（相手装置） 該当ピアに NOTIFICATION メッセージを送信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信先ピア名称 <description> 送信先ピア description 名称 <code> (<code string>), <subcode> (<subcode string>) エラー コード, エラーサブコード - エラーコード 1（Message Header Error） - エラーサブコード 1（lost connection synchronization） - エラーサブコード 2（bad length） - エラーサブコード 3（bad message type） - エラーコード 2（Open Message Error） - エラーサブコード 0（unspecified error） - エラーサブコード 1（unsupported version） - エラーサブコード 2（bad AS number） - エラーサブコード 3（bad BGP ID） - エラーサブコード 4（unsupported optional parameter） - エラーサブコード 6（unacceptable holdtime）

項番	メッセージテキスト	内容
		3. エラーコード 3 (Update Message Error) ・エラーサブコード 1 (invalid attribute list) ・エラーサブコード 2 (unknown well known attribute) ・エラーサブコード 3 (missing well known attribute) ・エラーサブコード 4 (attribute flags error) ・エラーサブコード 5 (bad attribute length) ・エラーサブコード 6 (bad ORIGIN attribute) ・エラーサブコード 9 (error with optional attribute) ・エラーサブコード 10 (bad address/prefix field) ・エラーサブコード 11 (AS path attribute problem) 4. エラーコード 4 (Hold Timer Expired Error) 5. エラーコード 5 (Finite State Machine Error) 6. エラーコード 6 (Cease) ・不正な<code>の場合<code string>は"invalid"を、不正な<subcode>の場合<subcode string>は"unknown"を表示します。 ・<value>または<data>に NOTIFICATION メッセージのデータフィールドの情報を表示します。 <value> 10 進表示 <data> 16 進表示 [対応] ネットワーク構成およびピアのコンフィグレーションを調査してください。ネットワーク構成およびピアのコンフィグレーションに問題がない場合はピアのユニキャストルーティングプログラム (BGP4+) を調査してください。
86	BGP4+: NOTIFICATION received from <bgp name> [(<description>)]: code <code> (<code string>) [subcode <subcode> (<subcode string>)] [value <value>] [data <data>]	ワーニング (自装置) 該当ピアから NOTIFICATION メッセージを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <code> (<code string>), <subcode> (<subcode string>) エラーコード, エラーサブコード 1. エラーコード 1 (Message Header Error) ・エラーサブコード 1 (lost connection synchronization) ・エラーサブコード 2 (bad length) ・エラーサブコード 3 (bad message type) 2. エラーコード 2 (Open Message Error) ・エラーサブコード 0 (unspecified error) ・エラーサブコード 1 (unsupported version) ・エラーサブコード 2 (bad AS number) ・エラーサブコード 3 (bad BGP ID) ・エラーサブコード 4 (unsupported optional parameter) ・エラーサブコード 6 (unacceptable holdtime) ・エラーサブコード 7 (unsupported capability) 3. エラーコード 3 (Update Message Error)

項番	メッセージテキスト	内容
		・エラーサブコード 1 (invalid attribute list) ・エラーサブコード 2 (unknown well known attribute) ・エラーサブコード 3 (missing well known attribute) ・エラーサブコード 4 (attribute flags error) ・エラーサブコード 5 (bad attribute length) ・エラーサブコード 6 (bad ORIGIN attribute) ・エラーサブコード 7 (AS loop detected) ・エラーサブコード 8 (invalid NEXT_HOP) ・エラーサブコード 9 (error with optional attribute) ・エラーサブコード 10 (bad address/prefix field) ・エラーサブコード 11 (AS path attribute problem) 4. エラーコード 4 (Hold Timer Expired Error) 5. エラーコード 5 (Finite State Machine Error) 6. エラーコード 6 (Cease) ・不正な<code>の場合<code string>は"invalid"を、不正な<subcode>の場合<subcode string>は"unknown"を表示します。 ・<value>または<data>に NOTIFICATION メッセージのデータフィールドの情報を表示します。 <value> 10 進表示 <data> 16 進表示 [対応] ネットワーク構成およびコンフィグレーションを調査してください。
87	BGP4+: No MD5 digest from <source ipv6> +<port no.> to <destination ipv6> +<port no.>	ワーニング (相手装置) BGP4+コネクションで受信した TCP セグメントに MD5 認証オプションが設定されていません。 この運用メッセージは、次の契機で出力されます。 1. 最初の事象発生から 16 回目までは、すべて出力されます。 2. 最初の事象発生から 17 回目以降は、256 回事象が発生するごとに 1 回出力されます。 3. 最後の事象発生から 3 分間以上経過してから事象が発生した場合は、上記 1., 2. の契機で出力されます。 ただし、上記回数には、「BGP4+: Invalid MD5 digest from <source ipv6> +<port no.> to <destination ipv6> +<port no.>」の回数を含みます。 [メッセージテキストの表示説明] <source ipv6> 送信元 IPv6 アドレス <port no.> TCP ポート番号 <destination ipv6> 宛先 IPv6 アドレス [対応] 相手装置の BGP4+で MD5 認証が設定されているか調査してください。 設定されていない場合は、MD5 認証の設定が一致するように設定してください。 設定が一致している場合は、送信元 BGP4+ピア以外から TCP セグメントが送信されていないか調査してください。

項番	メッセージテキスト	内容
88	BGP4+: Invalid MD5 digest from <source ipv6>+<port no.> to <destination ipv6>+<port no.>	ワーニング（自装置／相手装置） BGP4+コネクションで受信した TCP セグメントの MD5 認証オプションが不正です。 この運用メッセージは、次の契機で出力されます。 1. 最初の事象発生から 16 回目までは、すべて出力されます。 2. 最初の事象発生から 17 回目以降は、256 回事象が発生するごとに 1 回出力されます。 3. 最後の事象発生から 3 分以上経過してから事象が発生した場合は、上記 1., 2. の契機で出力されます。 ただし、上記回数には、「BGP4+: No MD5 digest from <source ipv6>+<port no.> to <destination ipv6>+<port no.>」の回数を含みます。 [メッセージテキストの表示説明] <source ipv6> 送信元 IPv6 アドレス <destination ipv6> 宛先 IPv6 アドレス <port no.> TCP ポート番号 [対応] 自装置と相手装置の BGP4+で MD5 認証キーが一致しているか調査してください。 MD5 認証キーが一致していない場合は、MD5 認証キーが一致するように設定してください。 MD5 認証キーが一致している場合は、送信元 BGP4+ピア以外から TCP セグメントが送信されていないか調査してください。
89	BGP4+: Number of prefix received from <bgp name> [(<description>)]: reached <routes1>, limit <routes2>	ワーニング（相手装置） 該当ピアから学習した経路数（アクティブ経路と非アクティブ経路の合計）が閾値を超えました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <routes1> ピアから学習した経路数 <routes2> ピアから学習する経路数の上限値 [対応] 該当ピアから学習する経路がさらに増加する場合は、ピアが広告する経路数を調査してください。
90	BGP4+: Number of prefix received from <bgp name> [(<description>)]: <routes1> exceed limit <routes2>	ワーニング（相手装置） 該当ピアから学習した経路数（アクティブ経路と非アクティブ経路の合計）が上限値を超えました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <routes1> ピアから学習した経路数 <routes2> ピアから学習する経路数の上限値 [対応] 該当ピアが広告する経路数を調査してください。

項番	メッセージテキスト	内容
91	BGP4+: Peer <bgp name> [(<description>)]: Closed connection by maximum-prefix	情報（相手装置） 学習経路数の制限によって BGP4+コネクションをクローズしました。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 接続先ピア名称 <description> 接続先ピア description 名称 [対応] 該当ピアが広告する経路数を調査してください。 ピアを再接続する場合は、ピアが広告する経路数が上限値以下になることを確認してから、clear ipv6 bgp コマンドを入力してください。
92	BGP4+: Peer <bgp name> [(<description>)] UPDATE included attribute type code (0) [- AS Path (<as number>): <aspath>]	ワーニング（相手装置） 該当ピアからタイプコードが 0 のパス属性を含む UPDATE メッセージを受信しました。 本運用メッセージは同一ピアにおいて前回の出力から 1 時間以内は再度出力しません。 [メッセージテキストの表示説明] <bgp name> 送信元ピア名称 <description> 送信元ピア description 名称 <as number> AS 番号の数 <aspath> AS パス - AS 番号列：AS_SEQ {AS 番号列}：AS_SET (AS 番号列)：AS_CONFED_SEQUENCE なお、一つの運用メッセージで出力できる文字数には制限があるため、すべての AS パスが出力されない（AS 番号の途中までしか出力されない）ことがあります。 [対応] ピアのユニキャストルーティングプログラム(BGP4+)を調査してください。

3.3.4 IPv6 ユニキャストルーティングプロトコル共通

「3.2.4 IPv4 ユニキャストルーティングプロトコル共通」を参照してください。

3.4 IPv6 ルーティング情報(RTM)

3.4.1 RA

IPv6 ルーティング情報 (RTM) のイベント情報を次の表に示します。

表 3-9 IPv6 ルーティング (RA) イベント情報

項番	メッセージテキスト	内容
1	rs_input: Cannot locate interface for RS from <address1> to <address2>	エラー (自装置)
		受信したルータ要求に対応するインタフェースを見つけることができないので、そのルータ要求を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <address1> ルータ要求送信元アドレス <address2> ルータ要求宛先アドレス [対応] 頻繁に出る場合は、そのインタフェースの状態を調査してください。
2	rs_input: ND option check failed for an RS from <address> on <interface name>	エラー (相手装置)
		該当アドレスからのルータ要求に対する ND オプションチェックに失敗したので、そのルータ要求を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <address> ルータ要求送信元アドレス <interface name> ルータ要求受信インタフェース名称 [対応] ルータ要求送信元端末で、ルータ要求の設定を調査してください。
3	rs_input: RS from unspecified src on <interface name> has a link-layer address option	エラー (相手装置)
		未指定アドレス (::) からのルータ要求にリンクレイヤアドレスオプションが設定されているので、そのルータ要求を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <interface name> ルータ要求受信インタフェース名称 [対応] ルータ要求送信元端末で、ルータ要求の設定を調査してください。
4	rs_input: RS received on non advertising interface(<interface name>)	ワーニング (自装置)
		ルータ広告を行わないインタフェースでルータ要求を受信したので、そのルータ要求を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <interface name> ルータ要求受信インタフェース名称 [対応] そのルータ要求に応答する必要がある場合は、そのインタフェースでルータ広告を有効にしてください。
5	rs_input: RS with invalid hop limit(<hop limit>) received from <address> on <interface name>	エラー
		受信したルータ要求パケットのホップリミットが正しい値 (255) ではないため、ルータ要求を無視します。

項番	メッセージテキスト	内容
		[メッセージテキストの表示説明] <hop limit> 受信ルータ要求メッセージホップリミット値 <address> ルータ要求送信元アドレス <interface name> ルータ要求受信インタフェース名称 [対応] ルータ要求を送信する端末の設定を調査してください。
6	rs_input: RS with invalid ICMP6 code(<code>) received from <address> on <interface name>	エラー 受信したルータ要求パケットの ICMP6 コードが正しい値 (0) ではないため、ルータ要求を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <code> 受信ルータ要求メッセージ ICMP6 コード値 <address> ルータ要求送信元アドレス <interface name> ルータ要求受信インタフェース名称 [対応] ルータ要求を送信する端末の設定を調査してください。
7	rs_input: RS from <address> on <interface name> does not have enough length (len = <length>)	エラー 受信したルータ要求パケットが短いため、ルータ要求を無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <address> ルータ要求送信元アドレス <interface name> ルータ要求受信インタフェース名称 <length> 受信ルータ要求パケット長 [対応] ルータ要求を送信する端末の設定を調査してください。
8	nd6_options: bad ND option length(0) (type = <type>)	エラー (相手装置) ND オプションの長さが不正です。 [メッセージテキストの表示説明] <type> 受信した ND オプションタイプ番号 [対応] 付随して出力される rs_input, ra_input のエラーの対応をしてください。
9	ra_output: Cannot send RA for I/F <interface name> (lack of active linklocal addr)	エラー (自装置) 該当するインタフェースに有効なリンクローカルアドレスが存在しないので、ルータ広告が送信できません。 [メッセージテキストの表示説明] <interface name> ルータ広告送信インタフェース名称 [対応] 頻繁に発生する場合は、そのインタフェースの状態を確認してください。
10	ra_output: Cannot send RA for I/F <interface name>	エラー (自装置) 該当するインタフェースよりルータ広告が送信できません。 [メッセージテキストの表示説明] <interface name> ルータ広告送信インタフェース名称

項番	メッセージテキスト	内容
		[対応] 頻繁に発生する場合は、そのインタフェースの状態を確認してください。
11	ra_output: not send RA for I/F <interface name> (linkmtu <value own> is greater than the physical interface MTU <phymtu>)	ワーニング（自装置） 該当インタフェースの MTU 長を超える値を指定しているので、ルータ広告は出力されません。 [メッセージテキストの表示説明] <interface name> ルータ広告送信インタフェース名称 <value own> 自装置の MTU オプション値 <phymtu> 該当インタフェースの物理 MTU 長 [対応] ルータ広告を送信するルータの設定を調査してください。

3.5 IPv4 マルチキャストルーティング情報(MRP)

3.5.1 PIM-SM

IPv4 ルーティング情報 (MRP) のイベント情報を次の表に示します。

表 3-10 IPv4 マルチキャストルーティング (PIM-SM) イベント情報

項番	メッセージテキスト	内容
1	IGMP: received packet too short (<length> bytes) for IP header	エラー (相手装置)
		IP ヘッダよりも小さいパケットを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length> 受信サイズ [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
2	IGMP: received packet (<length1> bytes) from <source address> shorter than header + data length (<length2> + <length3> bytes)	エラー (相手装置)
		IP ヘッダ内で設定されているデータ長より小さいパケットを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length1> 受信サイズ <source address> 送信元 IPv4 アドレス <length2> 受信した IP ヘッダのサイズ <length3> 受信した IP パケットのデータサイズ [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
3	IGMP: received IP data field too short (<length> bytes) for IGMP header, from <source address> to <destination address>	エラー (相手装置)
		IGMP ヘッダ長 (8) より小さいパケットを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length> 受信した IP パケットのデータサイズ <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
4	IGMP: ignoring packet from <source address> to <destination address> - invalid igmp header checksum (data '<data>', length '<length>')	エラー (相手装置)
		IGMP ヘッダのチェックサムエラーによって、受信 IGMP パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス <data> IGMP 受信データの先頭 1 バイト (パケット種別) の内容

項 番	メッセージテキスト	内容
		<length> IGMP 受信データ長 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
5	IGMP: ignoring <packet> from <source address> to <destination address> - invalid group address '<group address>'	エラー（相手装置） パケット内のグループアドレスが不正のため、受信 IGMP パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <packet> パケット種別 • "Group Membership Report", "Group Leave Report" <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス <group address> 受信グループアドレス [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
6	IGMP: Querier was changed on interface <interface name> - new querier <querier ip address> (was <old querier ip address>)	イベント（自装置） インタフェース上で、Querier ルータが変わりました。 [メッセージテキストの表示説明] <interface name> インタフェース名 <querier ip address> Querier IPv4 アドレス <old querier ip address> 前回の Querier IPv4 アドレス [対応] なし。
7	PIM: received packet too short (<length> bytes) for IP header	エラー（相手装置） IP ヘッダよりも小さいパケットを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length> 受信サイズ [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャストルーティングプログラム（PIM-SM）を調査してください。
8	PIM: received packet (<length1> bytes) from <source address> shorter than header + data length (<length2> + <length3> bytes)	エラー（相手装置） IP ヘッダ内で設定されているデータ長より小さいパケットを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length1> 受信サイズ <source address> 送信元 IPv4 アドレス <length2> 受信した IP ヘッダのサイズ <length3> 受信した IP パケットのデータサイズ [対応]

項番	メッセージテキスト	内容
		相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャストルーティングプログラム (PIM-SM) を調査してください。
9	PIM: received IP data field too short (<length> bytes) for PIM header, from <source address> to <destination address>	エラー (相手装置) PIM ヘッダ長 (4) より小さいパケットを受信しました。 [メッセージテキストの表示説明] <length> 受信した IP パケットのデータサイズ <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャストルーティングプログラム (PIM-SM) を調査してください。
10	PIM: ignoring packet from <source address> to <destination address> - invalid pim header checksum (data '<data>', length '<length>')	エラー (相手装置) PIM ヘッダのチェックサムエラーによって、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス <data> PIM 受信データの先頭バイト (パケット種別) の内容 <length> PIM 受信データ長 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャストルーティングプログラム (PIM-SM) を調査してください。
11	PIM: ignoring <packet> message from <source address> to <destination address> - packet too short (<length> bytes)	エラー (相手装置) パケットサイズが最小パケット長より小さいため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <packet> パケット種別 "Register", "Register-Stop", "Join/Prune", "Assert", "Bootstrap", "Candidate-RP-Advertisement" <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス <length> PIM 受信データ長 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャストルーティングプログラム (PIM-SM) を調査してください。
12	PIM: ignoring <packet> message from <source address> to <destination	エラー (相手装置) パケット内のエンコーディングユニキャストアドレスが不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。

項番	メッセージテキスト	内容
	address> - invalid encoded unicast address (<cause>)	[メッセージテキストの表示説明] <packet> パケット種別 • "Register-Stop", "Join/Prune", "Assert", "Bootstrap", "Candidate-RP-Advertisement" <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス <cause> 詳細要因 • address family '<value>' アドレスファミリー<value>が不正(1 以外) • encoding type '<value>' エンコーディングタイプ<value>が不正(0 以外) • source address '<address>' 送信元 IPv4 アドレス<address>が不正 • upstream neighbor address '<address>' 上流隣接 IPv4 アドレス<address>が不正 • BSR address '<address>' BSR アドレス<address>が不正 • RP address '<address>' ランデブーポイントアドレス<address>が不正 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャストルーティングプログラム (PIM-SM) を調査してください。
13	PIM: ignoring <packet> message from <source address> to <destination address> - invalid encoded source address (<cause>)	エラー (相手装置) パケット内のエンコーディング送信元 IPv4 アドレスが不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <packet> パケット種別 • "Join/Prune" <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス <cause> 詳細要因 • address family '<value>' アドレスファミリー<value>が不正(1 以外) • encoding type '<value>' エンコーディングタイプ<value>が不正(0 以外) [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャストルーティングプログラム (PIM-SM) を調査してください。
14	PIM: ignoring <packet> message from <source address> to <destination	エラー (相手装置) パケット内のエンコーディンググループアドレスが不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明]

項番	メッセージテキスト	内容
	address> - invalid encoded group address (<cause>)	<packet> パケット種別 • "Register-Stop", "Join/Prune", "Assert", "Bootstrap", "Candidate-RP-Advertisement" <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス <cause> 詳細要因 • address family '<value>' アドレスファミリ<value>が不正(1 以外) • encoding type '<value>' エンコーディングタイプ<value>が不正(0 以外) • mask length '<value>' グループマスク長<value>が不正(4 以上 32 以下ではない) • group address '<address>' グループアドレス<address>が不正 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャストルーティングプログラム (PIM-SM) を調査してください。
15	PIM: ignoring Hello message from <source address> - invalid holdtime option length (<length>)	エラー (相手装置) Hello パケット内の holdtime オプション長が不正 (2 以外) のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv4 アドレス <length> 受信 holdtime オプション長 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャストルーティングプログラム (PIM-SM) を調査してください。
16	PIM: ignoring Hello message from <source address> - no holdtime option	エラー (相手装置) Hello パケット内に holdtime オプションがないため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv4 アドレス [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャストルーティングプログラム (PIM-SM) を調査してください。
17	PIM: ignoring Register message from <source address> to <destination address> - invalid inner source address '<inner source address>'	エラー (相手装置) Register パケットでカプセル化された IP パケットの送信元 IPv4 アドレスが不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス

項番	メッセージテキスト	内容
		<inner source address> カプセル化内送信元 IPv4 アドレス [対応] マルチキャストデータ送信元が不正なパケットを送信しています。 マルチキャストデータ送信元の IPv4 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
18	PIM: ignoring Register message from <source address> to <destination address> - invalid inner group address '<inner group address>'	エラー（相手装置） Register パケットでカプセル化された IP パケットのグループアドレスが不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス <inner group address> カプセル化内グループアドレス [対応] マルチキャストデータ送信元が不正なパケットを送信しています。 マルチキャストデータ送信元の IPv4 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。 カプセル化内グループアドレスが PIM-SSM の範囲に含まれる場合、相手装置の PIM-SSM 設定を調査してください。
19	PIM: ignoring Bootstrap message from <source address> to <destination address> - invalid hash mask length '<value>'	エラー（相手装置） Bootstrap パケット内のハッシュマスク長が不正（33 以上）のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv4 アドレス <destination address> 宛先 IPv4 アドレス <value> 受信パケットに設定されたハッシュマスク長 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv4 マルチキャストルーティングプログラム（PIM-SM）を調査してください。
20	PIM: BSR information was changed - lost BSR information	ワーニング（相手装置） Bootstrap ルータからの広告がなくなったため、BSR 情報をクリアしました。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] Bootstrap ルータからの広告がなくなった要因を調査してください。
21	PIM: BSR information was changed - new BSR address <ip address>	イベント（自装置） BSR アドレスが変更されました。 [メッセージテキストの表示説明] <ip address> BSR アドレス BSR アドレスが本装置の場合は、IPv4 アドレスの後に"(this system)"が表示されます。

3 メッセージテキスト形式

項 番	メッセージテキスト	内容
		[対応] なし。

3.6 IPv6 マルチキャストルーティング情報(MR6)

3.6.1 IPv6 PIM-SM

IPv6 ルーティング情報 (MR6) のイベント情報を次の表に示します。

表 3-11 IPv6 マルチキャストルーティング (PIM-SM) イベント情報

項番	メッセージテキスト	内容
1	MLD: ignoring <packet> from <source address> - invalid scope <group address>	エラー (相手装置)
		MLD パケットに含まれるグループアドレスが不適切なスコープ (ノードローカル, リンクローカル) のため, MLD パケットを無視します。 [メッセージテキストの表示説明] <packet> パケット種別 "Multicast Listener Query", "Multicast Listener Report", "Multicast Listener Done", "MLDv2 Multicast Listener Report" <source address> 送信元 IPv6 アドレス <group address> MLD グループアドレス [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv6 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
2	MLD: ignoring <packet> from <source address> - message received from a non linklocal address	エラー (相手装置)
		非リンクローカルアドレスをソースに持つ MLD パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <packet> パケット種別 "Multicast Listener Query" <source address> 送信元 IPv6 アドレス [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv6 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
3	MLD: Querier was changed on interface <interface name> - new querier <querier ipv6 address> (was <old querier ipv6 address>)	イベント (自装置)
		インタフェース上で, Querier ルータが変わりました。 [メッセージテキストの表示説明] <interface name> インタフェース名 <querier ipv6 address> Querier IPv6 アドレス - Querier IPv6 アドレスが本装置の場合は, "(this system)"を表示します。 <old querier ipv6 address> 前回の Querier IPv6 アドレス - 前回の Querier IPv6 アドレスが本装置の場合は, "(this system)"を表示します。 [対応] なし。

項番	メッセージテキスト	内容
4	PIM: ignoring <packet> message from <source address> - packet too short (<length> bytes)	エラー（相手装置） パケットサイズが最小パケット長より小さいため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <packet> パケット種別 "Hello", "Register", "Register-Stop", "Join/Prune", "Assert", "Bootstrap", "Candidate-RP-Advertisement" <source address> 送信元 IPv6 アドレス <length> PIM 受信データ長 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv6 マルチキャストルーティングプログラム (IPv6 PIM-SM) を調査してください。
5	PIM: ignoring <packet> message from <source address> - invalid encoded unicast address (<cause>)	エラー（相手装置） パケット内のエンコーディングユニキャストアドレスが不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <packet> パケット種別 "Hello", "Register-Stop", "Join/Prune", "Assert", "Bootstrap", "Candidate-RP-Advertisement" <source address> 送信元 IPv6 アドレス <cause> 詳細要因 - address family '<value>' アドレスファミリ<value>が不正 (2 以外) - encoding type '<value>' エンコーディングタイプ<value>が不正 (0 以外) - source address '<address>' 送信元アドレス<address>が不正 - upstream neighbor address '<address>' 上流隣接アドレス<address>が不正 - BSR address '<address>' BSR アドレス<address>が不正 - RP address '<address>' ランデブーポイントアドレス<address>が不正 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv6 マルチキャストルーティングプログラム (IPv6 PIM-SM) を調査してください。
6	PIM: ignoring <packet> message from <source address> - invalid encoded source address (<cause>)	エラー（相手装置） パケット内のエンコーディングソースアドレスが不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <packet> パケット種別 "Join/Prune"

項番	メッセージテキスト	内容
		<source address> 送信元 IPv6 アドレス <cause> 詳細要因 • address family '<value>' アドレスファミリー<value>が不正(2 以外) • encoding type '<value>' エンコーディングタイプ<value>が不正(0 以外) [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv6 マルチキャストルーティングプログラム (IPv6 PIM-SM) を調査してください。
7	PIM: ignoring <packet> message from <source address> - invalid encoded group address (<cause>)	エラー (相手装置) パケット内のエンコーディンググループアドレスが不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <packet> パケット種別 • "Register-Stop", "Join/Prune", "Assert", "Bootstrap", "Candidate-RP-Advertisement" <source address> 送信元 IPv6 アドレス <cause> 詳細要因 • address family '<value>' アドレスファミリー<value>が不正(2 以外) • encoding type '<value>' エンコーディングタイプ<value>が不正(0 以外) • mask length '<value>' グループマスク長<value>が不正(8 以上 128 以下でない) • group address '<address>' グループアドレス<address>が不正 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv6 マルチキャストルーティングプログラム (IPv6 PIM-SM) を調査してください。
8	PIM: ignoring Hello message from <source address> - invalid holdtime option length (<length>)	エラー (相手装置) Hello パケット内の holdtime オプション長が不正(2 以外)のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv6 アドレス <length> 受信 holdtime オプション長 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv6 マルチキャストルーティングプログラム (IPv6 PIM-SM) を調査してください。
9	PIM: ignoring Hello message from <source address> - no holdtime option	エラー (相手装置)

項番	メッセージテキスト	内容
		Hello パケット内に holdtime オプションがないため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv6 アドレス [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv6 マルチキャストルーティングプログラム (IPv6 PIM-SM) を調査してください。
10	PIM: ignoring Register message from <source address> - invalid inner source address '<inner source address>'	エラー (相手装置) Register パケットでカプセル化された IPv6 パケットのソースアドレスが不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv6 アドレス <inner source address> カプセル化内送信元アドレス [対応] マルチキャストデータ送信元が不正なパケットを送信しています。 マルチキャストデータ送信元の IPv6 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
11	PIM: ignoring Register message from <source address> - invalid inner source address scope '<inner source address>'	エラー (相手装置) Register パケットでカプセル化された IPv6 パケットの送信元アドレスの範囲が不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv6 アドレス <inner source address> カプセル化内送信元アドレス [対応] マルチキャストデータ送信元が不正なパケットを送信しています。 マルチキャストデータ送信元の IPv6 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
12	PIM: ignoring Register message from <source address> - invalid inner group address '<inner group address>'	エラー (相手装置) Register パケットでカプセル化された IPv6 パケットのグループアドレスが不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv6 アドレス <inner group address> カプセル化内グループアドレス [対応] マルチキャストデータ送信元が不正なパケットを送信しています。 マルチキャストデータ送信元の IPv6 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
13	PIM: ignoring Register message from <source address> - invalid inner group address scope '<inner group address>'	エラー (相手装置) Register パケットでカプセル化された IPv6 パケットのグループアドレスの範囲が不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明]

項番	メッセージテキスト	内容
		<source address> 送信元 IPv6 アドレス <inner group address> カプセル化内グループアドレス [対応] マルチキャストデータ送信元が不正なパケットを送信しています。 マルチキャストデータ送信元の IPv6 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
14	PIM: ignoring Register message from <source address> - invalid inner IP version '<version>'	エラー（相手装置） Register パケットでカプセル化された IPv6 パケットのバージョンが 6 ではないため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv6 アドレス <version> カプセル化内 IP パケットバージョン [対応] マルチキャストデータ送信元が不正なパケットを送信しています。 マルチキャストデータ送信元の IPv6 マルチキャスト通信プログラムを調査してください。
15	PIM: ignoring Bootstrap message from <source address> - invalid hash mask length '<value>'	エラー（相手装置） Bootstrap パケット内のハッシュマスク長が不正（129 以上）のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv6 アドレス <value> 受信パケットに設定されたハッシュマスク長 [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv6 マルチキャストルーティングプログラム（IPv6 PIM-SM）を調査してください。
16	PIM: ignoring Bootstrap message from <source address> - invalid BSR address '<ipv6 address>'	エラー（相手装置） Bootstrap パケット内の BSR アドレス不正のため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv6 アドレス <ipv6 address> BSR アドレス [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv6 マルチキャストルーティングプログラム（IPv6 PIM-SM）を調査してください。
17	PIM: ignoring Bootstrap message from <source address> - cannot find a route to the BSR(<ipv6 address>)	ワーニング（自装置） Bootstrap パケット内の BSR アドレスへのユニキャスト経路が見つからないため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv6 アドレス <ipv6 address> BSR アドレス

項番	メッセージテキスト	内容
		[対応] Bootstrap パケット内の BSR アドレスへの経路が存在するか確認してください。
18	PIM: ignoring Candidate-RP-Advertisement message from <source address> - non global address(<ipv6 address>) as RP	エラー（相手装置） Candidate-RP-Advertisement パケット内に含まれるランデブーポイントアドレスが不正なため、受信 PIM パケットを無視しました。 [メッセージテキストの表示説明] <source address> 送信元 IPv6 アドレス <ipv6 address> ランデブーポイントアドレス [対応] 相手装置が不正なパケットを送信しています。 相手装置の IPv6 マルチキャストルーティングプログラム（IPv6 PIM-SM）を調査してください。
19	PIM: BSR information was changed - lost BSR information	ワーニング（相手装置） Bootstrap ルータからの広告がなくなったため、BSR 情報をクリアしました。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] Bootstrap ルータからの広告がなくなった要因を調査してください。
20	PIM: BSR information was changed - new BSR address <ipv6 address>	イベント（自装置） BSR アドレスが変更されました。 [メッセージテキストの表示説明] <ipv6 address> BSR アドレス BSR アドレスが本装置の場合は、IPv6 アドレスの後に"(this system)"が表示されます。 [対応] なし。
21	PIM: Add interface <interface name> to the output interface list of (S,G)=(<source address>, <group address>)	イベント（自装置） マルチキャストルーティングキャッシュ (S,G) の出力インタフェースリストにインタフェース<interface name>を追加しました（本メッセージは syslog にだけ出力されます）。 [メッセージテキストの表示説明] <interface name> インタフェース名 <source address> 送信元 IPv6 アドレス <group address> IPv6 グループアドレス [対応] なし。
22	PIM: Delete interface <interface name> from the output interface list of	イベント（自装置）

項 番	メッセージテキスト	内容
	(S,G)=(<source address>, <group address>)	マルチキャストルーティングキャッシュ (S,G) の出力インタフェースリストからインタフェース<interface name>を削除しました（本メッセージは syslog にだけ出力されます）。 [メッセージテキストの表示説明] <interface name> インタフェース名 <source address> 送信元 IPv6 アドレス <group address> IPv6 グループアドレス [対応] なし。

索引

A

ACCESS 56

B

BGP4 119
BGP4+ 152

C

CONFIG 54

E

EQUIPMENT 14

F

FAN 20

I

IP 103
IPv4 マルチキャストルーティング情報(MRP) 178
IPv4 ユニキャストルーティングプロトコル共通
[IPv4 ルーティング情報 (RTM)] 143
IPv4 ルーティングプロトコル情報(RTM) 111
IPv6 PIM-SM 185
IPv6 マルチキャストルーティング情報(MR6) 185
IPv6 ユニキャストルーティングプロトコル共通
[IPv6 ルーティング情報 (RTM)] 174
IPv6 ルーティング情報(RTM) 175
IPv6 ルーティングプロトコル情報(RTM) 145

M

MAC 68

O

OSPF 115
OSPFv3 147

P

PIM-SM 178
PORT 62
PS 18

R

RA 175
RIP 111
RIPng 145

S

SOFTWARE 21
SOFTWARE (認証 VLAN) 52

U

ULR 97

V

VLAN 73

い

イベント発生インタフェース識別子 9
イベント発生部位 9
イベント発生部位形式 13
イベントレベル 8

う

運用メッセージ 1, 2
運用ログと種別ログ 3
運用ログと種別ログの仕様 4
運用ログのフォーマット 7

し

種別ログのフォーマット 7

と

トラッキングオブジェクトログ(TRO) 110

め

メッセージテキスト形式 109
メッセージの種類 2
メッセージの種類と参照先 2

ろ

ログの自動保存 4
ログのファイル作成方法 5